

主要地方道田所国府線有福温泉工区地方道改築（改良）事業に伴う遺跡発掘調査報告書

どう にわ い せき
堂 庭 遺 跡

平成16年3月

島根県浜田土木建築事務所
江津市教育委員会

主要地方道田所国府線有福温泉工区地方道改築（改良）事業に伴う遺跡発掘調査報告書

どう にわ い せき
堂 庭 遺 跡

平成16年3月

島根県浜田土木建築事務所
江津市教育委員会



溝状遺跡 E→W

巻頭写真図版2



土器溜り1 S→N



土器溜り1 遺物

序

日本海に面して位置する江津市は、中国地方最大の河川である「江の川」により東西に2分され、それぞれ江東地域、江西地域と呼ばれています。江の川は広島県三次市に源を発し、その河口に位置する江津は古来より山陽と日本海を結ぶ交通の要衝として機能していました。

今回調査を行なった有福温泉町は、白雉2年（651）法道上人によって発見されたと伝えられている上質の源泉が湧き出ており、今でも情緒あふれる温泉街が皆様に安らぎの場を提供しています。また、市指定文化財の「上有福のイチョウ」にまつわる伝説として、神代の昔、天の神様が雌雄2粒の銀杏を落とし雌木の所を都にすると言わたが、ここの木は雄木で有福は都になれなかつたという話があります。福泉寺には県指定文化財になっている新羅時代の金銅觀音菩薩坐像が秘蔵されており、加志岐川下流の敬川町「古八幡付近遺跡」で調査された統一新羅土器などと共に、古代の江津と朝鮮半島との交流を考える上で貴重な資料となっております。

今回、有福温泉町で行なわれた初めての埋蔵文化財調査となりました「堂庭遺跡」ですが、中国地方でも数例しか確認されていない古墳時代のはたけが検出され、江津市の古代史を解明する基礎資料として、また西日本の農耕文化研究において貴重な資料となりました。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただきました関係者ならびに、応援してくださった市民の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月

江津市教育委員会
教育長 野 上 公 司

例　　言

1. 本書は、島根県浜田土木建築事務所が実施した主要地方道田所国府線有福温泉工区地方道改築（改良）事業に伴い、江津市教育委員会により平成 15 年度に行われた堂庭遺跡発掘調査における本報告書である。
2. 発掘調査は、島根県浜田土木建築事務所の委託により江津市が実施した。
3. 本遺跡の調査履歴は以下のとおりである。
平成 14 年度 分布調査及び試掘調査
平成 15 年度 堂庭遺跡本発掘調査
4. 調査体制は次のとおりである。

事務局 江津市教育委員会

事務局	野上　公司	教育長
事務局	的場　溥勝	生涯学習課長
事務局	林　正司	同　係長
調査担当	梅木　茂雄	同　主任主事
事務補助	福本　和世子	同　臨時職員
調査補助	澤津　孝	同　臨時職員
調査補助	無川　美和子	同　臨時職員
調査協力者	石山広重、上本忠行、大野初恵、大屋徳仁、小川正友、熊野操、郷原治、坂村昇平、高橋則明、槌井信子、永見義隆、野沢淳、松島真直、松原標倪、横田泰、入野時雄、長瀬清、山崎加津栄、山下幸子、山田ゆう子、藤本淳子、上野由美恵	

5. 調査及び報告書作成に際し、次の組織・個人に指導・助言をいただいた。記して感謝する。
島根県教育委員会文化財課・島根県埋蔵文化財調査センター・渡邊正巳
6. 報告書の作成は以下の者が携わった。（五十音）
上野由美恵、梅木茂雄、上手文子、澤津孝、胞森三鈴、無川美和子、藤本淳子、山田ゆう子
7. 報告書記載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

今回の報告に当たり、諸処の制約により非常に使い辛い報告書となつたことをお詫びする。

本文目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 位置と歴史的環境	1
第3章 調査の概要	3
第4章 調査の結果	4
第1節 試掘調査	4
第2節 I 区の調査	4
第3節 II 区の調査	4
1、基本層序	4
2、第2面の調査	5
1) 建物	5
3、第4面の調査	6
1) 溝状遺構	6
2) 土坑	6
3) 石組み遺構	6
4、第8・9面の調査	6
5、X 面の調査	7
6、第10面の調査	7
5、第11の調査	7
1) はたけ	7
第4節 遺物	8
1) 石器	8
2) 繩文土器・弥生土器・土師器・中世土師器	8
3) 須恵器	9
4) 陶磁器	10
5) その他	11
第5章 まとめ	11
第1節 はたけについて	11
第2節 古墳時代から奈良時代の炊飯具について	12
第6章 科学分析	15

表 目 次

- 第 1 表 江津市西部の遺跡一覧表
- 第 2 表 建物計測表
- 第 3 表 出土遺物観察表
- 第 4 表 道構計測表
- 第 5 表 石器計測表
- 第 6 表 出土遺物分類表

挿 図 目 次

- 第 1 図 江津市西部の遺跡 (S=1/50000)
- 第 2 図 堂庭遺跡周辺地形図 (S=1/2500)
- 第 3 図 トレンチ配置図 (S=1/1000)、土層図 (S=1/60)
- 第 4 図 1 区全体図 (S=1/200)、土層図 (1/60)
- 第 5 図 2 区第 1 面全体図 (S=1/200)、2 区 10 層全体図 (S=1/200)
- 第 6 図 2 区南壁土層図 (S=1/60)
- 第 7 図 2 区全体図 (S=1/600)、南壁土層図及び基本層序 (S=1/60)
- 第 8 図 2 区第 1 面建物 1 実測図 (S=1/60)
- 第 9 図 2 区第 4 面平面図 (S=1/100)、土坑 1 (S=1/40)
- 第 10 図 2 区第 4 面石組み遺構配置図 (S=1/100)、土層図 (S=1/60)
- 第 11 図 2 区第 4 面石組み道構平面図、立面図 (S=1/40)
- 第 12 図 2 区第 4 面石組み遺構平面図 (S=1/100)、土坑 2 土層図 (S=1/60)
- 第 13 図 2 区第 8・9 面平面図 (S=1/200)
- 第 14 図 2 区 10 層構造横断面図、断面図、見通し図 (S=1/60)、土坑 3 実測図 (S=1/20)
- 第 15 図 2 区 10 層土器溜り 1 平面図、見通し図 (S=1/10)
- 第 16 図 2 区 10 層土器溜り 1 遺物出土状況
- 第 17 図 2 区第 10 面遺構平面図 (S=1/60)
- 第 18 図 2 区第 10 面土坑 4、土器溜り 2 実測図 (S=1/20)
- 第 19 図 2 区第 11 面土坑 5・6 実測図 (S=1/60)
- 第 20 図 有福温泉町本明出土須恵器 地図 (S=1/30000)、実測図 (S=1/6)
- 第 21 図 遺物実測図① (S=1/1, 1/2)
- 第 22 図 遺物実測図② (S=1/3)
- 第 23 図 遺物実測図③ (S=1/3)
- 第 24 図 遺物実測図④ (S=1/3)
- 第 25 図 遺物実測図⑤ (S=1/3)
- 第 26 図 遺物実測図⑥ (S=1/3)
- 第 27 図 遺物実測図⑦ (S=1/1, 1/2, 1/3)

写 真 図 版 目 次

- 卷頭写真図版 1 溝状遺構 E → W
- 卷頭写真図版 2 上 土器溜り 1 S → N
- 卷頭写真図版 2 下 土器溜り 1 遺物

- 写真図版 1 堂庭遺跡及び周辺 W → E
- 写真図版 2 上 堂庭遺跡全景 N → S
- 写真図版 2 下 堂庭遺跡周辺 E → W、堂庭遺跡及び周辺 W → E
- 写真図版 3 上 溝状遺構
- 写真図版 3 下 2 区全景、2 区全景 W → E
- 写真図版 4 上 1 区調査前 W → E、1 区調査前 E → W
- 写真図版 4 下 1 区土層堆積状況 E → W
- 写真図版 5 上 2 区南壁上層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 5 下 2 区南壁土層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 6 上 2 区南壁土層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 6 下 2 区南壁土層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 7 上 2 区南壁土層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 7 下 2 区南壁上層堆積状況 N → S (第 7 図)
- 写真図版 8 上 2 区南壁土層堆積状況 N → S (第 7 図)

写真図版 8	下	2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)
写真図版 9	上	2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)
写真図版 9	下	2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)
写真図版10	上	2区南側完堀状況 N→S、2区遺構検出状況 E→S
写真図版10	中	2区建物検出状況 N→S、2区遺構完堀状況 N→S
写真図版10	下	2区南側作業風景、2区建物 P1、2区建物 P4
写真図版11	上	2区南側調査前 E→W、2区南側第1面 完堀 E→W
写真図版11	中	2区南側第1面 完堀 W→E、2区P164 半裁、2区P164 完堀
写真図版11	下	2区溝状遺構 1~5 N→S、2区土坑1 検出状況、2区土坑1 完堀
写真図版12	上	2区石組み遺構1 検出状況 N→S、2区石組み遺構1~3 検出状況 N→S
写真図版12	中	2区石組み遺構1 破石取り外し状況 N→S、2区石組み遺構1
写真図版12	下	2区石組み遺構1 完堀 N→S、2区石組み遺構1 石堆積状況 W→E
写真図版13	上	2区石組み遺構2 検出状況 N→S、2区石組み遺構2
写真図版13	中	2区石組み遺構2 破石取り外し状況 N→S、2区石組み遺構2 破石取り外し状況
写真図版13	下	2区石組み遺構2 完堀 N→S、2区石組み遺構2 石堆積状況 W→E
写真図版14	上	2区石組み遺構3 検出状況 N→S、2区石組み遺構3
写真図版14	中	2区北側土坑2 土層堆積状況 S→N (第12図)、2区石組み遺構3 石堆積状況 E→W
写真図版14	下	2区北側第8面 完堀状況 E→W
写真図版15	上	2区溝状遺構 検出状況 S→N、2区溝状遺構 検出状況 N→S
写真図版15	中	2区溝状遺構 検出状況 N→S、2区作業風景 E→W
写真図版15	下	2区溝状遺構7 検出状況 S→N、2区溝状遺構7 完堀状況 S→N
写真図版16	上	2区土坑3 N→S、2区土坑3 半裁、2区土坑3 完堀
写真図版16	下	2区溝状遺構 E→W、2区溝状遺構 W→E
写真図版17	上	2区上器溜り1 N→S
写真図版17	下	2区土器溜り1 検出状況
写真図版18	上	2区溝状遺構8・9・10 N→S
写真図版18	中	2区溝状遺構11・12・13 N→S
写真図版18	下	2区溝状遺構16・17 N→S
写真図版19	上	2区溝状遺構16・17 N→S、2区溝状遺構18 N→S
写真図版19	下	2区溝状遺構 完堀状況 E→W
写真図版20	上	2区土器溜り2 検出状況、2区土坑4 検出状況
写真図版20	中	2区第10面 土層堆積状況 E→W (第17図)、2区土坑4 完堀状況 S→N
写真図版20	下	2区第6面 完堀状況 E→W
写真図版21	上	2区土坑5 半裁 S→N、2区土坑5 完堀 S→N
写真図版21	中	2区第8面 上層堆積状況 E→W
写真図版21	下	2区土坑6 検出状況 E→W、2区土坑6 完堀 N→S
写真図版22	上	出土遺物①
写真図版22	下	出土遺物②
写真図版23	上	出土遺物③
写真図版23	下	出土遺物④
写真図版24	上	出土遺物⑤
写真図版24	下	出土遺物⑥
写真図版25	上	出土遺物⑦
写真図版25	下	出土遺物⑧
写真図版26	上	出土遺物⑨
写真図版26	下	出土遺物⑩
写真図版27	上	出土遺物⑪
写真図版27	下	出土遺物⑫
写真図版28	上	出土遺物⑬
写真図版28	下	出土遺物⑭
写真図版29	上	出土遺物⑮
写真図版29	下	出土遺物⑯
写真図版30	上	出土遺物⑰
写真図版30	下	出土遺物⑱

第1章 調査に至る経緯

平成14年6月4日に一般国道跡市波子停車場線高田工区緊急地方道路整備事業（Aタイプ）、新世紀道路ネットワーク整備事業、主要地方道田所国府線有福温泉工区地方道改築（改良）事業、新世紀道路ネットワーク整備事業に並行して島根県浜田土木建築事務所（以下浜田土木）から江津市教育委員会（以下教育委員会）が埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を受けた。すでに事業は一部進行していたため、残りの事業予定地について教育委員会による分布調査及び試掘調査を行なった。平成15年3月25日付け回答により有福温泉町堂庭地区において遺跡を発見した為、島根県教育委員会文化財課、浜田土木、教育委員会で協議を行ない、事業の公共性を考慮した結果開発も止むなしとして本発掘調査による記録保存として対応すべく平成15年5月20日付けで浜田土木と委託契約を締結した。平成15年度に本発掘調査を実施し、並行して本報告書作成に取り掛かった。現地説明会を平成15年12月21日に行い、悪天候にもかかわらず30人以上の参加者を得た。調査中の遺跡は「出前講座」により、市民への文化財保護思想の普及啓発のために活用した。

第2章 位置と歴史的環境

堂庭遺跡の位置する有福温泉町は江西地域（江津市西部）の高野山（標高約300m）を南に越えた沖積盆地を中心に展開している。盆地を形成している加志岐川は元々氾濫河川で、蛇行しながら西流し敬川に接続している。堂庭遺跡の立地は丘陵が加志岐川南岸に接する微高地で、遺跡の北側は加志岐川による侵食を受け切り立っている。調査前の遺跡と水田面との比高差は約7m、はたけを検出した位置からは5mほどの比高差を持つ。堂庭遺跡は水害の被害を受けにくい土地に位置するといえる。

以下江西地域を中心に江津の歴史を概観する。（第1図）

縄文時代

市内では、旧石器時代の遺跡は未確認である。縄文時代の遺跡としては波子遺跡が一番古く、中期の土器が出土している。性格は大平山裾のクロスナ遺物包含層で、明確な遺構は確認されていない。古八幡付近遺跡では後期の土器・黒曜石等が検出され、青山遺跡のクロスナ層からは体部破片が採取されている。堂庭遺跡では後期と思われる遺物が若干と黒曜石と安山岩を中心とした石器が多数確認できたためキャンプサイトとして利用されたと思われる。高野山西端頂上付近では、赤彩された小型扁平磨製石斧が表採されている。縄文時代遺跡のほとんどが概ね旧海岸線付近で確認されている点が注目できる。

弥生時代

前期の遺物は、波子遺跡、古八幡付近遺跡、波来浜遺跡とその周辺、などの海浜部で確認さ

れているが遺物数は少ない。また、前期にのみ當まれた遺跡は無い。中期に入ると古八幡付近遺跡の環壕集落をはじめ、稻荷山遺跡、半田浜遺跡、波来浜遺跡等、主に海岸部低丘陵上で遺物・造構が確認されている。後期に入ると確認される遺跡数は増加する。古八幡遺跡、古八幡付近遺跡、青山遺跡、半田浜遺跡、二ノ宮C遺跡、宮倉遺跡、波来浜遺跡、堂庭遺跡等であるが、継続して古墳時代前期へ移行する遺跡は少数である。また、弥生時代前期から同末期まで継続した遺跡は、現時点では古八幡付近遺跡のみである。古八幡付近遺跡では後期と思われる水田跡が調査されている。

古墳時代

前期の集落は未確認だが、中期の集落は飯田C遺跡、二ノ宮C遺跡、半田浜遺跡などが確認されており、丘陵裾を中心とした集落の立地が想定できる。前期の古墳は未確認だが、箱式石棺を持っていたといわれる行者山古墳が前期～中期古墳に該当する可能性がある。確認されている江西地域の後期～終末期古墳は横穴式石室を持ち、高野山（高野山古墳群）に集中しているが、その実数は不明である。青山古墳は圭頭大刀を保有しており、高野山古墳群造営集團の首長クラスの墳墓と思われる。古八幡付近遺跡では、横穴式石室を持つ円墳2基が調査されており、高野山古墳群の西端を示していると思われる。江東地域の埋葬形態は少ない確認例ながら全て横穴墓である。江川の東西で埋葬形態の違いが表れる可能性がある。堂庭遺跡では丘陵裾で後期のはたけ跡が調査された。おそらく付近にはたけ耕作を嘗んだ集落が存在すると思われる。

奈良・平安時代

当該時期の遺跡は特殊なものが多い。古八幡付近遺跡、半田浜西遺跡が出土遺物の特殊性から、官衙等公的施設の可能性を窺わせる。須恵器窯は、久本奥窯跡が調査されており、鷦尾や下府庵寺同文瓦を焼いている。以前、嘉久志地域の谷部で未調査の須恵器窯数箇所が消滅しており、この地域が窯業地帯であったと考えられる。中には古墳時代の窯も含まれていた様である。清水遺跡で須恵器火葬骨壺、青山遺跡で須恵器壺・双耳壺が出土しており、臓骨器の可能性が考えられる。平安末ころの墨書き器が宮倉遺跡〔佐七〕と、波来浜遺跡〔g字〕で出土している。高角山頂上で須恵器壺と小型の壺（両方とも底部糸切）のセットが出土している。烽火、もしくは祭祀の可能性など考えられる。堂庭遺跡では奈良時代～中世にかけての遺物が出土している。郷倉遺跡でも高台付き壙が出土している。市内での古代山陰道は、驛と共に未発見である。江川河口付近左岸には長田遺跡が有り、奈良・平安時代の須恵器、土師器などがまとまって出土している。

中世

山城は多数報告されているが、調査例は少なく、時期や性格を確定するには至らない。また、山城に付随るべき屋敷や周辺集落などの発見調査例も少ない。古八幡付近遺跡では屋敷跡とそれに伴う墓と思しい土坑が調査された。堂庭遺跡では掘建柱建物1棟が確認された。遺跡周辺には福屋氏の拠点だった本明城や加志岐別府の居城である加志岐城などの中世山城が存在する。

第3章 調査の概要

分布調査により遺物が表採でき、遺跡の存在が確認された為、堂庭遺跡と命名し、確認調査を行なった。調査は事業予定地及び周辺で実施し、調査範囲全体で遺物を確認した。本調査では調査区を2つに区分し、東からそれぞれⅠ区・Ⅱ区と設定した。それぞれの調査区の表土を重機で除去した後人力掘削による調査を行なった。Ⅰ区では昭和57年水害前には場整備を行なっており、遺物は確認できたものの、遺構面は重機による搅乱を受けていたため検出できなかった。Ⅱ区では近世から近代にかけての耕作面を調査した後、中世と見られる厚い耕作土を調査した。各遺構面では陶磁器を中心とした遺物碎片と若干の柱穴と思しいピット群などの遺構を検出した。中世以前の面では、奈良時代～平安時代にかけての遺物包含層とその下層にはたけの耕作土と耕作に伴う溝状遺構を検出した。飛鳥時代の遺物・遺構は確認できなかった。溝状遺構及び耕作土の時期は古墳時代後期である。さらに、トレーナー調査によりはだけの基盤層より下で遺物が少量確認されたため、トレーナーを一部拡張して性格不明土坑を検出した。さらに下層へトレーナーを掘り下げたが、無遺物層となり遺構も確認できなかったため調査を終了した。

調査全体を通して各層境で出土した遺物は、便宜上それぞれ上位の層に還元し、報告している。



第4章 調査の結果

第1節 試掘調査

平成14年度に行なった試掘調査では、事業予定地及び周辺に16個のトレンチを設定して調査を行なった（第3図）。Ⅰ区の事業予定地外北側で、遺物包含層と若干の遺構を確認した。Ⅱ区では、西側で厚い包含層を確認し、トレンチ1では、厚さ1.4mのレキ層の下に都野津層（粘土層）を確認した。両地区ともほ場整備により地形の改変を受けていたが、Ⅱ区の西側では旧地形が残っており、西に下る地山上に遺物包含層が厚く堆積していた。東側は全体的に削平を受けており、地山のレキ基盤層上に近世の耕作土が堆積していた。

第2節 I区の調査

試掘調査時にⅠ区の調査区外北側で遺物包含層を確認出来たが、本調査に入るとⅠ区はほとんどの場所で地山面まで削平を受けていた。土層を観察すると、元々北側に下る傾斜地に2段の耕作面を持っていたようで、以前のは場整備時に南側の大部分が削平され、北側に盛られていたようである。近世の耕作時法面を補強する為の杭列を確認したが、近世以前の遺構は検出できなかった。出土した遺物は弥生時代末期から古墳時代にかけての土器、土師器と平安時代の須恵器、近世の陶磁器などである。

第3節 II区の調査

1. 基本層序（第6～7図・写真図版5～9）

Ⅱ区の層位説明には基本層序（第7図）を使う。

基本層序は13層からなり、概ね水平堆積により形成されている。Ⅰ層は現表土で、最近まで田の耕作土であった。出土遺物17点の内近世以降に属する物が14点有った。Ⅱ層もⅠ層と一緒に耕作土だが、耕作が及ばなかつたため縊まっており、有機物の腐食度合もⅠ層ほど進行していないため土色も淡い。出土遺物は444点で、時期は縄文時代～近代まで多彩である。Ⅲ層は田の床土にあたり、橙色の風化花崗岩層（いわゆる地山）を挟んでいるため造成により形成されている事がわかる。出土遺物は873点で量は多いが組成はⅡ層とさほど変わらない。Ⅳ層は近世の水田耕作土で、出土遺物は72点と少なくなり、組成は近世以前の物が占める。近世～近代にかけての遺物を2点含む。Ⅴ層はⅣ層の床土と思われる。出土遺物は267点で近代の遺物を含まない為近世頃の層と思われる。Ⅵ層・Ⅶ層は当初単層と考えていた。粘土・砂粒・細礫・炭化物（小枝）などの小ブロックを均質に含んでおり、人工的な土地改変による堆積（Ⅷ層参照）のため、水田耕作土と思われる。Ⅷ・Ⅸ層は肉眼では分層不可能だったが、調査では堆積が厚かつたため層の中ほどで定着していた酸化鉄帶を境に上層をⅧ層、下層をⅨ層として遺物を取り分けた。その結果、Ⅷ層では出土遺物2631点の内、中世遺物が180点（6.8%）で、

Ⅶ層では出土遺物853点の中中世遺物は31点（3.6%）と、Ⅵ層とさほど変わらない組成を示すが、Ⅶ層はⅧ層の3倍の遺物出土量を示していた。分層基準に偶然性が高いため正確を欠くが、量的な変化が認められた為Ⅵ・Ⅶ層として大まかに分けて報告する。なお、本報告ではⅥ・Ⅶ層の境界は絞りで表記した。Ⅷ層の出土遺物は2588点で、中世の遺物を含まず平安時代以前の遺物で構成されており、中世遺物を除いたⅦ層の遺物出土量とはほぼ等しい。Ⅸ層上面が東側の地山と共に水平に削平された直後にⅦ層の堆積が始まっている。Ⅹ層の出土遺物は1410点有り、その内51点は須恵器で古墳時代のものである。なお、調査全体を通して飛鳥時代の遺物は確認されなかったので、飛鳥時代に堂庭遺跡は生活の場として使用されなかつたと認識した。よってⅪ層は古墳時代の層と判断した。Ⅻ層とⅬ層の境は起伏が激しく荒れている。Ⅻ層は科学分析の結果、Ⅺ層に類似すると報告された。X層ははたけの耕作上で、耕作に伴う溝状造構はX層にトレーニングを入れ、精査しながら2/3ほど掘り下げた時点で検出された。遺物の取り上げは溝状造構を検出した面で上下に分けて行ない、上層をX-上層、下層をX-下層とした。X-上層の出土遺物は古墳時代後期までの遺物534点で、須恵器を含まない。X-下層出土遺物も古墳時代後期までの遺物675点で、その内13点の須恵器を確認した。出土した土師器とX-下層の須恵器及び上下層の遺物を観察し、X層の時期は古墳時代後期と判断した。Ⅺ層ははたけの基盤になる層で粘性の強い粘質土である。上面ははたけの起耕及びX層による土壤化を受けやや淡茶色を呈している。出土遺物は須恵器を含まず95点有り、その内92点が古墳時代後期までの土師器である。土坑4で検出した土器溜り2の遺物が古墳時代後期の物だった為、古墳時代後期までの層と認識した。Ⅽ層は暗灰色粘質土層でⅮ層を巻き上げて部分的に堆積していた。安山岩製の石鎚が1点出土した。Ⅿ層の時期は绳文時代以降古墳時代後期以前と思われる。Ⅿ層は無遺物のレキ基盤層であったため調査を終了した。

層位ごとの出土遺物数量を見ると、耕作に使用されていたと考えられるⅠ・Ⅳ・Ⅶ・X-上層では、層の厚みに関係なく上下の層と比べて遺物の出土量が少ない。

遺構面の記載には基本層序のⅠ層の次面を第1面、Ⅱ層の次面を第2面とし、以下同様に記載していく。また、紙面の都合上遺構の確認できなかつた面と、少量の性格不明遺構が検出されただけの面は報告を割愛した。

2、第2面の調査（第5～8図・写真図版10）

Ⅰ・Ⅱ層の耕作土を取り除いて検出された遺構面で、西側ではレキ基盤層上に遺構が検出された。東側はレキ基盤層の落ち込み上にⅢ層以下が堆積しており、遺構もⅢ層上で検出された。

1) 建物

西側の平坦面でレキ基盤層上に掘建柱建物跡を検出した。遺構は近世に削平を受けており、柱穴の埋土に対応する土層が確認出来なかつたためともとどの層から掘り込まれた遺構かは不明である。一部は調査区の南側へ続いており、正確な規模は不明だったが、総柱もしくは中抜け側柱建物と思われる。柱穴の配置から桁行きが梁行きの2倍ほどあることが確認できた。古八幡付近遺跡や埋築遺跡でも確認できるこの特徴により中世中頃以降の建物と考えられる。P1・

P3 から中世土師器が出土したが碎片のため詳しい時期は不明である。

3、第4面の調査（第9～12図・写真図版10～14）

1) 溝状造構

密集した溝状造構を5条検出した。いずれも浅い掘り込みが隣接し、並行して伸びている。性格、時期は共に不明である。

2) 土坑

性格不明の土坑群が第4面で確認できたが、近世以降の削平を受けている為多くの土坑は時期不明である。土坑1は炭化物を多く含んでおり、古墳時代後期の土師器が出土した。土坑2は上部をかなり搅乱されているが5層から弥生時代後期の甕が出土した（遺物22・23）。しかし層位関係を見る限りでは搅乱層の可能性もあり直接土坑の時期を確定できかねる。その他溝状造構の西側周辺で不定形土坑を中心とする遺構群を確認したが、時期性格など不明である。

3) 石組み造構

調査区の南辺で石組み造構を3基検出した。造構は何れも北側を失っており正確な形態・規模を把握できなかった。そのため土坑なのか石列なのか判断に苦しんだが、3基共に地面を掘り窄めて加工し40cm～60cmほどの角レキを底部に敷き詰めた上に5cm～10cmほどの碎石を充填しているという特徴を有しており、一連の性格をもつ造構と考える。石組み造構2が一番よく残存しておりその平面形は弧状を呈している。石組み造構2を円形プランと仮定し、その直径を復元すると6m以上の土坑になる可能性がある。石組み造構1・3は底部に一列の石組みを持つが、石組み造構2の石列は上方にも積み上げられている。石組み造構群はⅢ層を基盤に造構の掘り込みが始まり上面をⅡ層が覆っている。石組み造構2最下層出土遺物が肥前系磁器だったこと、及びⅡ層・Ⅲ層の遺物組成により時期は近世以降と判断した。高野山周辺は近世に石組みの猪垣をめぐらせている地域で、古墳の石室を解体して組まれている物もある。この造構も猪垣である可能性は考えられるが、現在市内で確認できている物とは形態が異なる。耕地の崩壊を防ぐ石垣の可能性もある。土坑と考えると用途は不明である。今後の類例を待ちたい。

4、第8・9面の調査（写真図版14下段）

第8面はⅦ層の次面で確認された造構面で、Ⅸ層以下が削平された後、Ⅷ層が堆積する前の平坦な面上に掘り込まれた土坑や柱穴などの造構が確認できた。造構は調査区北西側に集中していたが、建物などを復元することは出来なかった。また、造構に伴う遺物は確認できなかった。造構は平安時代～中世前半までの物と思われるが詳細な時期は不明である。

第9面はⅧ層の次面で確認された造構面で、検出面の起伏は大きい。検出した造構は柱穴と思われるが、性格は不明である。

5、X層の調査

1) はたけ（第14・15・16図。写真図版5～9・15～20）

調査区の西端で検出された遺構で、はたけの南と西は調査区の外へ続いている。土層の堆積状況を観察すると東側は緩やかな登り傾斜に沿ってはたけが作られていたようだが、Ⅶ層堆積以前の削平によって傾斜部のはたけは失われている。また、はたけの北側は加志岐川による侵食により失われている。

並行する溝状遺構（以下溝という）は、炭化物を多く含む土砂が溝に充填していた為、耕作土であるX層にトレーナーを入れた時に帶状のプランとして検出できた。そのため、X層の内、プラン検出面を境に上層をX-上層、検出面以下をX-下層として調査を進めた。

溝は山根から川に下る微傾斜に沿って南北に軸をとり、地形の変化に適度に対応しながら東に膨らむ張弓状を呈し、ほぼ等間隔で並行して延びている。

確認した溝は一單位で、溝の掘り込みはⅩ層に達しており、耕作土に歓えを行なった形跡は検出出来なかった。溝中には堆積した土を掘り直した痕跡が確認できた（写真図版7上段）。また、溝の掘り方を見ると、大半がクランクし、溝底部の起伏が激しく、溝の一部が浅くなっている箇所や（溝16）途切れかけた先で深く掘り込まれる箇所（溝9）が確認できる。断面の観察により掘削に用いた農具の先端がU字形を呈していたことが確認できた。

溝の確認された面で土器溜りが検出された（第15図・第16図）。溝の中央付近に擂鉢状の堆積が観察できる土器窯3個体が2ヶ所に分かれて潰れていた。溝が確認できる状況で溝間中央に土坑を掘り込み、土器を静置したものと思われる。土器の重なりを見ると土器間に土が挟まれておらず、土器同士が密着しているので、土器の堆積は一瞬のことだったと見える。調査では、土坑のプランを確認することは出来なかつたが、土坑の掘り込みと土器溜りの堆積に時間差が無かった為土坑のプランを確認することが出来なかつたのではないかと思われる。検出面が低い北側の土器溜りが本体で、検出面が高い南側の土器溜りは窯28の口縁付近が本体から離れて堆積したものと思われる。また、土器の配置を復元すると、窯28を中心に、北側に窯27が隣接して置かれ、東側のやや離れた場所に窯29が置かれていたようだ。これらの土器は、北側から力を受けて南側に潰れている様子が観察できる。はたけ自体は北側へ緩く下っており、土器溜り堆積時に土器が受けた力の方向が不自然なものと判る。おそらく人為的に破壊され埋められた物と解釈する。これらのことから、土器溜りは耕作の起耕、若しくははたけの廃棄に伴い人為的に溝間に土坑を設け土器を配置した後、その場で破壊され廃棄された結果と判断する。耕作に伴う祭祀跡であろうか？

はたけの耕作土X-上層には須恵器を含まず、古墳時代後期までの土器は523点確認できた。X-下層では古墳時代後期までの土器627点、須恵器13点が確認できた。Ⅷ層では土器95点が確認された。またⅩ層以下は須恵器を含まない。このことと、出土した遺物を観察した結果、はたけの時期は古墳時代後期で、須恵器の観察により、陶瓦編年TK43の形式に平行するものと思われる。

6、第10面の調査（第17、18図・写真図版20）

第10面で土器溜り2を伴う土坑が確認できた。円形の土坑の東側に浅く広い溝が取り付き、南北に断面円形の木質（スクリーントーン）が土坑内に刺さっている状況が確認できた。土器溜りは古墳時代後期の土器窯38で、円形土坑の上部で検出された。土坑の時期は古墳時代後期と思われる。性格は不明である。

7、第11面の調査（第19図・写真図版21）

Ⅸ層の土が巻き上がって部分的に堆積している層で、一見粘土採取跡のように見える不整形土坑を2基検出したが、時期性格共に不明である。

第4節 遺物

堂庭遺跡で出土した土器類は10cmほどの破片で、接合できる遺物はX層・XI層で検出された土器滴りの資料以外ではほとんど確認できなかった。また、良好な一括資料も得られなかつた。よつて、主に包含層出土の破片を掲載せざるを得ず、様式によらず型式に基づく報告となつてゐる。

1) 石器

全て包含層からの出土で、縄文時代と思われるものは石器製品9点・未製品及び剥片68点で、黒曜石製と安山岩製が半数位の割合で確認できた。製品の組成は石鎚が多く、日脚遺跡の石鎚分類のA類と思われる大型の安山岩製鉢形石鎚6が1点確認できた。ほかにB類と思われる1・2・3・5の4点やC類と思われる4が確認された。そのほか搔器状の物や石錐・石錘が若干含まれてはいるが、未製品や剥片が圧倒的に多い。縄文時代には堂庭遺跡周辺がキャンプサイトとして利用されていた可能性が考えられる。弥生時代と思われる遺物は粘板岩系の石包丁10が確認された。その他、時期は不明だが砥石と思われる13・14・15が確認できた。また、碁石と思われる白色の石16を確認した。なお石包丁10は堂庭遺跡付近のぬしや旅館裏で表採された品である。

2) 縄文土器・弥生土器・土師器・中世土師器

縄文土器と思われるものは16点あり、上げ底の鉢底部20や突帯文土器口縁と思われるもの17・18などが確認できた。

弥生土器の記述には主に松本編年を使用する。

弥生時代前期と思われる土器胴部破片が2点確認できたが、磨滅した碎片のため確証は持てない。弥生時代中期では口縁端部が垂下する壺口縁21が確認できた。時期はⅡ様式と思われる。後期ではV-2様式と思われる複合口縁の頸部が発達した26が確認できた。また、V-3様式の壺22・23が土坑2から出土している。V-4様式と思われる25が確認されたが、外面が風化している為V-3様式に取まる可能性がある。24は複合口縁を有す無文の粗製小型土器と思われる。弥生時代後期に入つて出現するが時期は不明である。

土師器に関しては良好な一括資料に恵まれず碎片で時期を細分することは諦めた。組成は壺若しくは壺が7952点と圧倒的に多く、高坏9点(図化不能)、櫃12点(45・46など)、移動式壺19点(47・48・49など)となっている。土製支脚は確認できなかつたが、焼粘土塊の中に土製支脚の可能性を持つ物がある。古墳時代前期と思われる壺若しくは壺は胴部が少量確認できただけなので、その他の土師器壺壺の大まかな特徴を挙げる。古墳時代の土師器壺壺は概ね外反する単純口縁を有し、端部調整は27・28のように玉縁状に仕上げる物と丸く仕上げているものがある。頸部は緩やかに屈曲し肩から胴部にかけて丸く張るものと肩が流

れている物の2種類に大別できる。古墳時代前期と思われる土師器以外の壺甕は、口縁から胴部にかけての特徴によりおそらく古墳時代後期のものが組成の大半を占めていると思われる。口縁より胴部最大径が小さくなる奈良時代の甕と思われるものに36・39・41・42がある。平安時代の土師器甕は、高台の退化した52や高台の直立した53などが確認されたがその他の土師器は確認できなかった。

中世土師器は厚底の甕54～57や、底部を薄く作る大型の甕59・62・63と小型の甕58・60・61がある。小型の甕には口縁が外傾している物と、内湾する物がある。時期や器種の特定ができないものは1725点ある。そのほとんどは碎片の為に時期や器種を特定出来なかつたのだが、その他の物では底部単孔の甕と思われる筒型上器43や口縁外面に強いナデを施す塊状の44、土錐50、鉢51などが見られる。また、外形が丸い焼き粘土塊64や不整形の焼き粘土塊42点が確認された。

3) 須恵器

包含層出土の破片が多いため、古墳時代は細部の形態・調整を整理している大谷編年の型式を主に用い、日脚編年を援用して報告する。奈良時代以降については久本奥窓跡資料で構成された広江編年を主に用いる。

古墳時代の須恵器は壺身226点、壺・甕69点、高甕30点、瓶10点、ハソウ14点、不明16点で合計365点が確認できた。

壺蓋69・70・72・75は端部に面を持ちその面に沈線を入れている。肩部の形態は不明である。厚手の口縁端部に沈線を施す65・66・68・71には、肩部調整B類・C類が確認された。

また、端部のやや高い位置に沈線を施す67・73・74がある。その他、端部のさらに高い位置に沈線を施す76や沈線の代わりに強いナデを施す77・81が確認された。口縁の高い位置をナデで薄く取り端部を丸く仕上げている79も確認された。82は蓋として掲載したが、高甕の坏部の可能性も考えられる。このような蓋坏資料は高甕の痕跡が確認されなかつた場合、蓋あるいは坏身として報告している。蓋天井部若しくは坏底部と思われる84・85・86はやや粗雑に削り、中央部にヘラオコシの傷を残す。坏身は基本的にたちあがりがやや長めで端部は丸く収めており、受け部は未発達である。たちあがり端部を外反させる98が1点確認された。底部は口径が大きな物は浅く、小さな物はやや深い造りになっている。扁平な底部104・105は回転ヘラ削りで調整している。107・108・109はハソウの口縁と思われる。130はハソウの底部で球形を呈し削り調整がなされている。127はハソウ若しくは小型壺と思われる。瓶と思われる口縁111・112は端部を折り返している。113は瓶の頭部で114は内側に同心円タタキ、外側にカキメを施した瓶の胴部である。115は瓶の取っ手と思われる。116は脚付きの器種で内面にナデ調整の後に脚接合時の指頭圧痕が残る。117～126は高甕の脚部で、2方向透かしの117、長脚二段3方透かしの118、上方に聞く透かしを持つ119などが見られる。透かしを施さない物123・126は強いナデが施されている。脚端部の形態は、外傾した面上に沈線の入る121・124と端部が鉤状にふんばる122・125がある。131～138は甕である。口縁は、折り返して玉縁となる大型の131と小型の135、単純に丸く收まる133が確認できた。大型の甕口縁132はその中位を沈線で二分

され、上下に波状文が施されている。胴部 136・137・138 は外面平行タタキ調整、内面同心円タタキ調整である。

奈良時代以降の須恵器については、久本奥窓跡、本片子窓跡などの編年を参考とした。
140～145・195 は蓋である。141 は器高が高く小型化しており、輪状のつまみを持つ。142・143 は大型の物で輪状つまみを持つ。195 は貧弱なつまみが付く。坏底部 106 は静止糸切りの後底外部周を削っている。時期は 8 世紀以降と思われる。146～150 は体部が丸みを持ち、低い高台が外側に付く坏底部である。底部調整は概ねヘラキリである。146 の高台端部は接地する面に沈線がめぐっている。150 の高台端部は接地しない面を持つ。151～159 は底部を回転糸切り調整している坏底部で、151・152・153 は高台が形骸化している。154～159 は平底を呈す。特に 154 は底部削り後円周をナデている。160 は坏と思われる口縁だが、端部が外反し中位に沈線がめぐる。161～169 は内湾する薄手の坏口縁である。端部の調整の違いから、肥厚する物 163。面を持つものやつまみ出す物 161・162・165・166・168・169 などに分かれる。口縁 166 は端部が強く屈曲している。170 は真っ直ぐに外傾する薄手の坏口縁で端部は丸く取める。これらの坏口縁の中には高坏が含まれている可能性があるが完全には抽出出来なかった。不明の口縁若しくは脚部 110 は厚く作られ先端に面を持ち、口縁中ほどにしっかりした稜線が入る。171～174・180～182 は壺と思われる。171 はやや上げ底に造られ、底部は雑にナデされている。体部立ち上がりの角度と底部調整から胴の張る壺の底部と思われる。176 の高台端部は接地する面を持ちナデにより窪んでいる。180・181・182 はやや軟質な須恵器で口縁端部がつまみ出されて内湾するのが特徴的である。胴部は内外共にハケメ調整を施す。183・184・186 は捏ね鉢の口縁で、端部は玉縁状を呈す。183 は内面にハケメを施している。177・178・179 は鉢である。口縁は強いナデにより先細り、端部に面を持つ。内面にはハケによる調整が施されている。187 は鍋である。外面に煤が付着している。188～191 は薄造りの坏口縁である。端部をナデて薄くする物、内側に面を持つもの、肥厚し丸く取める物が確認できた。192 は小型の壺と思われる。内面に漆、若しくは墨のような物が付着している。193 は板状の不明品で碎片である。1 面は硯のようになめらかで反対の面は未調整で荒れている。硯であろうか？ 194・196 は不明端部である。蓋口縁端部若しくは脚端部と思われる。196 は或いは口縁の可能性もある。232・233 は備前の捕鉢である。荒い即目が大雜把に入る。234 は須恵質の壺底部である。なお、12 は何らかの須恵器製品を転用した舌状の製品である。

4) 陶磁器

輸入陶磁器の記述には上に「大宰府条坊跡 IV」掲載の大宰府編年を用いた。
197～214 は中世の陶磁器である。詳細は観察表に譲るが時期は概ね 14 世紀と 16 世紀の 2 時期を中心確認されている。磁器の組成は碗が占め、少量の小皿が伴っている。白磁碗 200 類 202 はⅣ 層から出土した。204～207 は龍泉窯系 II 類（旧 I - 5）碗である。216 は雷文崩れの龍泉窯系碗である。215 は中国産の天目茶碗と思われる。219 は青花である。近世の陶磁器は肥前系が占めるが 18 世紀後半から粗陶器は石見焼に替わっていくようだ。220・221・222 は肥前系の

染付けである。223は五彩の碗である。上絵は剥落している。224は唐津焼壺胴部である。内面にタタキ調整が残る。225・226は直立する厚手の口縁である。225は土師質で、226は瓦器である。227は紅皿である。228は並釉が施され、端部が内傾する器種不明の口縁で、石見焼と思われる。229は土瓶の取っ手である。古式の石見焼と思われる。230は土鍋の口縁である。内面のみ施釉されている。石見焼である。185は薄造りの擂鉢で、焼成は堅放である。一見須恵質に見えるが唐津系の可能性がある。231は唐津焼系の擂鉢と思われるが古式の石見焼の可能性もある。折り返した口縁端部の中ほどに強いナデを施す。

5) その他

IV層とV層の境でキセルが出土した。時期は近世以降である。不明な遺物236は球の未製品で、多面になっている。シジミ237は表上からの出土おそらく新しい物と思うが念のため掲載した。238は先細る不明の鉄器で、1枚の鉄板を丸めて造っている。刀子239はV層出土で、平安時代以前の物と思われる。240・241・242は古銭である。天聖元宝240と元豐通宝241は共に宋銭で初鑄造は10世紀であるが、第20回の須恵器壺243は江津市誌掲載遺物であるが、参考のために掲載する。時期は古墳時代後期で、頸部以下は完存している。古墳の副葬品と考える。その他今回掲載出来なかったが、VI層で鉄洋を4点、炉壁と思われる破片を2点確認した。時期は中世以前と思われる。

第5章まとめ

第1節 はたけについて

II区X層で検出した溝は、はたけ耕作に伴う畝間の溝である可能性を考えて調査を進めていた。科学分析による軟X線撮影の結果では、堆積層A・B・C・Dがそれぞれ基本層序のII層(AB)・X・上層(C)・溝堆積層(C)・X・下層(D)・XI層(D)に対応していた。基本層序のII層及びX・下層XI層の上はあまり搅乱を受けず締まり、間に挟まれているX・上層及び溝に堆積していた埋土上部では搅乱による間隙の発達した土壤化が確認された。しかし、埋土下部では堆積層Dと同様間隙が未発達な為起耕後耕作されること無く溝下部に土砂が堆積し、その後溝上部の土がX・上層と共に耕作による搅乱を受けていたと考えられる。そのため松田氏より、X・下層からXI層にかけて掘り込まれてゐる溝がはたけ耕作に伴う「土砂取り溝」である可能性を指摘された。「土砂取り溝」の目的は定かでないが、はたけの起耕時に耕作土とはたけ基盤層を混層する目的で掘削される事もあるようで、堆積層Cの状況から考えても畝間の溝と概に言えない。II層でXI層と類似した土壤構造を確認できた。おそらくX層堆積後新たに土砂が水成堆積し、統いてII層を起耕したためと思われるが、はたけとしての遺構を検出できなかったため、II層ははたけで有った可能性を示唆するに留める。種実分析の結果、栽培植物は確認出来なかったが、乾燥状態で耕作されるはたけの分析結果としては通常起こり得る

ことで、植物が栽培されなかつた結果とは言えなかつた。遺構の状況と考え合わせると、これは耕作が當時乾燥状態で行なわれていた結果と理解しても矛盾はない。これらの分析結果と発掘調査の結果を総合的に考察し、堂庭遺跡Ⅱ区X層で確認された「はたけの可能性が考えられる遺構」を「はたけ」と認識し、報告している。

溝の掘り方を観察して見たが、ほとんどの溝が短い掘削の連続で構成され、形も不整形であった。これは、溝掘削時に家畜などを用いて工具を引きずつて出来たものとは考えられず、手作業での溝掘削の結果と思われる。

堂庭遺跡で検出されたはたけの立地条件を見ると、北側が開けた微高地上の緩斜面に展開している。土層観察の結果では、古墳時代後期までは水気が無く水田耕作に適さない場所と確認できた。また、丘陵裾からの堆積と考えられる包含層に古墳時代後期の土器が多く含まれている為、集落ははたけの南側にあたる丘陵裾に展開していたと考える。

堂庭遺跡周辺の盆地が何時から水田として使用されていたのか不明である。しかし、堂庭遺跡では奈良時代に水田を造る為の大規模な削平を行なった上に水田として土壤を改造しており、併せて背後の谷を利用した導水工事なども行なったと考えられる。以後この場所は現代に至るまで水田として機能しているが、奈良時代に水田を造るのに容易な盆地を使わずに微高地にある堂庭遺跡で水田を造る事は考え難いため、おそらく当初すでに盆地で水田耕作を行なっており、何らかの理由で水田開発の手を微高地に伸ばしたものではないかと考える。

堂庭遺跡若しくは周辺で確実に生活が営まれていた時期は、大まかに、古墳時代後期・奈良時代・平安時代・中世・近世で、遺物が少量確認できた時期は、绳文時代・弥生時代後期である。古墳時代前期・飛鳥時代は遺物が確認出来なかつたため、集落は廃絶しているか、背後の丘陵以外の他所へ移動していると考える。飛鳥時代の動きには或いは高野山古墳群の造営が関係するのかもしれないが、今回の調査では言及できなかつた。

第2節 古墳時代から奈良時代の炊飯具について

今回の調査では古墳時代から奈良時代にかけての炊飯具として移動式竈・瓶・甕が確認されたが、土製支脚は確認されなかつた。ただし、焼粘土塊の中に土製支脚が含まれている可能性は拭えない。

岩橋孝典氏の報告によると、山陰地域に於ける土製支脚分布の西限は江津市の敬川下流域までと確認されており、移動式竈の分布範囲は上製支脚のそれより一回り大きいと想定している。今回調査された堂庭遺跡は敬川上流に位置し、沿岸部からは高野山を越えて最初の盆地に当たる。江東地域にも同様の条件を備えた高津遺跡があるが、こちらでは移動式竈・瓶・甕、複数の形式を持つ土製支脚が確認されている。石見部において、土製支脚の分布範囲が海岸線に沿って東から西に広がって来たと仮定すると、敬川下流域沿岸部で分布が先細りで止まり、堂庭遺跡や敬川以西が土製支脚の使用閾外地域になっている可能性が考えられる。

堂庭遺跡の遺物組成を見ると、甕が土製的に多く、その他の煮炊き具の出土点数は極端に少ない。今後は移動式竈や土製支脚以外の煮炊き具の存在やその使用頻度についても考えて行きたい。今回の調査が江西地域の山間部で初めて行なわれたものである以上、類例の増加を待つて判断するのが適切だが、問題提起の意味を含めここに記載する。

報告書作成の折、鳥根県埋蔵文化財調査センター内田律雄氏より石製支脚の使用についてご教授いただいた（大津町北遺跡・中野清水遺跡2004刊行予定）。今回の調査では認識出来なかつたが今後の調査に反映したい。

総合	神主城跡・室崎商店裏遺跡 占八幡付近遺跡・横路古墓	建設省浜田工事事務所 島根県教育委員会	2000年3月
日本考古学用語辞典	齋藤 忠	1998年10月	
古八幡付近遺跡	島根県江津市教育委員会	1992年12月	
古八幡付近遺跡Ⅱ	江津市教育委員会	1998年3月	
江津地方における埋蔵文化財について	江津市文化財研究会	1971年4月	
岩波講座 日本考古学 6 変化と画期	岩波書店	1986年1月	
西川津遺跡Ⅳ	島根県上木部河川課 島根県教育委員会	2001年3月	
江津市誌 上巻 下巻 別巻	江津市	1982年6月	
考古学による日本歴史16 (産業I 獣獮・漁業・農業)	大塚 初重	1996年8月1日	
考古学による日本歴史16 (自然環境と文化)	西谷 正	1996年5月24日	
口脚遺跡 口脚住宅跡地予定地内発掘調査報告書	島根県教育委員会	1985年3月30日	
中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内	島根県教育委員会	1992年3月	
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ			
岩波講座 日本考古学 3 生産と流通	岩波書店	1986年3月26日	
縄文時代 第28回山陰考古学研究集会 山陰の縄文時代遺跡	山陰考古学研究集会	2000年9月	
縄文時代の知識	渡辺 誠	1983年3月	
弥生時代 弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編	正岡 陸夫・松木 岩雄	1992年5月	
第47回埋蔵文化財研究集会 弥生文化の成立	埋蔵文化財研究会 (財)高知県	2000年2月	
-各地域における弥生文化成立期の具体像-	文化財団 埋蔵文化財センター		
第3回 西伯耆弥生集落検討会	西伯耆弥生集落検討会	2001年11月	
山陰地方における弥生時代前期の地域相-資料集-			
弥生文化の研究 5 道具と技術	金関 悅・佐原 眞	1980年9月	
弥生文化の研究 1 弥生人とその環境	永井 昌文・那須 孝悌	1980年5月	
	金関 悅・佐原 真		
日本農耕文化の生成	杉原 菲介	1960年2月	
山陰の後期弥生・上器における縦年と地域間関係	中川 寧	1996年	
(島根考古学会誌 第13号)			
弥生文化の研究 2 生業	金関 悅・佐原 真	1988年3月20日	
古墳時代 墳墓文化財発掘調査報告書Ⅰ	建設省浜田工事事務所 島根県教育委員会	1995年3月	
(鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窓跡)			
石見地域の古墳文化～地域の古墳の教材化を目指して～	大谷 見二		
石西の須恵器	川原 和人		
日本の古代遺跡を掘る 4 黒井峯遺跡 (日本のポンペイ)	石井 克己・梅沢 重昭	1994年11月25日	
浜田市めぐろ古墳出土の須恵器について	川原和人	1985年11月10日	
(島根考古学会誌 第2集)			
第24回 山陰考古学研究集会 山陰の横穴式石室	山陰考古学研究会	1996年8月24日	
(地域性と編年の再検討)			
第7回 山陰考古学研究集会 出雲の横穴墓	山陰横穴墓研究会	1997年3月22日	
(その型式・変遷・地域性)			
古墳時代の研究 第6巻 上飾器と須恵器	石野 博信	1991年5月20日	
出雲地域の須恵器の編年と地域色 (島根考古学会誌 第11号)	大谷 見二	1994年3月	
陶邑古窯址群Ⅰ	田辺 昭三	1996年	
須恵器大成	田辺 昭三	昭和56年7月30日	
浜山池遺跡・原ノ前遺跡 (一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区Ⅱ)	島根県教育委員会	1997年3月	
「門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡」一般	島根県教育委員会	1998年3月	
国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書14			

	山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について 岩橋 孝典 (古代文化研究 No.11)	2003年3月
	出雲における古墳時代前半期の上器の様相 松山 智弘 一大東式の再検討—（島根考古学会誌 第8号）	1991年3月
	古墳時代の知識 考古学シリーズ 6 岩崎 卓也 榛名山東麓の災害と歴史遺跡からわかる災害と土地利用の変 大塚 昌彦	昭和59年10月25日 平成14年3月
	遷（国立歴史民俗博物館 第96集 日本歴史における災害 と開発 I）	
	石見における群集墳の一例（島根考古学会誌第1集） 柳浦 俊一 長原遺跡（NG03-5次）発掘調査現地説明会資料 大阪市教育委員会 (財)大阪市文化財協会	1984年4月 2003年9月27日
	古代馬糞—試考（上） 田中 義昭 (島根考古学会誌 第14号)	1997年3月
	出雲における木製耕起具の変遷について 中川 寧 (島根考古学会誌 第17号)	2000年3月
奈良～	波来浜遺跡発掘調査報告書—第1.2次緊急調査概報— 島根県江津市	1973年3月
平安時代	第9回 石見考古学研修会 寺の前遺跡を考える 石見考古学研修会事務局	2002年7月23日
	古代土器研究の現状と課題～平城京出土土器を研究する朝 金田 明大 から～（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室）	2003年10月24日
	出雲における歴史時代須恵器の編年試論（松江考古 第3号） 柳浦 俊一 本片子遺跡・木原古墳 益田市教育委員会	1980年9月 1982年3月
	(国営農地開発事業関係埋蔵文化財調査報告書)	
中世	第26回山陰考古学研究集会 山陰考古学研究集会 山陰における中世前期の貿易陶磁器	1998年8月
	概説 中世の土器・陶磁器 中世土器研究会編	1995年12月
	古代文化研究第1号（戦国期石見小笠原権力と地域社会構 佐伯 德哉 造-日本海（東海）西部地域における権力と江の川水系社会の 生産・流通）	1993年
	上久々茂土居跡・大崎遺跡 島根県教育委員会	1994年
	一般国道191号改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 建設省浜田工事事務所	
	考古学による日本歴史 15 家族と住まい 大塚 初重・白石 太一郎 西谷 正・町田 章	1996年1月
	中世土器研究序論 橋本 久和	1992年12月
	紀要 IV 掘立柱建物跡の間尺とその時代性 高橋 与右衛門	1989年3月
	国道485号線西ノ島バイパス改築（改良）工事に伴う遺跡発掘 西ノ島町教育委員会	2002年3月
	調査報告書 浦の谷II遺跡	
	大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編一 大宰府市教育委員会	2000年
	北海道から沖縄まで 国内出土の肥前系陶磁 佐賀県立九州陶磁文化館	1984年
近世	「四谷三丁目遺跡」別冊 江戸遺跡検出のやきもの分類 東京消防庁 新宿区四谷 1991年 (豪凡例)	
	石見焼関連遺跡調査報告2 上府八反原窯跡（佐々木窯跡） 国土交通省浜田工事事務所 2001年3月 島根県教育委員会	
	須佐唐津窯 須佐町教育委員会	1971年3月

第6章 科学分析

はじめに

堂庭遺跡は、島根県西部の江津市有福温泉町湯町地内に位置する。

本報は、堂庭遺跡において検出された古墳時代後期の畠状遺構について、自然科学的検討を加えるために、江津市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した結果をまとめ直したものである。

また軟X線写真観察にあたり、(財)東大阪市文化財協会松田順一郎氏、(株)パリノ・サーヴェー辻本裕也氏にご指導を頂いた。ここに、お名前を記して御礼申し上げます。

試料について

発掘調査地南壁西部において、軟X線写真撮影用試料（試料L、試料R）、土壤分析用試料（試料No.1～4）を採取した（図1）。軟X線写真撮影用試料採取には25cm×10cm×1cmの透明アクリルケースを用い、現場において試料調整を行った。土壤分析用試料は江津市教育委員会により採取され、提供を受けた。

分析方法

軟X線写真撮影は、印画紙への直焼き付けで行なった。記載は「土壤記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修、1989）」に準じて行った。土壤分析は、種実分析を目的として行った。土壤の水洗ではおよそ500gの試料を分取し、開口0.25mmの籠を持ちいた。その後残渣を、肉眼（あるいは実態顕微鏡下）で観察した。

軟X線写真観察

(1) 記載

試料L、試料Rは、いずれも現地での層区分を一部で細分するように、層相および堆積構造の特徴から層準A～Dに分けられた（図4-1～6）。下位より堆積・土壤構造の特徴について記載し、その成因に関する考察を行う。

① 層準D

明褐色を呈する細礫・粗粒砂・中粒砂混じりシルト質細粒砂からなる。軟X線写真では、これら碎屑物からなる亜角状を呈した集合体（ベッド）ないしブロック土が多数認められる。ベッドないしブロック土の粒径は上位に向かって減じ、下部で3～4cm程度、上部で1cm程度である。ベッドないしブロック土の間隙は、上位に向かい漸次増し、間隙の領域も増す。下部では間隙の壁面が平行する（あるいは両側が接合する）部分が多く、上位にかけてチャンバー状の部分が増加する。間隙には植物根莖由来すると思われる垂直方向に伸びるもののが認められる。斜め方向に不連続な間隙は、試料調整時にできた可能性がある。

② 層準C

暗褐色を呈する細礫・粗粒砂・中粒砂混じりの褐色シルト質細粒砂からなる。軟X線写真では、粒径が比較的揃った、5～10mm程度の亜角状ないし球状のベッドないしブロック土が認められた。球状のベッドについては、それらが集合する二次的なベッドを形成している部分も認められた。ベッドないしブロック土の間隙は、上位に向かい漸次増し、その領域も増す。間隙の多くは微細な植物根痕に由来する管状孔隙に相当するものと思われる。

堆積相DからCへの堆積・土壤構造の変化は、松田・別所（1997）の畑作地土壤の構造に類似する。両試料とも畝状構造から採取した試料であり、層準Dが耕起により生じたもの、層準Cが耕起・反転、攪拌により生じたものと考えられる。

③ 層準B

褐灰色を呈するシルト混じり細粒～中粒砂からなる。軟X線写真では、亜角状の粒径5～10mm程度のブロック上ないしベッドが認められる。ベッドないしブロック土の形状は、亜角～球状のもののほか、亜錐状のものが認められる。ベッドないしブロック土の間隙の発達は悪く、接合しているものが多い。試料Rでは本層準最下部において、堆積時の構造の可能性がある細粒砂が葉理状に並ぶ部分が確認され、水成堆積した可能性が示唆される。

④ 層準A

灰褐色細礫混じりシルト質中粒～細粒砂からなる。軟X線写真では、これら碎屑物からなる、亜角状のブロック土ないしベッドが認められる。ブロック土ないしベッドの粒径は10～8mm程度で、上位に向かい粒径が小さくなる。ブロック土ないしベッド間の間隙の壁面は平行する（あるいは両側の壁面が接合する）部分やチャンバー状の部分が認められる。間隙は上位に向かい漸次増し、粗間隙領域も増す傾向がある。

このような構造は、層準Dで認められた構造に類似するものであり、おそらく畠耕作土下部の構造に類似するものである。

（2）観察結果のまとめ

- ① 軟X線写真観察の結果、いずれの試料も類似した層相の変化を示し、層準D～Aに区分された。
- ② 以下のように軟X線写真の観察から、遺構が耕作に関連していたことを示唆する結果が得られた。

- 1) 堆積相D～Cの土壤構造は、人為的な擾乱（耕作）によると考えられる。
- 2) 堆積相Aでも堆積相Dに類似した土壤構造が認められ、人為的な擾乱（耕作）が行われたと考えられた。
- 3) 今回行った軟X線写真を用いた記載は、手法的に容易で費用も軽微である。しかし、耕作地土壤の認定に関しては土壤薄片を用いた微細構造の記載に因る方が、より確かである。土壤薄片を用いた記載は、手法的に煩雑で費用も嵩むが、今後の調査においては併用の検討が必要である。

種実分析結果

試料1～4まで堆積物全量を観察したが、同定可能な（炭化）種実は検出されなかった。

堆積物中には未炭化の植物片がまったく含まれておらず、堆積時、あるいはそれ以降も乾燥環境が長く続いたと考えられる。このことは、遺構が「畑の畦」と考えられたことと、整合する。

また、1試料中に厚さ0.5mm程度の大変微小な炭化材片を10個以下とごくわずかに含み、これ以外

の炭化物は認められなかった。通常焼き畑が行われていた場合は堆積物中に草本起源の微小炭化物を含むことが多く、「焼き畑」の可能性は低い。

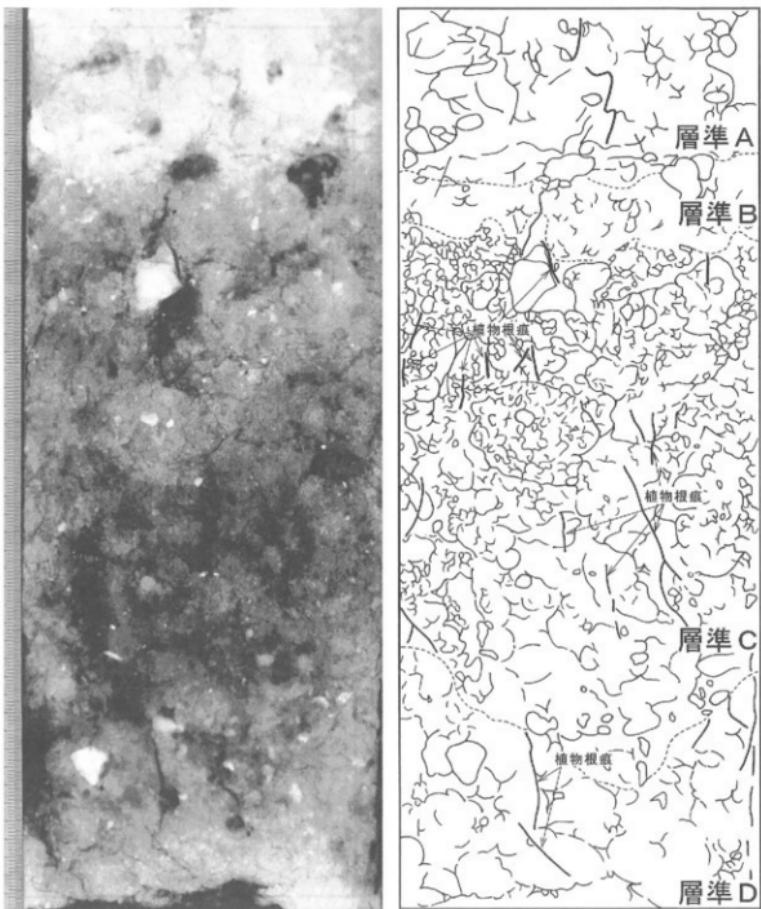
まとめ

軟X線写真的観察から、畝状遺構が人的な攪乱（耕作）により形成されたことが推定された。一方、土壤の水洗からは炭片が僅かに検出されたのみであり畑の物証を得ることができなかつた。ただし、畑の存在が否定されるものではなかつた。

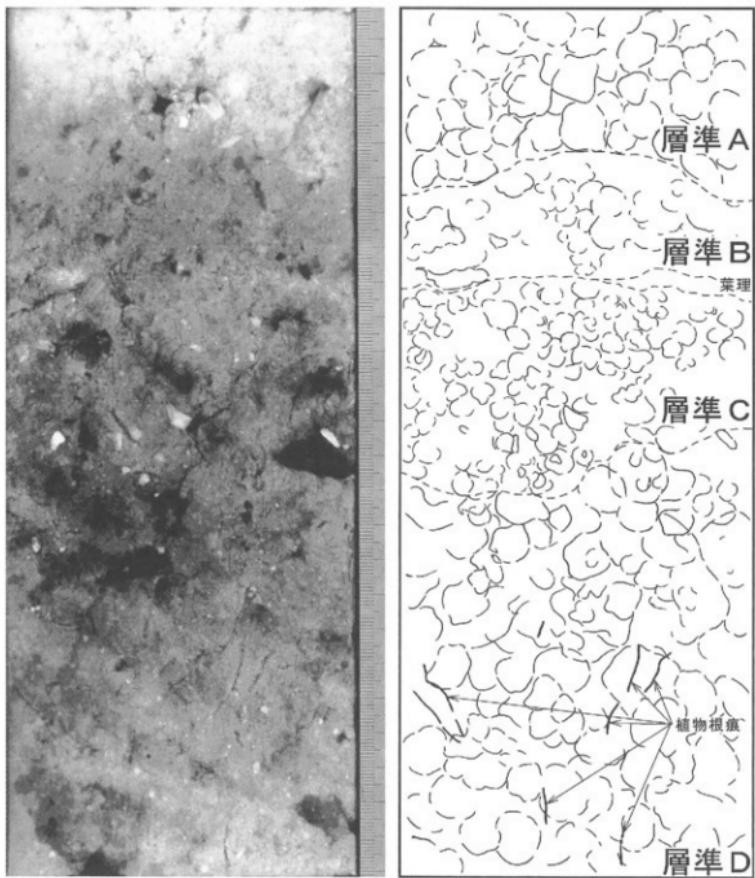
現地の観察で暗色を呈する層準Cを耕土と考えていた。このことは軟X線観察結果と一致するが、試料Lで層準Dの凹地を埋める層準C下部の扱いが問題となる。北島遺跡（財團法人東大阪文化財協会, 1996）では一見して畝間に見える凹地を「土砂取り溝」と捉えている。「土砂取り溝」には耕作に伴い耕作土が埋積されるが、上部ほどペッドが細粒化すると考えられる。今回の試料L層準Cには同様の特徴が認められることから、今回畝間と考えた凹地が「土砂取り溝」に対応する可能性がある。

引用文献

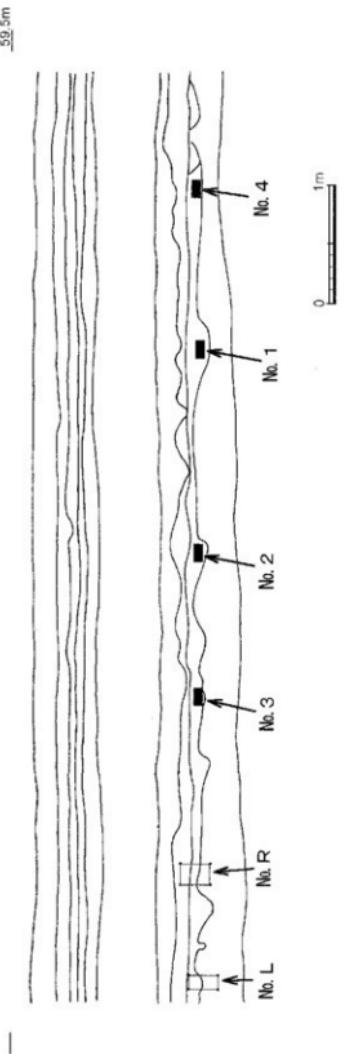
- 久馬一剛・八木久義訳監修（1989）土壤薄片記載ハンドブック. p.176, 博友社.
松田順一郎・別所秀高（1997）大阪府北島遺跡における畑地形成と地形発達. 日本国文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 70-71.
財團法人東大阪文化財協会（1996）北島遺跡の耕作地跡と古環境－寝屋川南部流域植付ポンプ場土木工事に伴う北島遺跡第1次発掘調査報告書－. p.157.



図版1 試料Lの軟X写真（左）およびスケッチ（右）



図版2 試料Rの軟X写真（左）およびスケッチ（右）



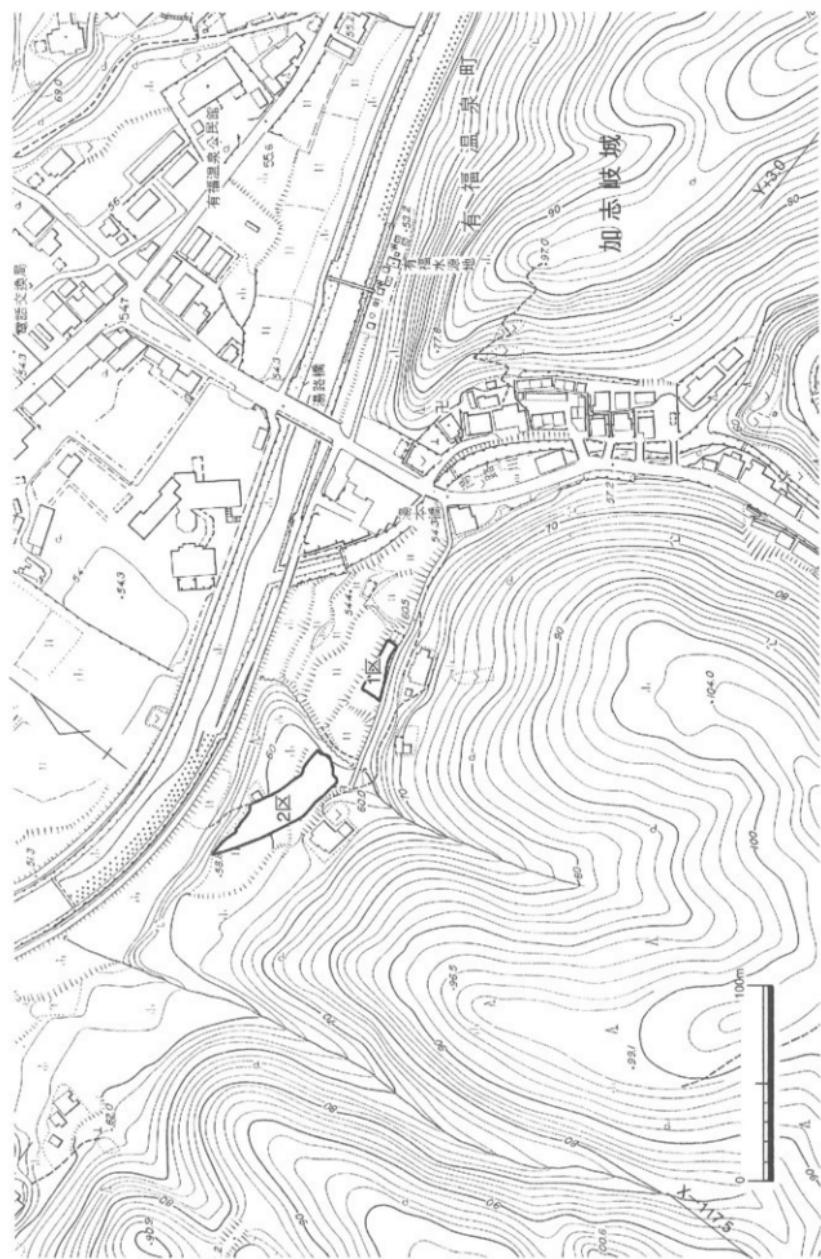


第1図 江津市西部の遺跡 ($S = 1/50000$)

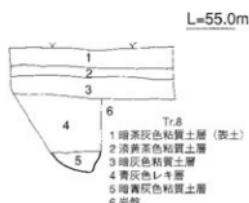
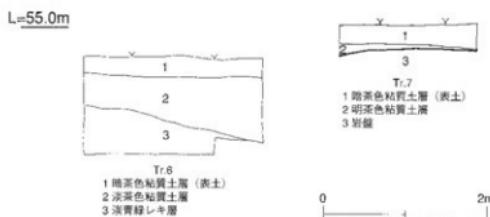
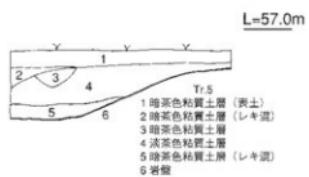
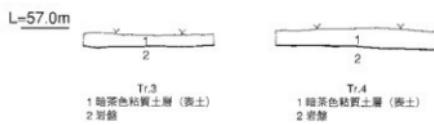
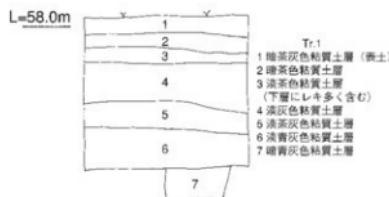
第1表 江津市西郷の遺跡一覧表

品目	商品名	規格	原産地	販売価格	在庫数	在庫状況	備考
1	電子部品	汎用	日本	10,000円	100	● ● ● ● ●	在庫有り
2	光ファイバ	波長変換用	日本	10,000円	100	● ● ● ● ○	在庫有り
3	保護フィルム	化粧用	日本	10,000円	100	○ ○ ○ ○ ○	在庫有り
4	PC周辺機器	充電式モバイルバッテリー	日本	10,000円	100	● ● ● ● ○	在庫有り
5	充電式モバイルバッテリー	充電式モバイルバッテリー	日本	10,000円	100	● ● ● ● ○	在庫有り
6	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ● ● ● ○	在庫有り
7	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
8	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
9	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
10	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
11	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
12	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
13	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
14	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
15	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
16	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
17	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
18	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
19	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
20	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
21	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
22	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
23	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
24	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
25	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
26	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
27	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
28	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
29	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
30	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
31	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
32	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り
33	音響機器用スピーカー	スピーカー	日本	10,000円	100	● ○ ○ ○ ○	在庫有り

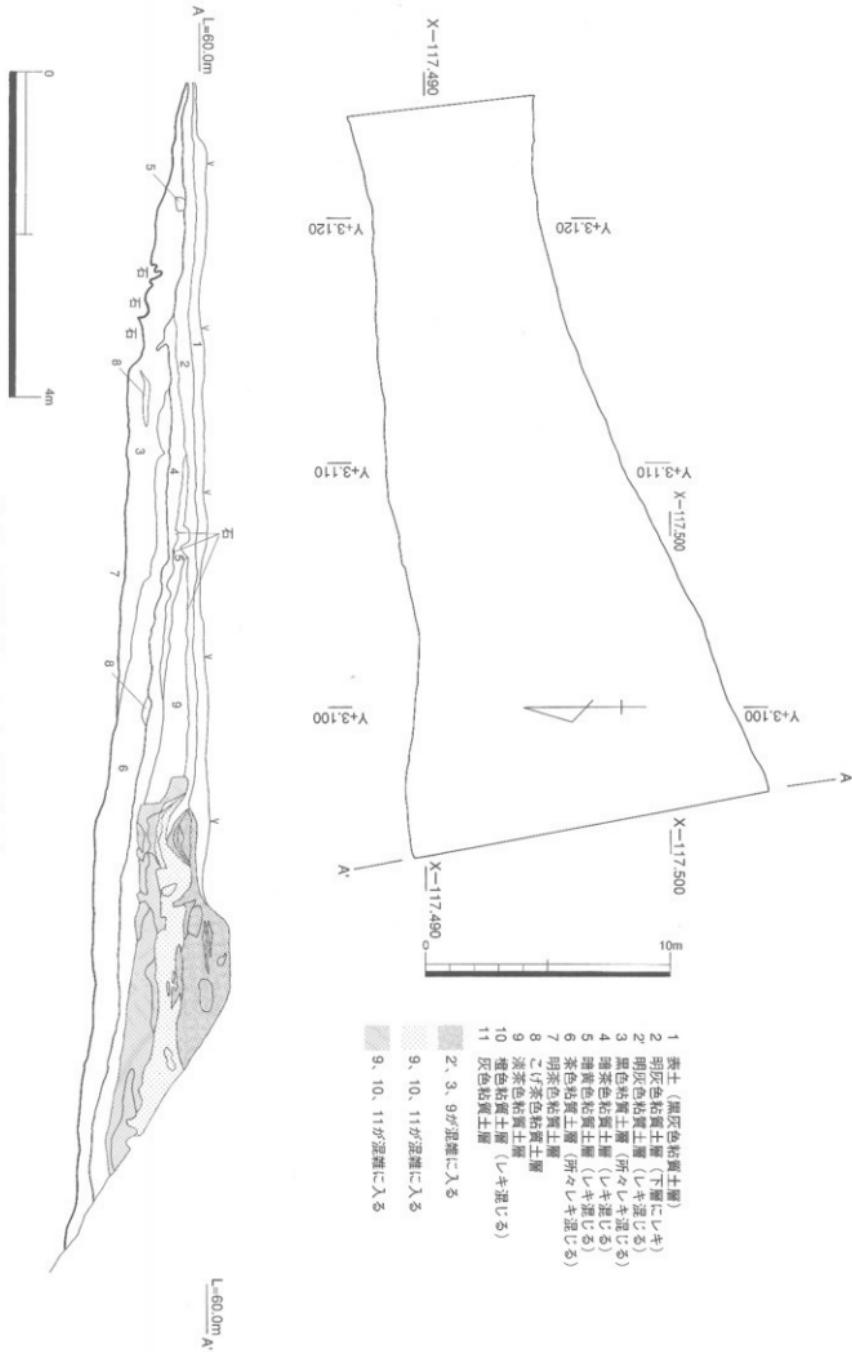
- 77 -



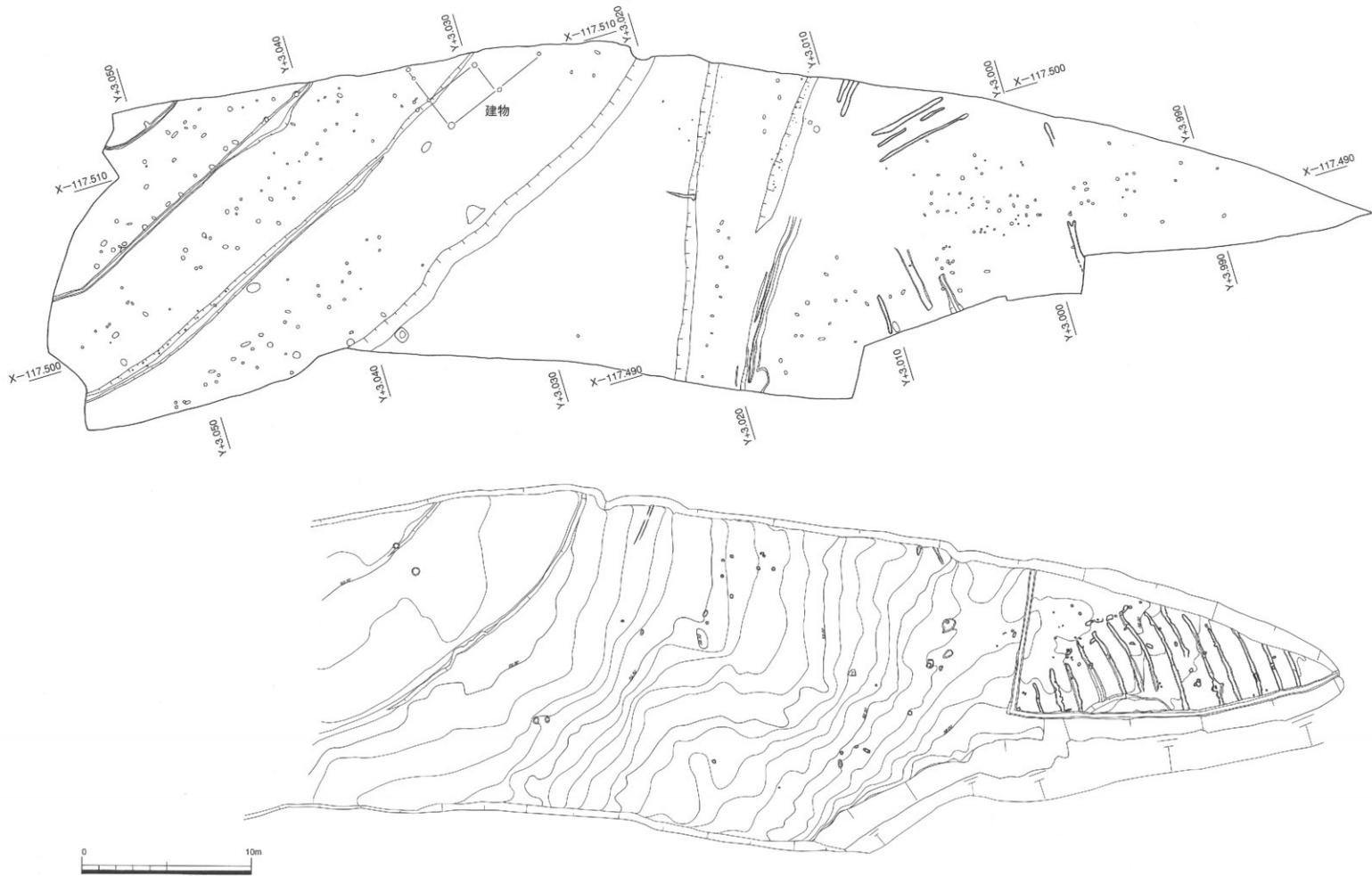
第2図 堂庭遺跡周辺地形図 (S = 1/2500)



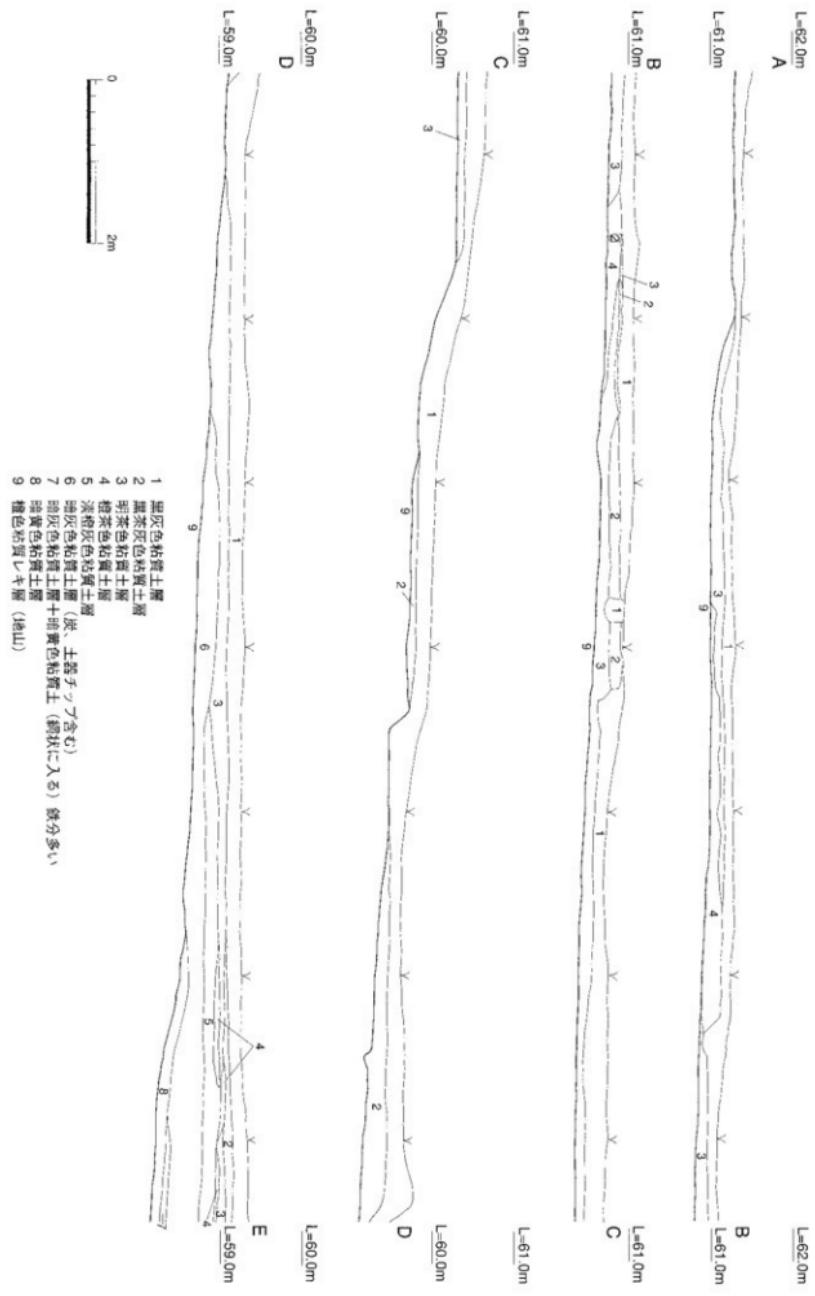
第3図 トレンチ配置図 ($S = 1/1000$)、土層図 ($S = 1/60$)



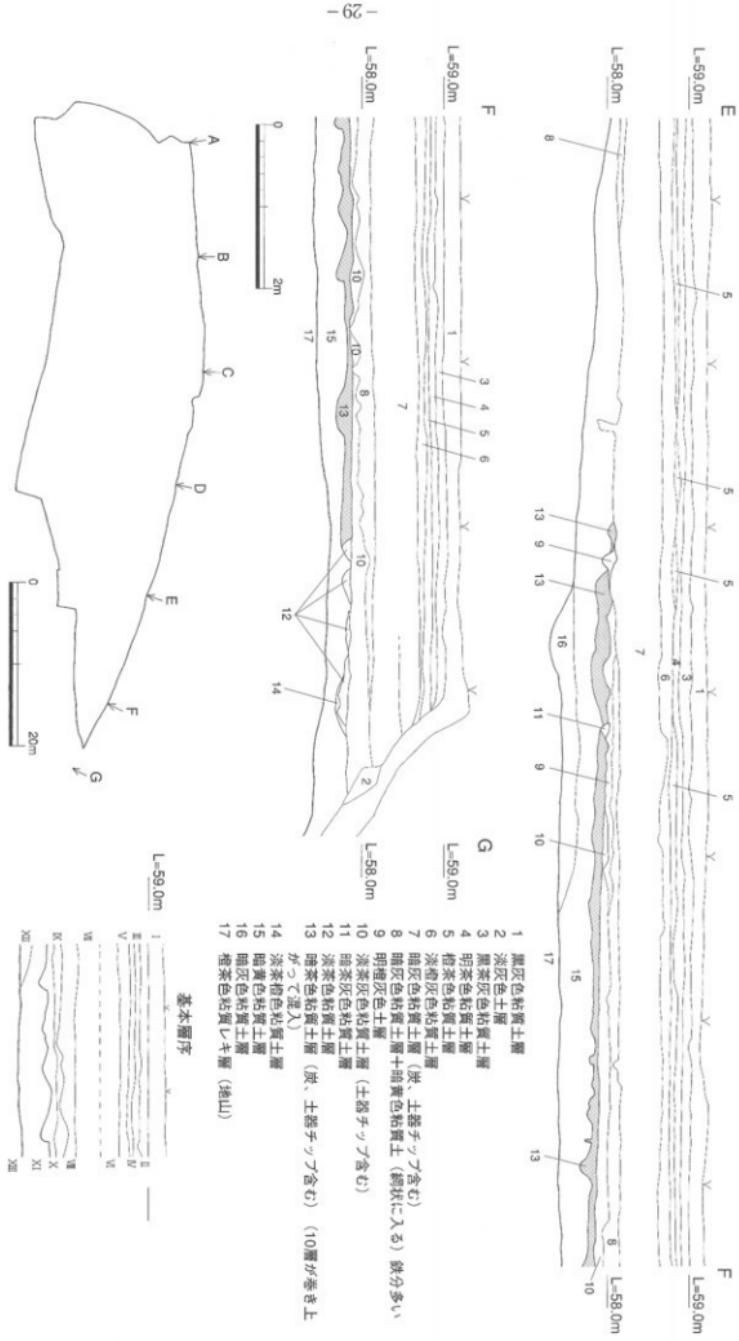
第4図 1区全体図 (S = 1/200)、土層図 (1/60)



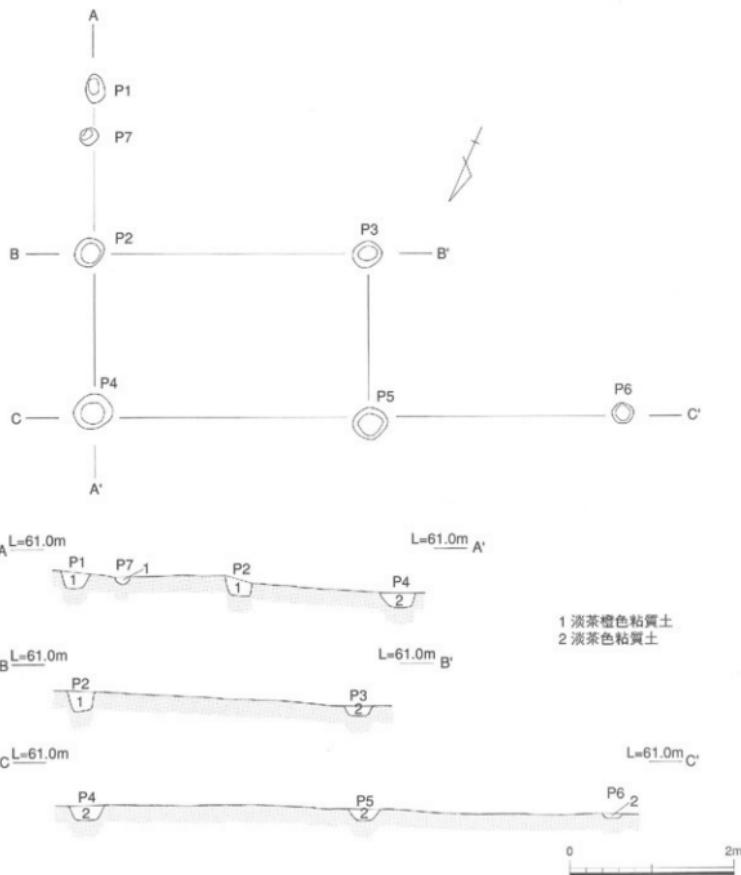
第5図 2区第1面全体図 ($S=1/200$)、2区10層全体図 ($S=1/200$)



第6図 2区南壁土層図 (S = 1/60)



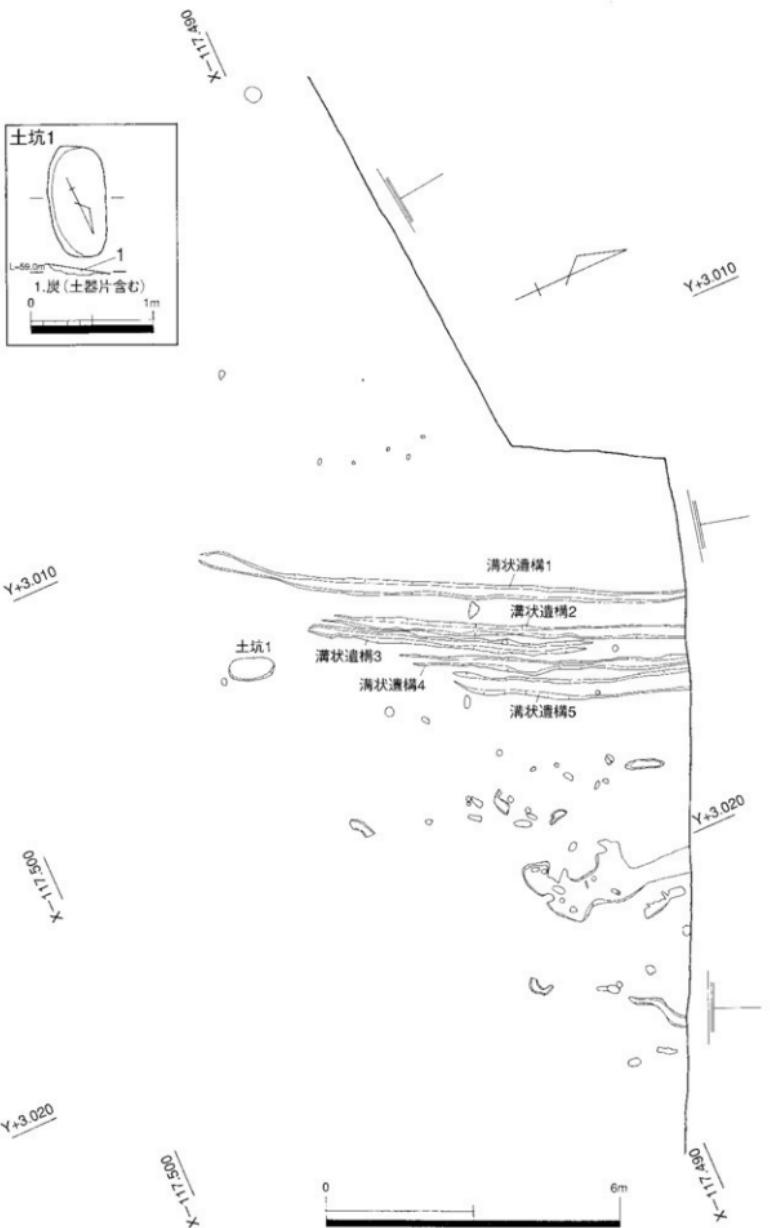
第7図 2区全体図 (S = 1/600)、南壁土層図及び基本層序 (S = 1/60)



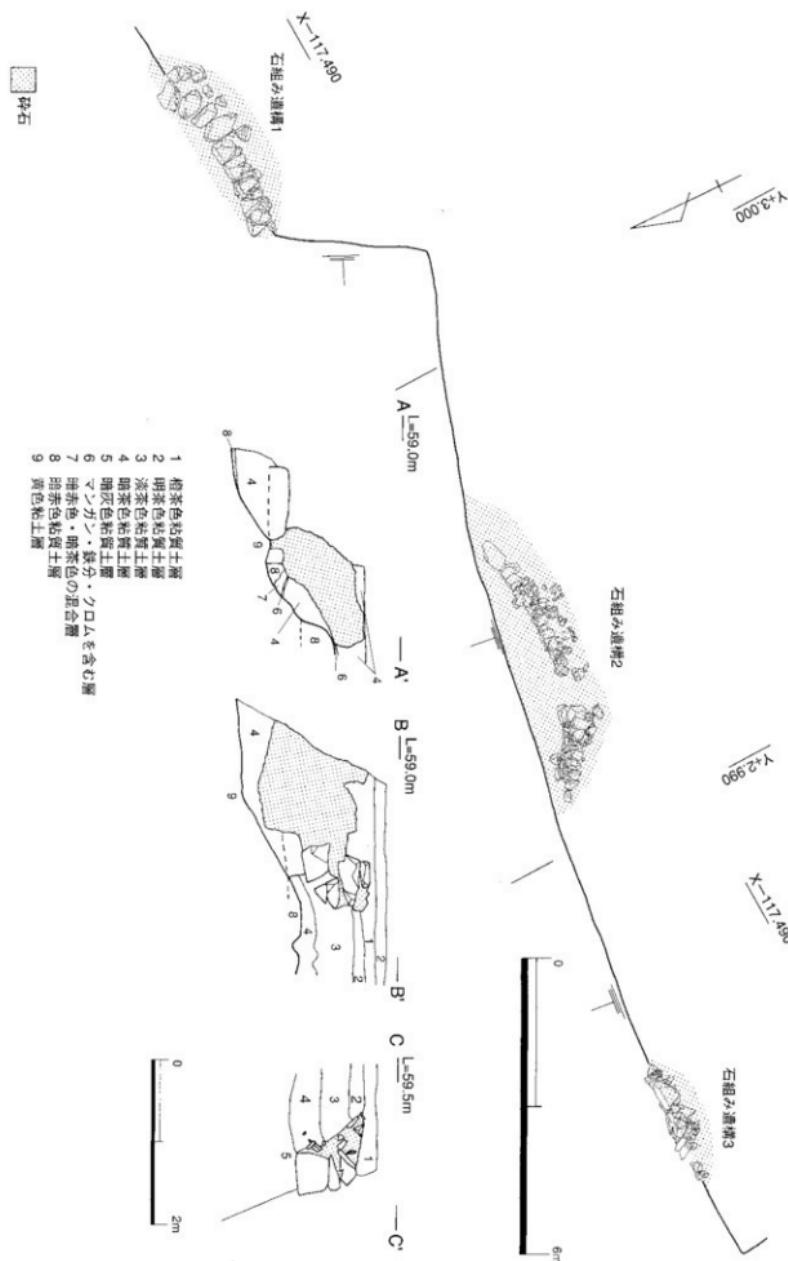
第2表 建物計測表

造構名		建物1						
主軸		N-66°-E						
柱穴配置		梁行き			桁行き			
規模(m)		2間~			2間~			
柱間距離		3.97			6.44			
柱間距離	柱間	P1-P2	P2-P4	P3-P5	P2-P3	P4-P5	P5-P6	
	距離(m)	2.01	1.96	2.08	3.38	3.47	3.08	
柱穴(cm)	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
	上面径(cm)	34×22	38×33	36×31	48×38	42×38	27×24	22×20
	底面標高(m)	60.52	60.42	60.345	60.28	60.265	60.3	60.565

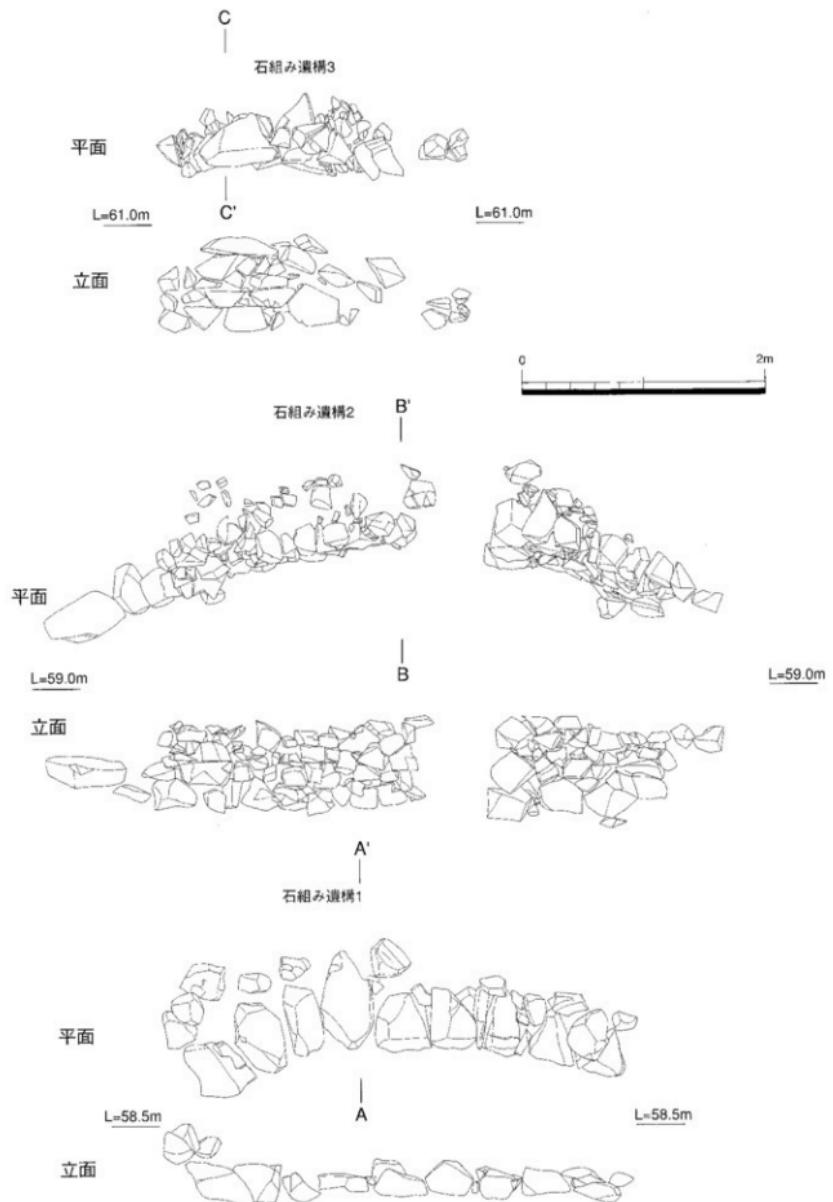
第8図 2区第1面建物1実測図 (S = 1/60)



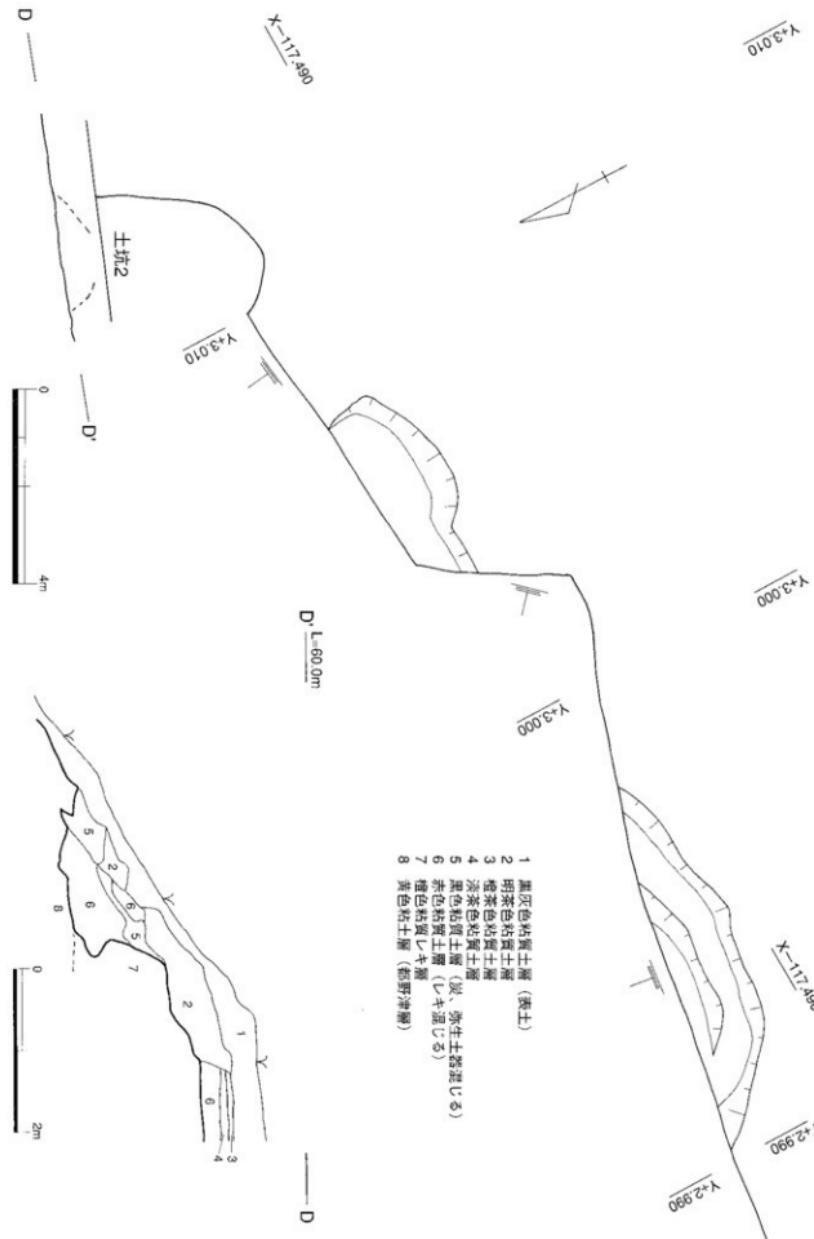
第9図 2区第4面平面図 ($S = 1/100$)、土坑1 ($S = 1/40$)



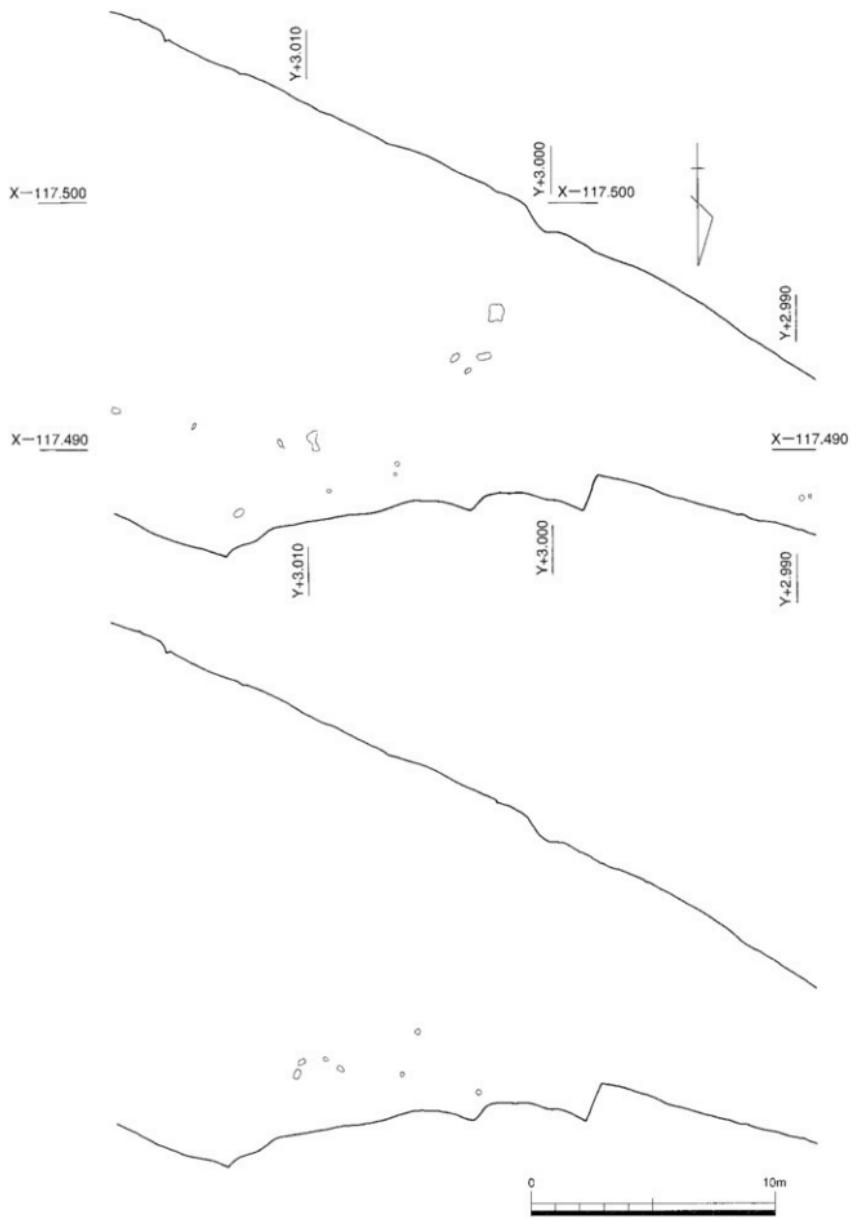
第10図 2区第4面石組み造構配置図 (S=1/100)、土層図 (S=1/160)



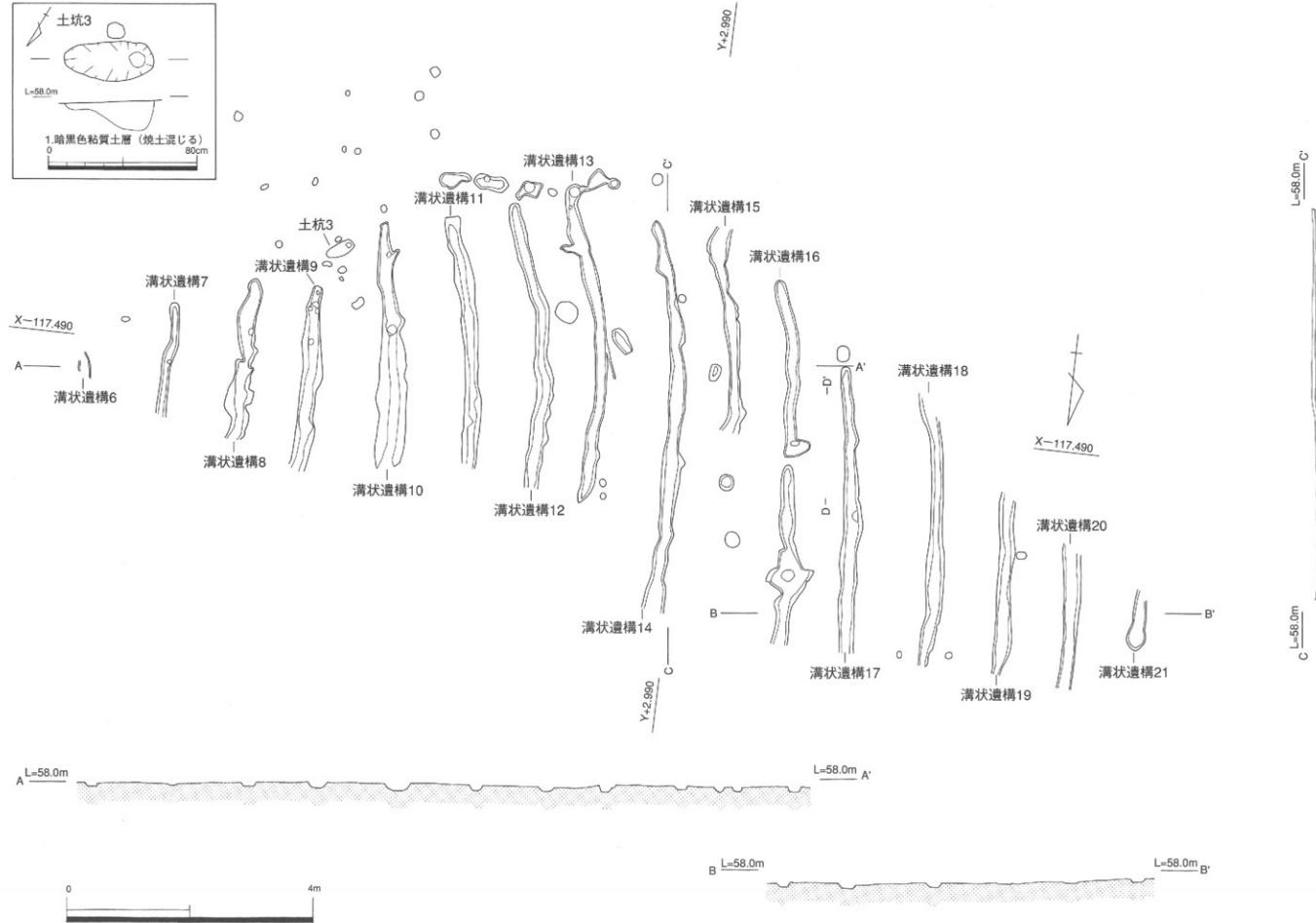
第11図 2区第4面石組み遺構平面図、立面図 ($S = 1/40$)



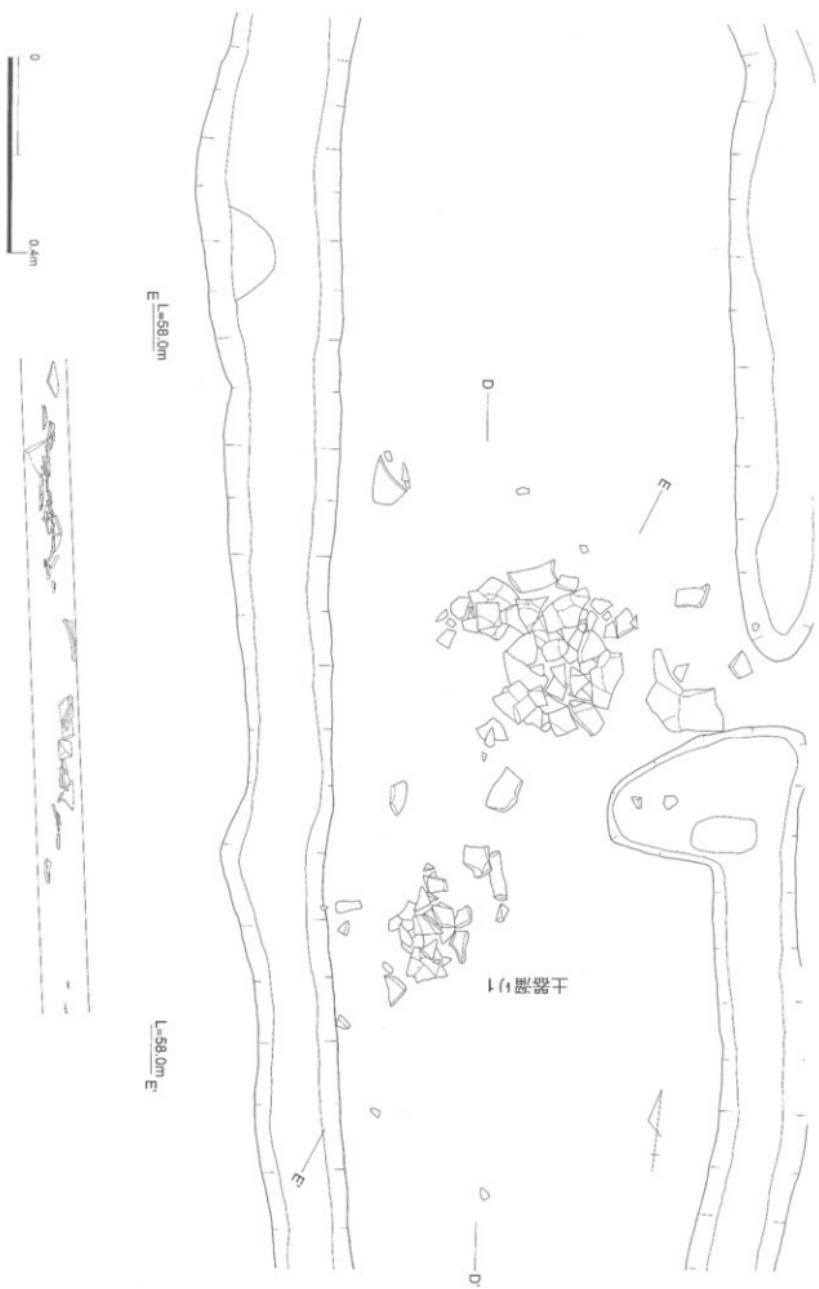
第12図 2区第4面石組み溝構平面図 ($S = 1/100$)、土坑2土層図 ($S = 1/60$)



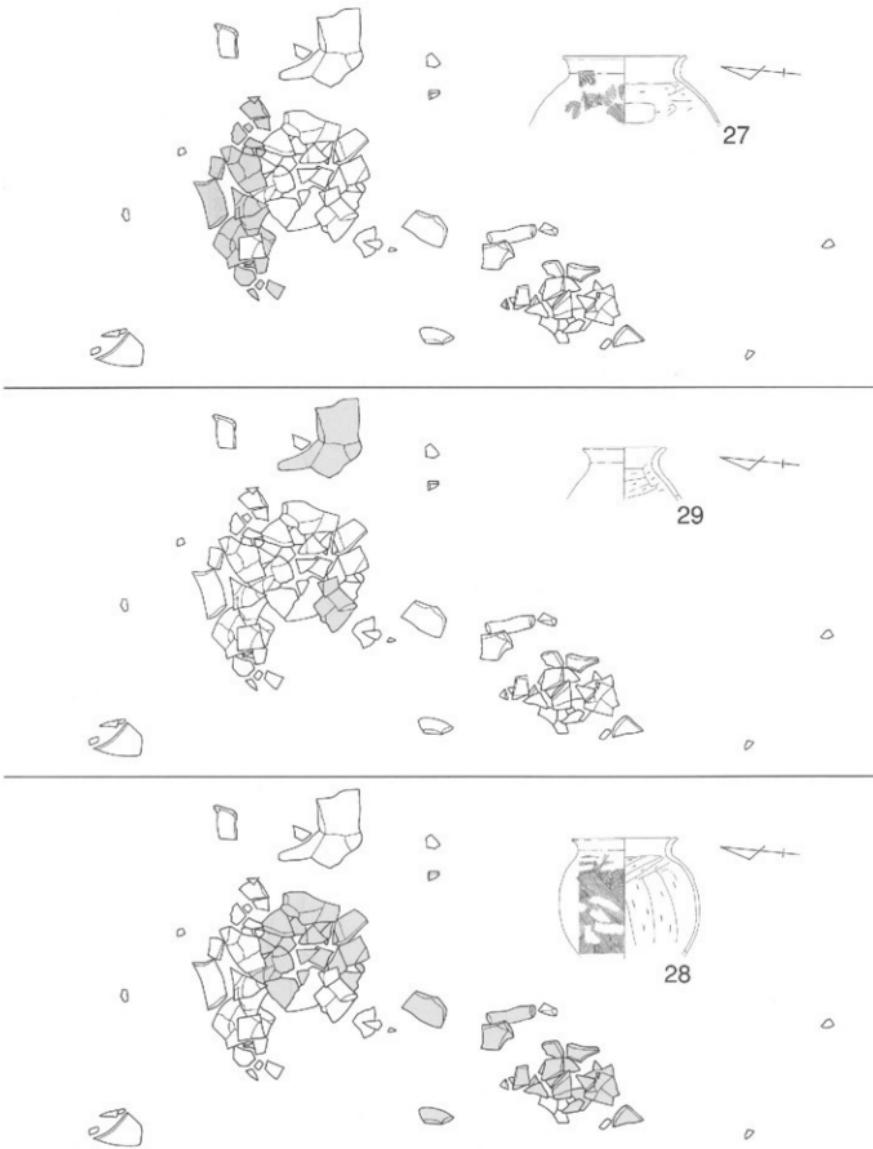
第13図 2区第8・9面平面図 (S = 1/200)



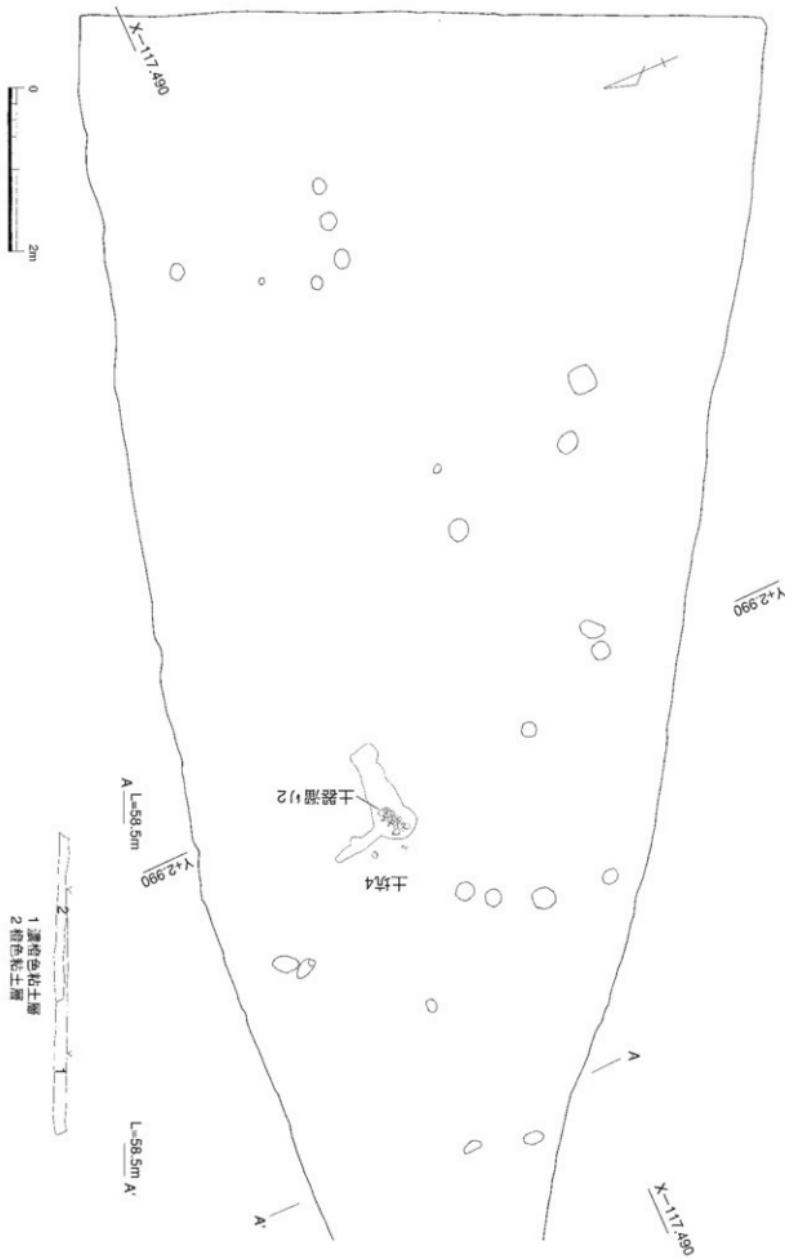
第14図 2区10層溝状遺構平面図、断面図、見通し図 ($S = 1/60$)、土坑3実測図 ($S = 1/60$)



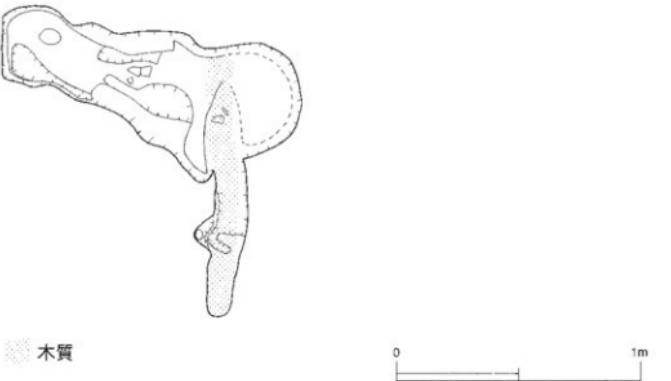
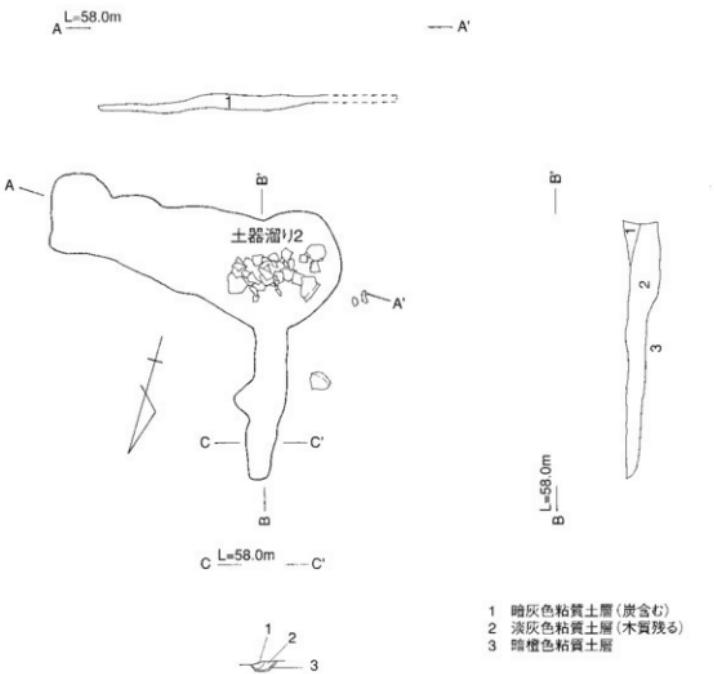
第15図 2区10層土器通り1平面図、見通し図 ($S = 1/10$)



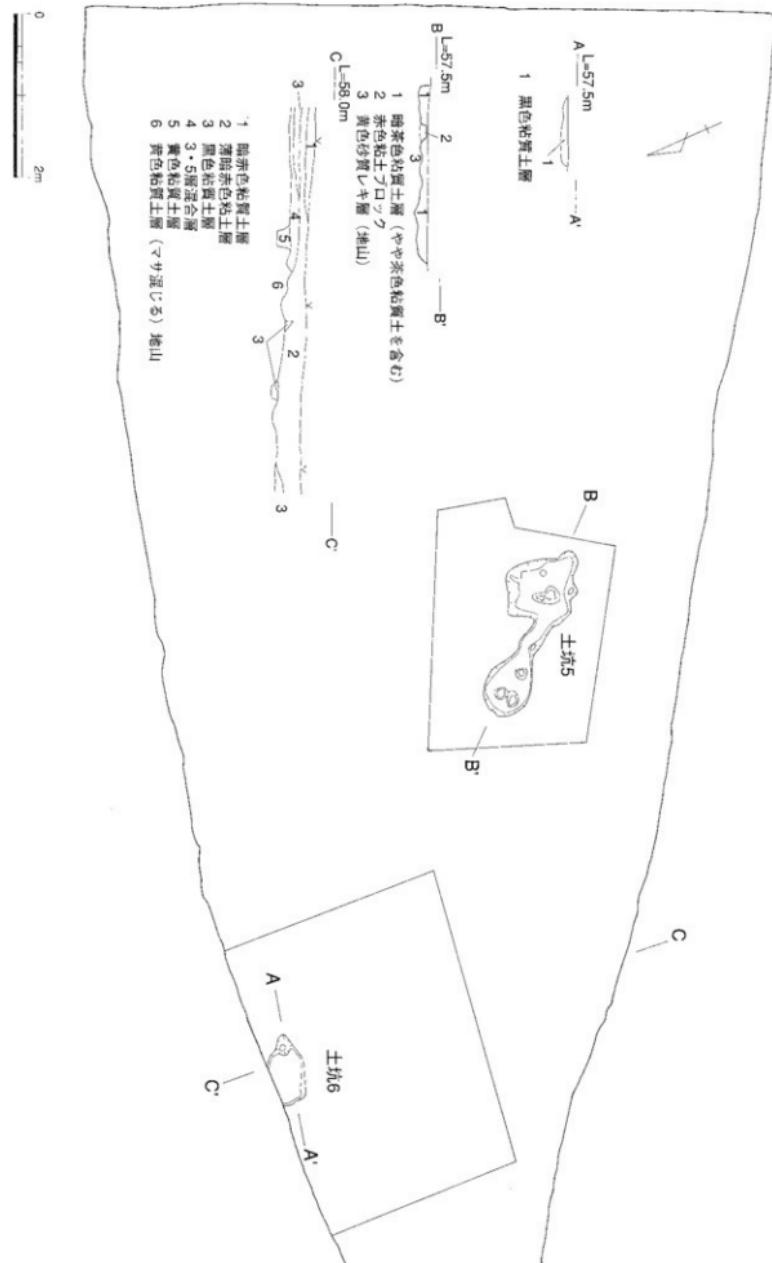
第16図 2区10層土器溝り1 遺物出土状況



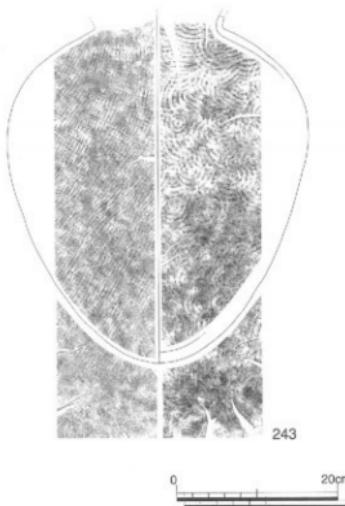
第17圖 2區第10面遺構平面圖 (S=1/60)



第18図 2区第10面土坑4、土器溜り2 実測図 ($S=1/20$)



第19図 2区第1面土坑5・6実測図 (S=1/60)

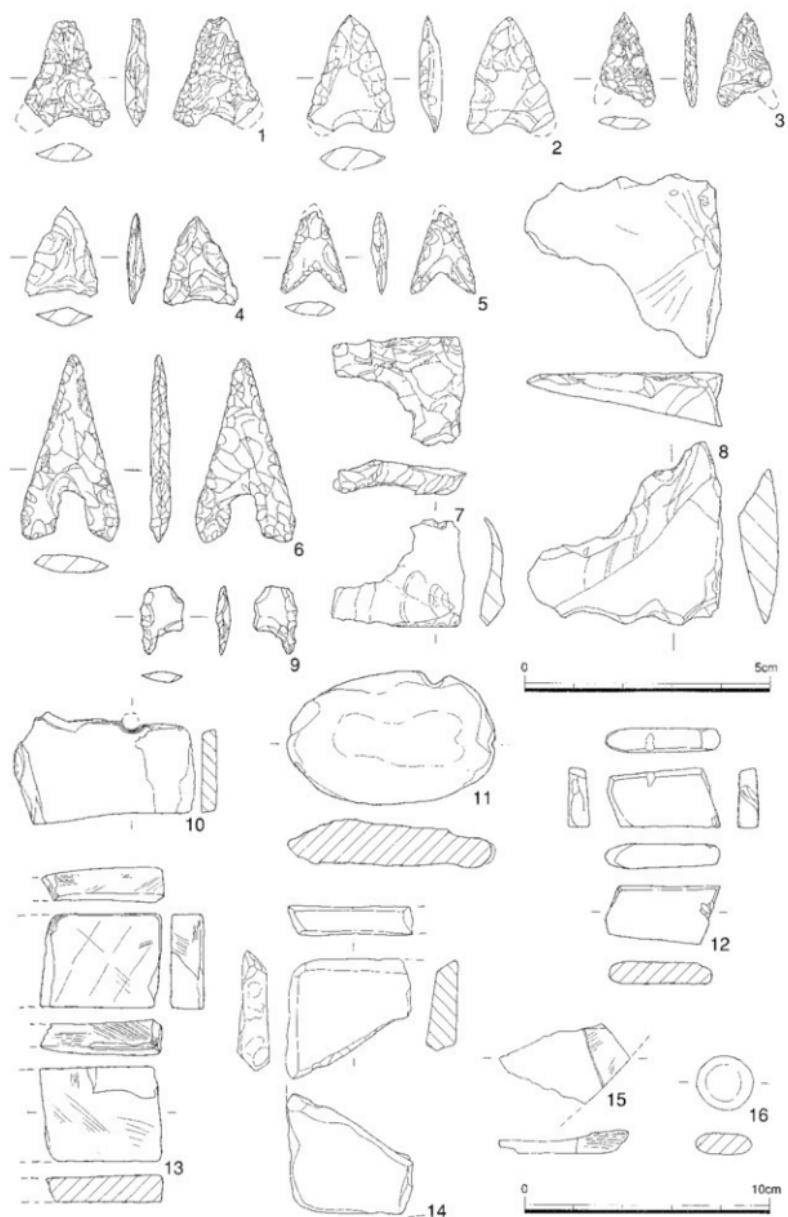


第20図 有福温泉町本明出土須恵器 地図 ($S = 1/30000$)、実測図 ($S = 1/6$)

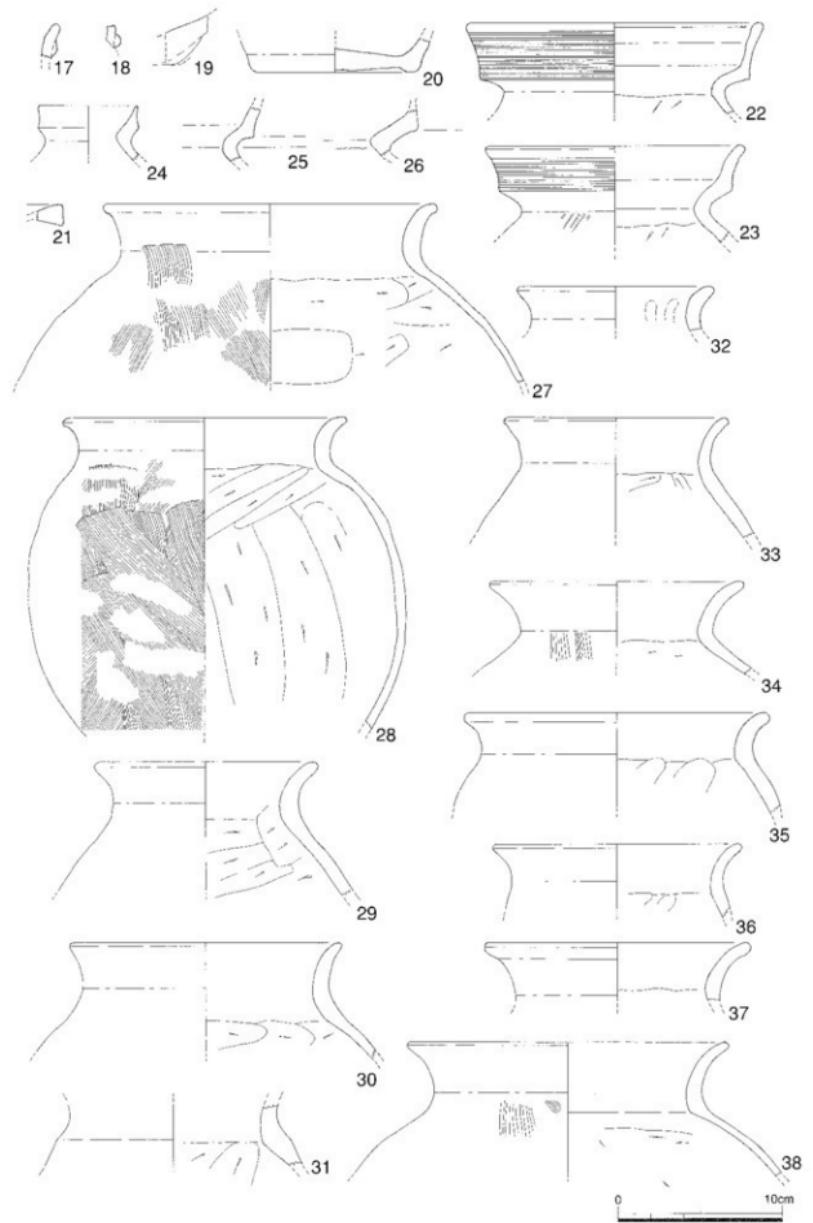
有福温泉公民館 沿革誌 昭和五十四年六月
扇元 勝美記載
本明山の南側中腹から須恵器発見。これは昭和十八年九月の水害により山崩れ、その中から出土せしもの 採取者 本明 宇津井 室宗
宇津井室宗氏裏山の反対側に深山塔と云う地にあり、水田五反歩余りあり、現在は山林化している。



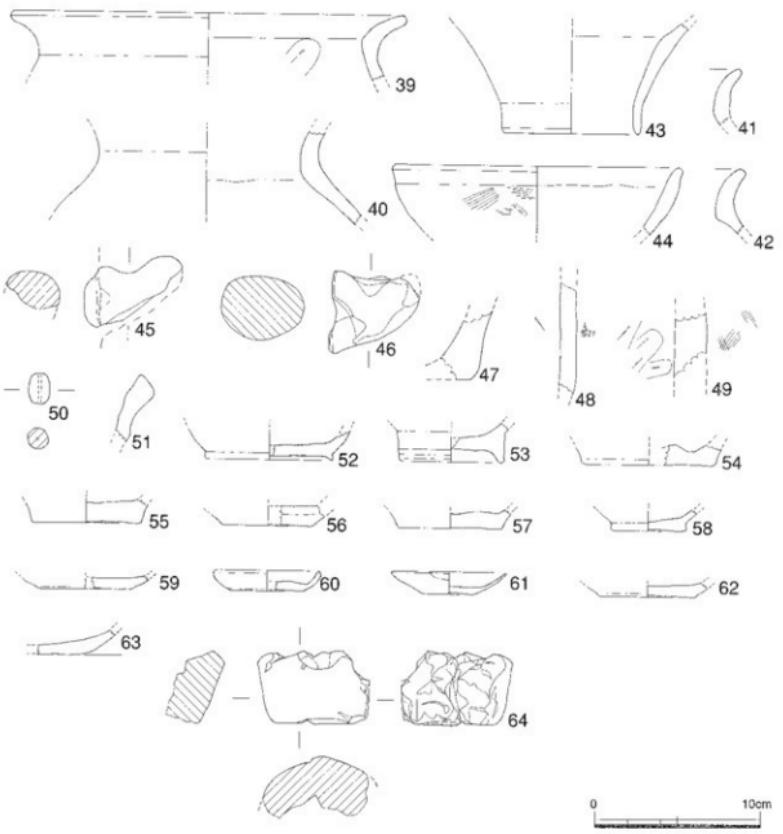
有福本明出土須恵器



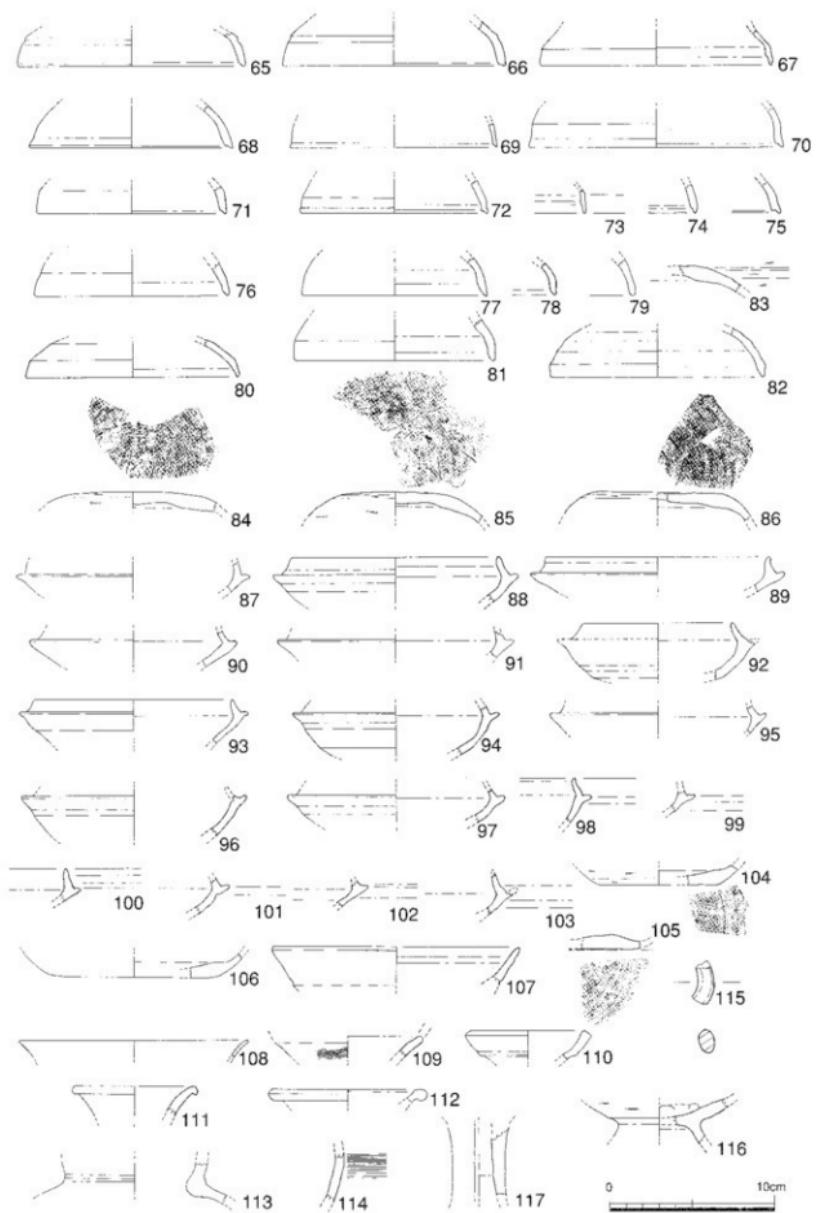
第21図 遺物実測図① (S = 1/1, 1/2)



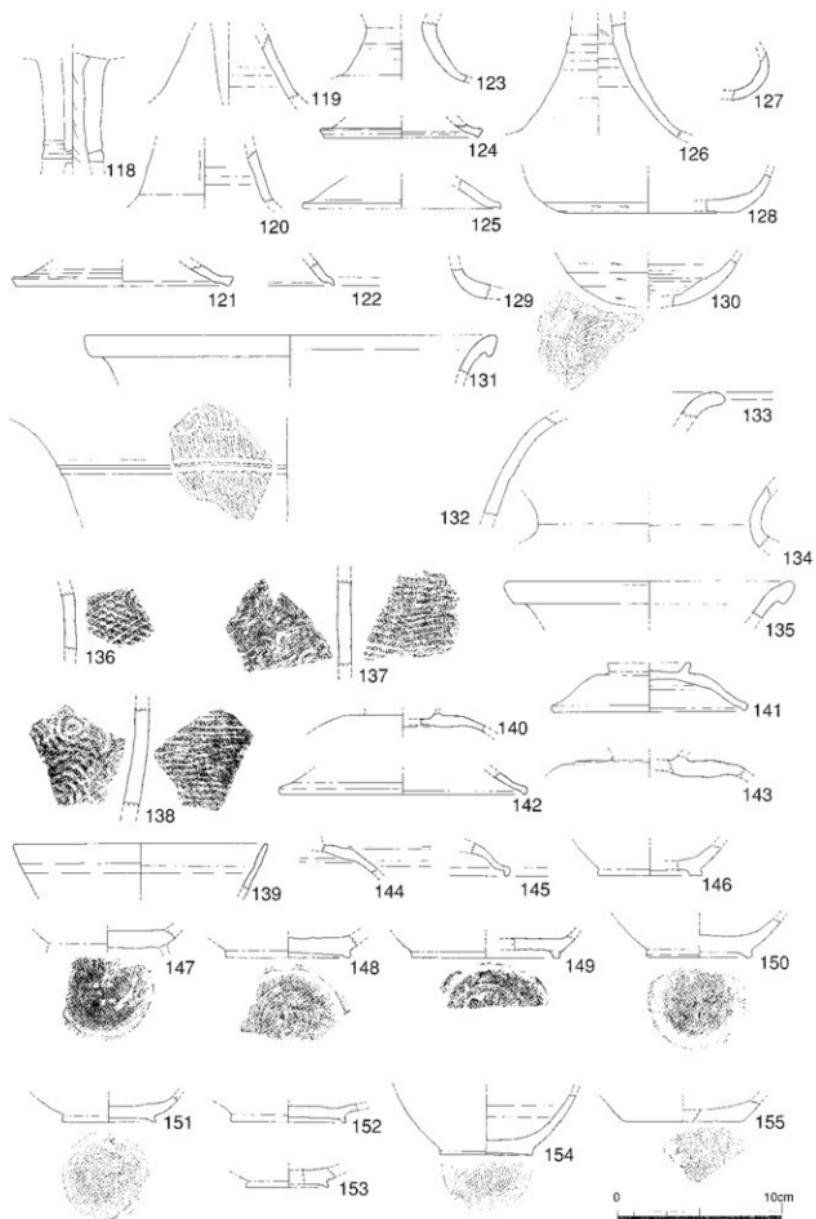
第22図 遺物実測図② (S=1/3)



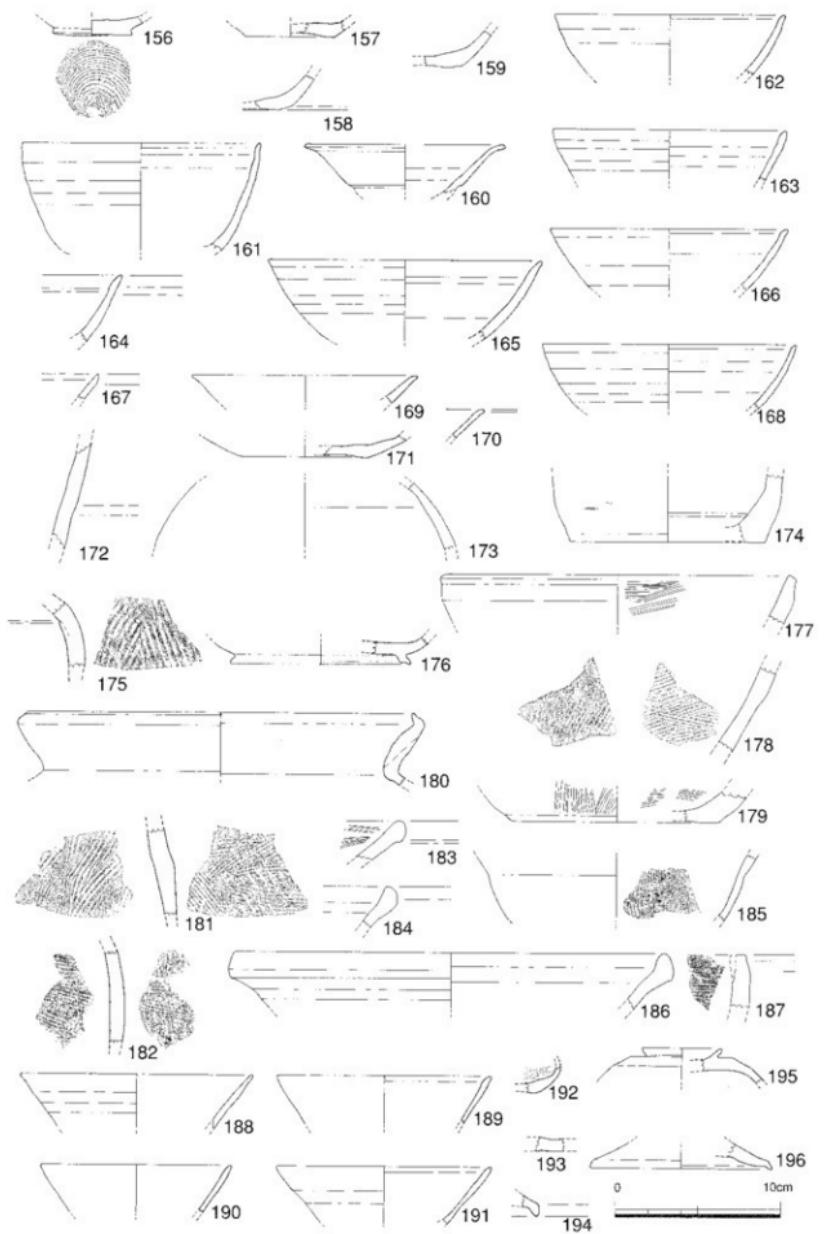
第23図 遺物実測図③ (S=1/3)



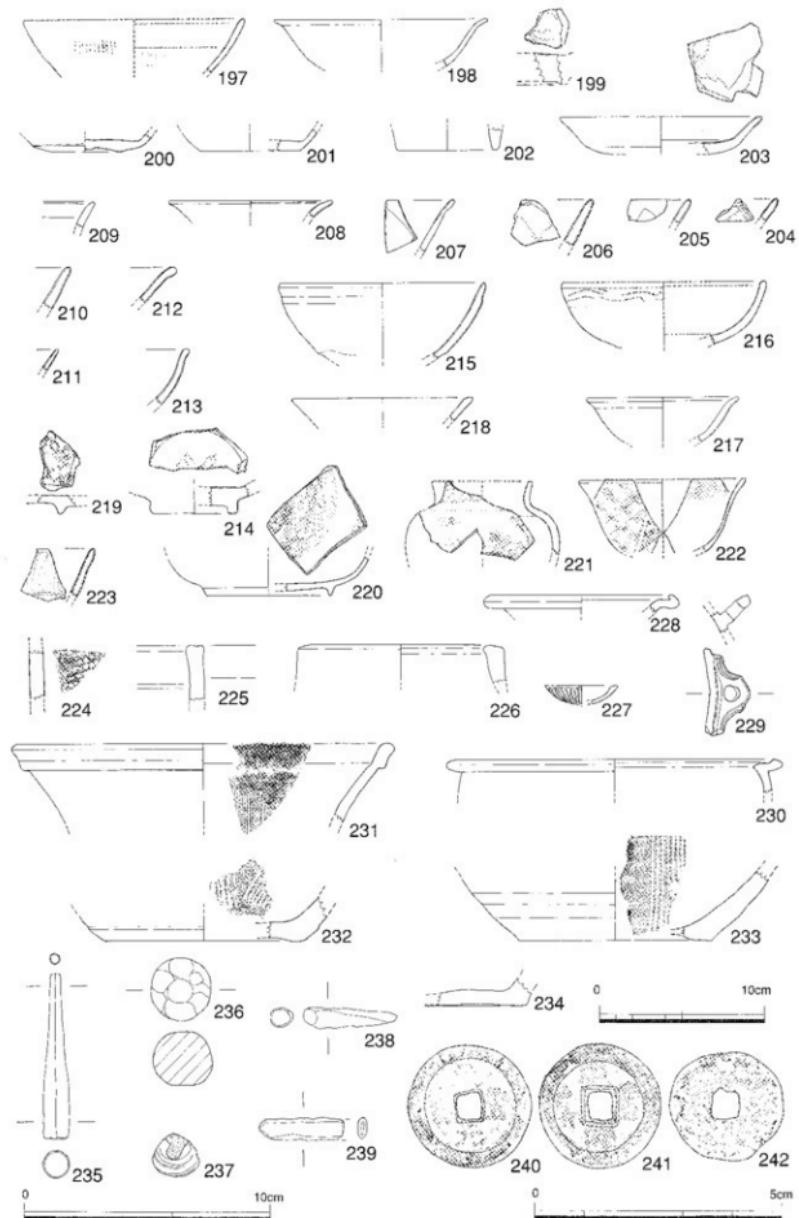
第24図 遺物実測図④ (S=1/3)



第25図 遺物実測図⑤ (S=1/3)



第26図 遺物実測図(6) (S=1/3)



第27図 遺物実測図⑦ (S=1/1, 1/2, 1/3)

器用番号	出土場所	法面(m)	剖面	調整	特徴		色調	施工	造成	時代	備考
					底面	側面					
1 石器 石器	口経 Ⅱ区C	2.2	1.8	縦溝	底部円形に深くりこむ	無色石頭	褐色	材質、圓鏡石	材質、圓鏡石	神文時代	隨伴遺
2 石器 石器	口経 Ⅱ区D	1.6	0.6	縦溝	底部三角形に深くりこむ	無色石頭	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
3 石器 石器	口経 Ⅱ区C	—	—	縦溝	底部、円形に深くりこむ	無色石頭	褐色(透明感有り)	材質、無闇石	材質、無闇石	神文時代	
4 石器 石器	口経 Ⅱ区A	2.4	0.5	縦溝	底部、円形に深くりこむ	無色石頭	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
5 石器 石器	口経 Ⅱ区C	長さ 1.6	0.3	縦溝	底部三角形に深くりこむ	無色石頭	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
6 石器 石器	口経 Ⅱ区A	長さ 1.7	0.6	縦溝	底部、円形に深くりこむ	無色石頭	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
7 石器 石器	口経 Ⅱ区A	長さ 2.7	0.6	縦溝	—	無色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
8 石器 石器?	口経 Ⅱ区A	長さ 3.9	1.1	縦溝	—	青黒色	青黒色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
9 石器 石器	口経 Ⅱ区C	長さ 1.4	0.5	縦溝	—	無色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
10 石器 石器	分布調査 Ⅱ区A	長さ 7.4	4.6	縦溝	27cm、片側穿孔	穴の発生率0.7cm	黒青色	材質、粘板岩系	材質、粘板岩系	神文時代	
11 石器? 石器	口経 Ⅱ区A	長さ 8.4	0.6	縦溝	底部、円形に深くりこむ	無色	青褐色	材質、粘板岩系	材質、粘板岩系	神文時代	
12 石器 石器	口経 Ⅱ区D	長さ 7.4	1.3	縦溝	—	無色	青黒色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
13 石器 石器	口経 Ⅱ区C	長さ 4.9	1.5	縦溝	—	褐色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
14 石器 石器	口経 Ⅱ区C	長さ 4.9	1.2	縦溝	—	褐色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
15 石器 石器	口経 Ⅱ区C	長さ 3.3	0.9	縦溝	—	褐色	褐色	材質、粘板岩系	材質、粘板岩系	神文時代	
16 石器 石器	口経 Ⅱ区C	—	—	縦溝	—	褐色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
17 石器 石器	口経 Ⅱ区A	—	—	縦溝	—	褐色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
18 口経 口経	口経 Ⅱ区A	—	—	縦溝	—	褐色	褐色	材質、サスカイト	材質、サスカイト	神文時代	
19 純土器 純土器	底部付近 Ⅱ区A	—	—	内面 1.4~	内面 ナメ	—	—	外側 ナメ	外側 ナメ	神文時代	
20 純土器 純土器	底部付近 Ⅱ区A:11層	—	—	内面 9.4	内面 ナメ	—	—	外側 ナメ	外側 ナメ	神文時代	
21 純土器 純土器	底部付近 Ⅱ区:10層	—	—	内面 1.3~	内面 ナメ	—	—	外側 ナメ	外側 ナメ	神文時代	
22 純土器 純土器	底部付近 Ⅱ区C	17.0	5.5~	内面 ナメ	13隻の形判明	—	褐色やや露出	外側 褐色	褐色	外生葉層	外側に入ス
23 純土器 純土器	口経 Ⅱ区	13.4	6.0~	内面 ナメ	舟形ヘラズアリ	—	褐色	外側 褐色	褐色	V-3	
24 純土器 純土器	口経 Ⅱ区C	5.9	3.0~	外面 ナメナメ	7件の複数回	—	外側 褐色	外側 褐色	褐色	V-3	
25 純土器 純土器	口経 Ⅱ区C	—	—	内面 ナメナメ	筒状ヘラズアリ	—	褐色	外側 褐色	褐色	V-3	

規範	種別	部位	出土地點	口径(cm)	底盤	器形	寸法	特徴	色相	地工	焼成	時代	備考
番号	器種	部位	出土地點	口径(cm)	底盤	器形	寸法	特徴	色相	地工	焼成	時代	備考
25 新石器 後期	口縁	正規6 6.1周		3.5~	外縁 底化	一	1次	2次	3次				汚染後期
26 新石器 後期	口縁	正規6 6.1周		2.8~	外縁 底化	一	一	一	外縁 淡黃白色	やや粗い2mm程度の 砂粒含む。		V-4	
27 土器	口縁	正規6 6.1周	10箇下層	2.0~	外縁 ナメ	一	一	一	外縁 淡褐色	粗い2mm以上の砂粒 含む。	汚染後期	V-2	
28 土器	口縁	正規6 6.1周	10箇下層	2.0~	外縁 ナメ	一	一	一	外縁 淡褐色	粗い2mm以上の砂粒 含む。	汚染後期	V-2	
29 土器	上半部	正規6 6.1周	20	10.8~	外縁 ナメ	ハケメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い白色砂粒含む。	汚染後期	V-2	
30 土器	上半部	正規6 6.1周	20	10.8~	外縁 ナメ	ハケメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い白色砂粒含む。	汚染後期	V-2	
31 土器	上半部	正規6 6.1周	16.75	10.0~	外縁 ナメ	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い1mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
32 土器	上半部	正規6 6.1周	13	7.8~	外縁 底化	一	一	一	外縁 淡褐色	粗い2mm程度の砂粒 含む。	汚染後期	V-2	
33 土器	上半部	正規6 6.1周	16.4	6.6~	外縁 底化	一	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm以上 の砂粒含む。	汚染後期	V-2	
34 土器	上半部	正規6 6.1周	15	5.3~	外縁 ナメ	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
35 土器	口縁	正規6 6.1周	18	5.7~	内縁 ナメ	タケナメ	一	一	内縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
36 土器	口縁	正規6 6.1周	14.7	5.9~	内縁 ナメ	タケナメ	一	一	内縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
37 土器	口縁	正規6 6.1周	15.6	3.0~	外縁 ナメ	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
38 土器	上半部	正規6 6.1周	19.2	8.0~	内縁 ナメ	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
39 土器	口縁	正規6 6.1周	22.4	3.0~	外縁 ナメ	底化	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
40 土器	口縁	正規6 6.1周	5.1~	外縁 ナメ	底化	一	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
41 土器	口縁	正規6 6.1周	4.9	3.4~	内縁 ナメ	タケナメ	一	一	内縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
42 土器	口縁	正規6 6.1周	5.35~	外縁 ナメ	タケナメ	一	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
43 土器	口縁	正規6 6.1周	8	6.4~	内縁 ナメ	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	やや粗い2mm程度の砂 粒含む。	汚染後期	V-2	
44 土器	口縁	正規6 6.1周	17.1	4.1~	外縁 底化	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	粗い2mm程度の砂粒 含む。	古墳時代	V-2	内縁黒化のもの
45 土器	口縁	正規6 6.1周	5.1~	内縁 底化	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	白地を含む。	古墳時代	V-2	内縁黒化のもの	
46 土器	口縁	正規6 6.1周	5.05~	内縁 底化	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	白地を含む。	古墳時代	V-2	内縁黒化のもの	
47 土器	口縁	正規6 6.1周	5.45~	内縁 底化	タケナメ	一	一	外縁 淡褐色	白地を含む。	古墳時代	V-2	内縁黒化のもの	

器種	種類	部位	出土地點	口径	法面	高さ(cm)	内面	外形	断面	特徴	色調	胎土	焼成	時代	備考
器身	器身	II区C	口縁	4.1~	縦縫	1次	2次	3次	—	—	赤褐色	粘土	燒成	古墳時代～	古墳時代～
47	土器	直輪式ガラフ	底盤	6.8~	内面	外縫 体縫不規	—	—	—	内面 弧形	赤褐色	やや粗・弱め結合	やや不良	古墳時代～	会員時代
48	器身	直輪式ガラフ	脚部	10.8~	下縁	—	—	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	不規	古墳時代～	会員時代
49	土器	直輪式ガラフ	脚部	4.2~	外縫	ハヅクリ	—	—	—	内面 ハヅクリ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
50	土器	直輪式ガラフ	II区A	4.2~	内面	—	—	—	内面	—	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
51	土器	直輪式ガラフ	II区A	4.1~	内面	—	—	—	内面	—	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
52	土器	直輪式ガラフ	II区A	7.5	1.8~	内面	—	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
53	土器	直輪式ガラフ	II区A	6.4	2.45~	外縫	—	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
54	中世土器	瓦器	II区A	7.5	1.05~	内面	外縫 体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
55	中世土器	瓦器	II区A	6.5	1.5~	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
56	中世土器	瓦器	II区A	5.2	1.25~	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
57	中世土器	瓦器	II区A	6.2	1.2~	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
58	中世土器	瓦器	II区B	4	1.3~	内面	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
59	中世土器	瓦器	II区C	5	0.8~	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
60	中世土器	瓦器	II区A	6.2	4.4	1.25	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	中世	中世
61	中世土器	瓦器	II区C	6.9	3	1.35	外縫	体縫凹ナデ	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	中世	中世
62	中世土器	瓦器	II区C	5.6	0.95~	外縫	—	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
63	中世土器	瓦器	II区A	—	—	—	—	—	内面	内面 ハヅクリ	—	—	—	中世	中世
64	陶土	—	II区A	—	—	—	—	—	内面	—	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
65	漆器	—	II区A	13.7	2.1~	外縫	内面 回転ナデ	—	内面	内面 回転ナデ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
66	漆器	—	II区A	13.5	2.8~	外縫	内面 回転ナデ	—	内面	内面 回転ナデ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
67	漆器	—	II区A	14	2.2~	外縫	内面 回転ナデ	—	内面	内面 回転ナデ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
68	漆器	—	II区A	12.3	2.6~	外縫	内面 回転ナデ	—	内面	内面 回転ナデ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～
69	漆器	—	II区A	12.8	1.4~	外縫	内面 回転ナデ	—	内面	内面 回転ナデ	—	—	—	吉良時代～	吉良時代～

番号	種類	部位	出土場所	深さ(cm)	性質	堆積	特徴	色調	胎土	構成	時代	備考
70	漆器	口縁	Ⅱ区A	15.2	24~	1次	2次	3次	外腹 内面 回転ナフ	輪郭 外腹 内面 回転ナフ	古墳時代	
71	漆器	口縁	Ⅱ区A	11.5	1.7~	外腹 内面 回転ナフ	漆地入る	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
72	漆器	口縁	Ⅱ区C	11.4	2.1~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
73	漆器	口縁	Ⅱ区C	1.5~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代			
74	漆器	口縁	Ⅱ区A	1.75~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代			
75	漆器	口縁	Ⅱ区A	9.9	1.05~	外腹 内面 回転ナフ	強い沈線入る	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
76	漆器	口縁	Ⅱ区C	9~10層	—	—	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
77	漆器	口縁	Ⅱ区C	11.7	2.1~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
78	漆器	口縁	Ⅱ区A	3.9	2.3~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
79	漆器	口縁	Ⅱ区C	8.9	2.25~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
80	漆器	口縁	Ⅱ区C	12.8	2.3~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
81	漆器	口縁	Ⅱ区C	12	3.1~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
82	漆器	口縁	Ⅱ区A	13	3.0~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代	高井の坪原の可取	
83	漆器	天井部	Ⅱ区C	—	1.2~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
84	漆器	天井部	Ⅱ区C	3.2	0.7~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代	もしくは外装呢？	
85	漆器	天井部	Ⅱ区A	2.4	1.5~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代	もしくは外装呢？	
86	漆器	天井部	10層下層	—	—	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
87	漆器	口縁	Ⅱ区A	18.5	7.1	1.4~	外腹 内面 回転ナフ	天井部回転ナフ入	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代	もしくは外装呢？	
88	漆器	口縁	Ⅱ区A	12.1	2.8~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
89	漆器	口縁	Ⅱ区A	13.1	2.2~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
90	漆器	口縁	Ⅱ区A	14.3	1.9~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
91	漆器	口縁	Ⅱ区A	14.4	1.4~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		
92	漆器	口縁	Ⅱ区A	9	3.5~	外腹 内面 回転ナフ	—	外腹 内面 回転ナフ	外腹 内面 回転ナフ	古墳時代		

規範	種別	部位	出土点	口径	底型(cm)	直径	高さ	内面	外縁	胎土	焼成	時代	備考
番号	種別	部位	出土点	口径	底型(cm)	直径	高さ	内面	外縁	胎土	焼成	時代	備考
93	漆器	蓋	Ⅱ区A	17.2	2.7~	1次	—	2次	3次	—	—	古墳時代	—
		身	9.0厚	—	—	—	—	内面	内面	漆器	漆器	古墳時代	—
94	漆器	身	Ⅱ区B	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	ヘラゲ式の方舟形
		身	9.0厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
95	漆器	口縁	Ⅱ区A	12.6	1.8~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
96	漆器	身	Ⅱ区C	13.2	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		身	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
97	漆器	身	Ⅲ区A	13.6	2.6~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		身	9.10厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
98	漆器	口縁	Ⅲ区B	—	2.8~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
99	漆器	口縁	Ⅲ区D	—	1.4~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	3.4厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
100	漆器	口縁	Ⅲ区B	—	2.05~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
101	漆器	口縁	Ⅲ区C	—	2.3~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
102	漆器	口縁	Ⅲ区	—	1.65~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
103	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	2.65~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
104	漆器	底盤	Ⅲ区A	—	0.9~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		底盤	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
105	漆器	底盤	Ⅲ区C	—	0.9~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		底盤	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
106	漆器	底盤	Ⅲ区A	—	0.4~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		底盤	6.7厚	—	1.3~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
107	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	2.3~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
108	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	1.1~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
109	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	1.3~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
110	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	1.8~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
111	漆器	口縁	Ⅲ区C	—	1.18~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
112	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	0.85~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
113	漆器	口縁	Ⅲ区C	—	2.0~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	6.7厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
114	漆器	口縁	Ⅲ区A	—	3.0~	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	10厚	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—
		口縁	SD04	—	—	内面	内面	内面	外縁	漆器	漆器	古墳時代	—

番号	種別	相位	出土地点	□盤	正盤	反盤	横盤	1次	2次	3次	特徴	色調	地土	傳吸	時代	備考
115 須恵器	収納	9周	○区A	2.55~	外縁 ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 細白色	良好	古墳時代		
116 不明	漆器	基板	○区C	2.75~	外縁 ナデ	—	—	—	—	—	外縁 明褐色	やや粗 少量の白色	良好	古墳時代		
117 萬葉	漆器	基板 土塗付漆器	△区B	4.25~	外縁 匠板ナデ	指揮土塗	—	—	—	—	外縁 明褐色	發掘盒内 含金量	やや粗 あまり有る	古墳時代		
118 萬葉	漆器	匠板	7周	6.3~	外縁 ケズナカ?	—	—	—	—	—	3万角、上下銀スカン	外縁 銀灰色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代	
119 萬葉	漆器	山形 山形上縁	△区A	4.05~	外縁 シロナガ	—	—	—	—	—	外縁 明褐色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
120 漆器	山形	山形 山形上縁	△区A	3.2~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 明褐色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
121 漆器	山形	8周	○区C	1.26	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	や少量の白色砂粒音	良好	古墳時代		
122 漆器	漆器	5周	○区D	1.5~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 褐色	良好	古墳時代		
123 萬葉	漆器	山形	6周	1.26~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 明褐色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
124 萬葉	漆器	9周	○区A	0.8~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	や少量の白色砂粒音	良好	古墳時代		
125 萬葉	漆器	9周	○区A	1.2	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 明褐色	や少量の白色砂粒音	良好	古墳時代		
126 萬葉	漆器	10周	○区A	6.0~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
127 萬葉	漆器	丸底	9周A	2.9~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	や少量の白色砂粒音	良好	古墳時代		
128 漆器	漆器	底板	9周	2.3~	外縁 匠板ナデ	鹿鳴館 ヘラクゼ	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
129 漆器	漆器	9周A	9周	1.9~	外縁 ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 少量の白色	良好	古墳時代		
130 漆器	漆器	9周	○区A	2.6~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
131 漆器	漆器	口縁	9周	9.8	外縁 匠板ナデ	鹿鳴館 ヘラクゼ	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 白色砂粒音	良好	古墳時代		
132 漆器	漆器	口縁	9周	6.0~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 少量の白色	良好	古墳時代		
133 漆器	漆器	丸底A	9周	1.6~	外縁 匠板ナデ	鹿鳴館 ヘラクゼ	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 少量の白色	良好	古墳時代		
134 漆器	漆器	口縁	9周	2.5~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 少量の砂粒音	良好	古墳時代		
135 漆器	漆器	口縁	9周	2.3~	外縁 匠板ナデ	—	—	—	—	—	外縁 染色	やや粗 少量の砂粒音	良好	古墳時代		

器物	埋め	部位	出土場所	法面(m)	幅員	調整	特徴	色調	土質	風貌	時代	備考	
參号 銅鏡	器地	II区	口縁	3.6~	外縁 内縁	タココロタキ	1次	2次	3次	外縁 内縁	深青色	やや暗・白褐色包含 やや不規	古墳時代
130 銅鏡	兩形	II区	6.5m	外縁 内縁	鏡面不規	—	—	—	外縁 内縁	深青色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
131 銅鏡	兩形	II区	10m下層	5.2~	外縁 内縁	タココロタキ	—	—	外縁 内縁	深青色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
132 銅鏡	兩形	II区	6.1~	外縁 内縁	同心円タスキ	—	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
133 銅鏡	口縁	II区	5.7~	外縁 内縁	同心円タスキ	—	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
134 銅鏡	口縁	II区	15.4	2.9~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
135 子母口鏡	口縁	II区	6.9~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
140 鏡	鏡	II区	5.0~	外縁 内縁	回転ナメ	1.2~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
141 圓鏡	光形	II区	11.6	4.8	3	内縁 外縁	回転ナメ	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
142 鏡	口縁	II区	7.7~	外縁 内縁	回転ナメ	1.3~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
143 鏡	光形	II区	8.9~	外縁 内縁	回転ナメ	0.8~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
144 鏡	光形	II区	11.5~	外縁 内縁	回転ナメ	1.5~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
145 鏡	口縁	II区	6.9~	外縁 内縁	回転ナメ	2.0~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
146 鏡	口縁	II区	6.25	1.7~	外縁 内縁	回転ナメ	6.7~	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
147 片肩鏡	底部	II区	6.7~	外縁 内縁	回転ナメ	1.2~	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・白色粉紅色 やや不規	古墳時代	
148 鏡	光形	II区	7.5	1.4~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
149 鏡	底部	II区	9	1.3~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
150 鏡	底部	II区	6.1	2.2~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
151 鏡	底部	II区	5.6	1.6~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
152 鏡	底部	II区	6.8	1.15~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
153 鏡	底部	II区	6.2~	1.2~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
154 鏡	底部	II区	5.6	3.7~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
155 鏡	底部	II区	5.8	1.15~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	
156 鏡	底部	II区	3.4	1.15~	外縁 内縁	回転ナメ	—	—	外縁 内縁	深灰色	やや暗・少量の細砂混入 やや不規	平安時代	

規範	種別	部位	出土地点	埋置(㎝)	埋置	特徴	色調	出土	現成	時代	備考	
番号	器種	部位	II区B	口縁 5.4	0.8~ 外縁 回転ナメ	1次	2次	3次	特徴	色調	出土	
157	漆器	底部	II区A	4.7~5.0	内縁 回転ナメ	特止無切	—	—	—	—	平安時代	
158	漆器	底部	II区A	2.15~	外縁 回転ナメ	内縁 回転ナメ	新面	新灰色	やわらか ありめらか	良	平安時代	
159	漆器	底部	II区B	2.2~	外縁 回転ナメ	電鋸刃切	新面	淡灰色	やわらか ありめらか	良	平安時代	
160	漆器	口縁	II区A	1.2	2.85~	外縁 回転ナメ	—	—	新面つまら出し	外縁 新灰色	やわらか ありめらか	良
161	漆器	口縁	II区A	14.4	8.55~	外縁 回転ナメ	—	—	丸くねり	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
162	漆器	口縁	II区A	12.0	3.7~	内縁 回転ナメ	—	—	新面内面特	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
163	漆器	口縁	II区A	14	3.0~	内縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
164	漆器	口縁	II区A	4.05~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	淡灰色	やわらか ありめらか	良	
165	漆器	口縁	II区C	16.4	4.9~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	淡灰色	やわらか ありめらか	良
166	漆器	口縁	II区A	14.2	3.7~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
167	漆器	口縁	II区B	15.5~	内縁 回転ナメ	—	—	新面	淡灰色	やわらか ありめらか	良	
168	漆器	口縁	II区B	15.3	3.95~	内縁 回転ナメ	—	—	新面	淡灰色	やわらか ありめらか	良
169	漆器	口縁	II区C	13.6	17~	内縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
170	漆器	口縁	II区C	11.8~	内縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良	
171	漆器	底部	II区C	17.4	14~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
172	漆器	柄部	II区B	6.65~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良	
173	漆器	柄部	II区C	3.9~	内縁 回転ナメ	ハサフナコ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
174	漆器	底部	II区A	11.2	4.0~	外縁 回転ナメ	ナメ	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
175	漆器	柄部	II区A	5.0~	外縁 回転ナメ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良	
176	漆器	底部	II区A	10.2	1.2~	内縁 回転ナメ	丸くねり	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
177	漆器	口縁	II区C	20.7	3.0~	外縁 回転ナメ	—	—	新面特	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
178	漆器	柄部	II区C	4.75~	外縁 ハサフナ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良	
179	漆器	底部	II区A	12.4	1.0~	外縁 ハサフナ	—	—	新面	外縁 淡灰色	やわらか ありめらか	良
180	漆器	底部	II区A	—	—	—	—	新面	—	—	平安~中世	

地點	出土地点	口径	法面 (cm)	幅面	底面	特徴	色調	底土	構成	時代	備考	
180 御馬場 井	口縫	II 区	23.4	3.9~	外圓 圓孔ナデ	1次	2次	内面 ブラック	やや暗・白色砂質含む	平安~中世		
181 流通器 井	井桶	II 区 C		5.3~	外圓 ブルトナデ	不完全丸穴ナデ	—	外圓 青灰色	外圓 断面	平安時代		
182 流通器 井	井桶	II 区 A		5.7~	外圓 ブルトナデ	ハーフ	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世	同上	
183 流通器 口縫	口縫	II 区 G	6.7~	外圓 ブルトナデ	タコハケ	—	—	外圓 青灰色	外圓 断面	平安~中世		
184 流通器 口縫	口縫	II 区 B	7.0~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 ハーフ	内面 淡灰色	内面 断面	平安~中世		
185 流通器 口縫	口縫	II 区	7.5~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 淡灰色	内面 断面	平安~中世		
186 流通器 口縫	口縫	II 区 C	16.1	3.4~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 淡灰色	内面 断面	平安~中世	
187 流通器 井	口縫	II 区 C		3.2~	外圓 圓孔ナデ	—	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世		
188 流通器 井	口縫	II 区 A	14	3.2~	外圓 圓孔ナデ	—	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世		
189 流通器 井 (小)	口縫	II 区 A	10.9	2.9~	外圓 圓孔ナデ	—	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世		
190 流通器 井	口縫	II 区 A	11.5	2.9~	外圓 圓孔ナデ	ハゲツ	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世		
191 流通器 井	口縫	II 区 A	12.9	3.5~	外圓 圓孔ナデ	—	—	外圓 淡灰色	外圓 断面	平安~中世		
192 流通器 井 (小)	口縫	II 区 C (試査)		1.8~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 ブラック	内面 断面	平安時代		
193 流通器 井	口縫	II 区		0.65~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
194 流通器 井	口縫	II 区 A		1.3~	外圓 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
195 流通器 井	口縫	II 区	6.0~	内面 圓孔ナデ	—	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
196 流通器 井	口縫	II 区 A	8.9~	内面 圓孔ナデ	—	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
197 流通器 井	口縫	II 区	10.9	1.6~	内面 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
198 流通器 井	口縫	II 区	13.4	3.3~	内面 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
199 流通器 井	口縫	II 区	12.8	2.8~	内面 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
200 流通器 井	口縫	II 区 B	4.1	1.1~	内面 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		
201 流通器 井	口縫	II 区 B	6	1.3~	内面 圓孔ナデ	—	—	内面 淡灰色	内面 断面	平安時代		

器種	種類	部位	出土場所	法面(㎝)	断面	地所	1次	2次	3次	特徴		時代	備考
										色調	胎土		
器皿	谷盤	口縁	口縁	断面	胎土	1次	—	—	—	白泥質滑面	外黒	—	12世紀～室町期
202	白磁	底板	口縁	6	内面	1.3～	—	—	—	—	—	—	12世紀～室町期
203	青磁	口縁	II区C	12	外縁	2.2～	—	—	—	龍泉豆青～	外黒	—	12世紀～室町期
204	青磁	口縁	II区	1.35	内面	—	—	—	—	内側に思文化	外黒	—	12世紀～室町期
205	青磁	口縁	II区C	1.45～	外縁	—	—	—	—	龍泉系青磁	外黒	—	12世紀～室町期
206	青磁	口縁	II区B	2.8～	外縁	—	—	—	—	外縁豆青の波浪	外黒	—	12世紀～室町期
207	青磁	口縁	II区C	3.15～	内面	—	—	—	—	外縁豆青の波浪	外黒	—	12世紀～室町期
208	白磁	口縁	II区B	9.9	—	—	—	—	—	外面にしのぎ溝	外黒	—	12世紀～室町期
209	白磁	口縁	II区Ph	1.6～	外縁	—	—	—	—	口先	外黒	—	12世紀～室町期
210	青磁	口縁	II区D	2.55～	外縁	—	—	—	—	口先	外黒	—	12世紀～室町期
211	青磁	口縁	II区C	1.3～	外縁	—	—	—	—	内面	外黒	—	12世紀～室町期
212	青磁	口縁	II区C	2.15～	外縁	—	—	—	—	内面	外黒	—	12世紀～室町期
213	青磁	口縁	II区	3.4～	外縁	—	—	—	—	内面	外黒	—	12世紀～室町期
214	青磁	底板	II区	4.8	内面	17.5～	外黒	—	—	龍泉系青磁	外黒	—	12世紀～室町期
215	天目	口縁	II区C	12.3	外縁	4.7～	内面	内縁ナメ	—	底板・中国	外黒	—	12世紀～室町期
216	青磁	口縁	II区B	12.1	外縁	3.8～	内面	口縁ナメ	—	底板	外黒	—	12世紀～室町期
217	白磁	口縁	II区A	9	外縁	2.7～	内面	—	—	白磁質灰釉	外黒	—	12世紀～室町期
218	白磁	口縁	II区C	10.9	外縁	1.4～	内面	—	—	口先	外黒	—	12世紀～室町期
219	青磁	口縁	II区	—	外縁	—	—	—	—	内面	外黒	—	12世紀～室町期
220	青磁	底板	II区B	7.5	内面	2.25～	外黒	—	—	青白磁	外黒	—	12世紀～室町期
221	青磁	上半部	II区A	6	内面	4.55～	外黒	—	—	内面	外黒	—	12世紀～室町期
222	金付	口縁	II区A	10	外縁	4.5～	内面	—	—	金付	外黒	—	12世紀～室町期
										新規	—	—	—

地質	種別	部位	出土地点	深度(cm)	形態	特徴	色調	触土	構成	時代	備考		
砂質 粘土	器物	II 区	口径 II段	3.0~ 外縁	1次 —	2次 —	3次 —	二極ノク薄 外縁	淡灰色、赤色 外縁	黄褐色、空・斜陷入 外縁	初期 —		
3.5 彩赤鉄	口縁	II 区 II段	北朝鮮灰層 II段 A	3.0~ 内面	内面 ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	墨・赤・白の鉛筆色 有孔	新曲 柱	初期—江戸
223	磨	磨	II 区 II段	3.0~ 内面	内面 タキ	—	—	—	新曲 柱	淡灰色、赤色 外縁	黄褐色、空・斜陷入 外縁	初期 —	
224	磨	磨	II 区 II段	3.3~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	墨・赤・白の鉛筆色 有孔	新曲 柱	初期—江戸
225	中世土器	口縁	II 区 C	4.3~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	淡灰色、赤色 外縁	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
226	瓦	瓦	II 区 II段	10.8~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
227	瓦	瓦	II 区 II段	4.4~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
228	不明口縁	口縁	II 区	10.8~ 内面	内面 —	—	—	—	新曲 柱	淡灰色、赤色 外縁	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
229	瓦	瓦	II 区	— 内面	—	—	—	—	新曲 柱	淡灰色、赤色 外縁	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
230	瓦	瓦	II 区	19.6~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
231	瓦	瓦	II 区 II段	22.6~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
232	瓦	瓦	II 区	14.6~ 内面	内面 —	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
233	瓦	瓦	II 区 II段	11.7~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
234	瓦	瓦	II 区 II段	1.7~ 内面	内面 凹凸ナメ	—	—	—	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
器物	器物	II 区	口径 II段	— 内面	— 内面	— 内面	— 内面	— 内面	新曲 柱	黄茶色	黄褐色、空・斜陷入 外縁	中世—近世 —	中世—近世
番号	種別	出土地点	法度(cm)	底径 高さ	形態	特徴	色調	触土	構成	時代	備考		
225	鐵器	II 区	口径 II段	6.7~ 高さ	6.4~ 高さ	鋸歯き缺刃	青灰色	—	—	不明			
226	石器	II 区	口径 II段	2.4~ 高さ	2.4~ 高さ	上下二面を持ち多角に五状 に仕上がる	白色	材質 不明	近世以前				
227	土器	II 区	—	—	—	—	—	—	—	土器 調査用か?			
228	漆器品	II 区 A	—	—	—	漆厚	—	—	—	—			
229	不明品	II 区 A	3.7~ <td>0.9~</td> <td>3.7~<td>0.9~</td><td>漆厚</td><td>青灰色</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td></td></td>	0.9~	3.7~ <td>0.9~</td> <td>漆厚</td> <td>青灰色</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td>	0.9~	漆厚	青灰色	—	—	—		
230	漆器品	II 区 A	3.7~ <td>0.9~</td> <td>3.7~<td>0.9~</td><td>漆厚</td><td>青灰色</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td></td></td>	0.9~	3.7~ <td>0.9~</td> <td>漆厚</td> <td>青灰色</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td>	0.9~	漆厚	青灰色	—	—	—		
240	古物	II 区 C	2.5~ <td>0.3~</td> <td>2.5~<td>0.3~</td><td>外筒形 高さ</td><td>内部幅0.5cm、高さ4.5cm</td><td>天蓋元室</td><td>初期盛(622年)</td><td></td><td></td></td>	0.3~	2.5~ <td>0.3~</td> <td>外筒形 高さ</td> <td>内部幅0.5cm、高さ4.5cm</td> <td>天蓋元室</td> <td>初期盛(622年)</td> <td></td> <td></td>	0.3~	外筒形 高さ	内部幅0.5cm、高さ4.5cm	天蓋元室	初期盛(622年)			
241	古物	II 区 B	— <td>—</td> <td>—<td>—</td><td>内筒形 高さ</td><td>内部幅0.5cm、高さ6cm</td><td>元室通室</td><td>初期盛(622年)</td><td></td><td></td></td>	—	— <td>—</td> <td>内筒形 高さ</td> <td>内部幅0.5cm、高さ6cm</td> <td>元室通室</td> <td>初期盛(622年)</td> <td></td> <td></td>	—	内筒形 高さ	内部幅0.5cm、高さ6cm	元室通室	初期盛(622年)			
242	古物	II 区 C	2.3~ <td>0.15~</td> <td>2.3~<td>0.15~</td><td>外筒形 高さ</td><td>内筒形、丸錐な</td><td>不明</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></td>	0.15~	2.3~ <td>0.15~</td> <td>外筒形 高さ</td> <td>内筒形、丸錐な</td> <td>不明</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td>	0.15~	外筒形 高さ	内筒形、丸錐な	不明	—	—	—	
番号	種別	出土地点	法度(cm)	底径 高さ	形態	特徴	色調	触土	構成	時代	備考		
243	漆器	本山町南側	最大径 高さ	43.1~ <td>—</td> <td>2次 内面</td> <td>外表面分野にニコハケ 内面 凹凸円タキ</td> <td>青灰色</td> <td>墨・少しだけ白色砂斑、良好</td> <td>古墳時代</td> <td>やや珍</td>	—	2次 内面	外表面分野にニコハケ 内面 凹凸円タキ	青灰色	墨・少しだけ白色砂斑、良好	古墳時代	やや珍		
器		深山谷		37.2					金化				

第4表 遺構計測表

(単位:cm)

揭露遺構名	平面形	長軸	短軸			深さ			主軸	出土遺物
			最大	最小	平均	最大	最小	平均		
土坑1	だ円形	90	46			3			N-19°-E	土師器
土坑2										縹文土器・弥生土器・土師器
土坑3	だ円形	48	21			16			N-57°-E	
土坑4	不整形	122	49*			13			N-89°-W	土師器・近世磁器
土坑5	不整形	216	86			16			N-41°-W	
土坑6	だ円形	84	45~			9~			N-77°-W	土師器・焼土塊
石組み遺構1		420~	140~			120~				弥生土器・土師器・中世土師器
石組み遺構2		780~	165~			130~				弥生土器・土師器・近世陶器・近世磁器
石組み遺構3		300~	80~			79~				弥生土器・土師器
溝状遺構1		990	46	12	28.3	4			N-29°-E	土師器
溝状遺構2		720	28	16	23.5	2.5			N-27°-E	土師器・中世土師器
溝状遺構3		570	28	16	21.5	2			N-28°-E	土師器
溝状遺構4		584	30	13	22.3	3			N-24°-E	土師器
溝状遺構5		480	42	33	37.7	2			N-24°-E	土師器
溝状遺構6		45	20	15	17.5	5	3	4	N-13°-W	
溝状遺構7		185	19	12	15.3	5	3	4	N-2°-E	土師器
溝状遺構8		265	43	15	27.6	17	6	10.7	N-2°-E	土師器
溝状遺構9		298	35	18	28	9	6	7.7	N-2°-E	土師器
溝状遺構10		402	50	17	32	21	12	15.3	N-7°-W	土師器
溝状遺構11		410	32	20	25.6	9	8	8.3	N-11°-W	弥生土器・土師器
溝状遺構12		465	31	18	23.8	7	5	6	N-10°-W	土師器
溝状遺構13		519	29	18	23	12	5	7.7	N-9°-W	土師器
溝状遺構14		643	37	14	24.6	9	5	7.3	N-5°-W	土師器
溝状遺構15		325	35	10	23	8	6	7	N-8°-W	土師器
溝状遺構16		595	75	17	27.7	24	5	10.7	N-7°-W	縹文土器・弥生土器・土師器
溝状遺構17		465	30	16	23.2	8	4	6	N-7°-W	土師器
溝状遺構18		444	29	19	22.4	7	4	5.5	N-6°-W	土師器
溝状遺構19		295	28	15	22	6	3	4	N-3°-W	土師器
溝状遺構20		230	30	20	25.4	2	3	2	N-3°-W	土師器
溝状遺構21		100	31	20	24.3	6	5	5.5	N-1°-E	土師器

建物

ビットNo.	出土遺物
P1	中世土師器
P3	中世土師器

第5表 石器計測表

黒曜石剥片計測表

掲載No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
写1	1.5	0.9	0.3	0.5
写2	2.3	2.45	0.65	4.0
写3	2.05	1.75	0.75	4.0
非1	3.0	2.3	0.8	7.0
非2	3.75	2.2	1.0	9.0
非3	3.6	1.9	0.95	9.0
非4	2.35	1.45	1.0	5.0
非5	2.6	1.45	0.7	4.0
非6	1.3	1.15	0.55	2.0
非7	3.0	2.4	0.9	9.0
非8	1.85	1.3	0.5	2.0
非9	1.6	1.2	1.0	3.0
非10	2.5	1.5	0.65	3.0
非11	2.5	2.0	1.55	9.0
非12	1.5	1.6	0.3	1.0
非13	1.4	1.05	0.1	0.5
非14	1.3	0.75	0.4	0.5
非15	2.05	1.5	0.45	2.0
非16	1.6	1.1	0.4	1.0
非17	2.05	2.1	0.3	2.0
非18	2.15	1.1	0.8	2.0
非19	1.25	1.1	0.25	1.0
非20	1.25	0.45	0.15	0.5
非21	1.3	0.7	0.55	2.0
非22	1.45	1.15	0.15	1.0
非23	2.95	1.7	0.7	5.0
非24	1.1	0.95	0.3	1.0
非25	1.95	0.9	0.1	1.0
非26	1.35	1.1	0.2	1.0

その他石器計測表

掲載No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
写15	12.1	6.7	1.8	209.0
写16		1.85	2.4	10.0
写17	4.05	3.1	0.9	17.0
写18	2.5	1.4	0.9	5.0

安山岩剥片計測表

掲載No.	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
写4	3.2	1.5	0.55	2.0
写5	4.1	3.0	0.95	8.0
写6	4.45	3.55	1.25	50.0
写7	3.7	3.65	0.95	15.0
写8	4.2	2.55	5.5	11.0
写9	2.75	1.85	0.55	3.0
写10	2.35	1.8	0.6	2.0
写11	1.9	1.45	0.35	1.0
写12	3.6	2.15	0.6	4.0
写13	2.9	2.25	0.5	4.0
写14	2.2	1.7	0.45	2.0
非27	2.9	2.6	1.1	12.0
非28	3.4	1.2	0.8	4.0
非29	1.2	0.9	0.2	1.0
非30	2.4	1.95	0.5	2.0
非31	1.7	1.3	0.2	1.0
非32	1.85	1.75	0.35	2.0
非33	1.15	1.15	0.2	1.0
非34	1.7	1.3	0.7	2.0
非35	2.6	1.7	0.4	3.0
非36	3.15	2.5	0.5	7.0
非37	1.7	1.2	0.4	1.0
非38	2.4	1.9	0.45	4.0
非39	1.0	1.0	0.2	1.0
非40	1.8	1.6	0.5	2.0
非41	1.45	1.2	0.4	1.0
非42	1.6	0.8	0.15	1.0
非43	1.15	1.1	0.3	1.0
非44	1.85	1.5	0.25	1.0
非45	0.95	0.7	0.1	0.5
非46	0.9	0.75	0.1	0.5
非47	3.2	1.7	0.8	4.0
非48	2.1	1.45	0.5	2.0
非49	2.15	1.4	0.5	2.0

※写..は写真のみ掲載

※非..は非掲載

第6表 出土遺物分類表

時期	種別	器種	層位												その他	総計
			1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層	10層下	11層	12層	
	土器	深鉢 鉢 不明					4	1		2	3			1		2
	土器合計	削器 石核 石錐 石頭 石核(大型) 剝片 未製品	1	1			4	2	2	3		2		8		18
安山岩							1	1						1		3
安山岩合計														1		3
縄文時代	土器	石核 石錐 石頭 未製品	4	1	1	1	12	3	2					1		2
	土器合計		1	1			2		1					1		3
	黒曜石		1	1			2	7		1				1		2
	黒曜石合計		2	1			1	9	3	1				1		3
チャート	土器	石核 石錐 石頭?	2	2	1	1	2	9	1	2				12		31
チャート合計														1		1
	粘板岩系	石核?												1		1
	頁岩系	石核?												2		2
	頁岩合計													2		2
縄文時代合計			6	3	2	7	22	6	4	2	3	1	2	1	35	94
弥生時代	土器	小豆島 豆島 不明		20	32	1	12	11	44	47	9	2	6		2	3
	土器合計			20	32	1	12	11	44	47	9	1	6		27	211
	粘板岩系	石包丁	1											1		1
弥生時代合計			1	20	32	1	12	11	44	47	9	3	7		30	216
縄文・弥生	土器	車、甌 不明		4		1		11	4							1
縄文・弥生合計	土器合計			4		1		11	4						30	217
古墳前期	土師器	車、甌		4	11	4	1								12	31
	土師器合計			17	29	4	7	25	22	69	2	1			43	49
古墳前期合計				17	29	4	7	25	22	69	2	1			57	234

時間	種別	坏	器種	1% 壊	2% 壊	3% 壊	4% 壊	5% 壊	6% 壊	7% 壊	8% 壊	9% 壊	10% 壊	10周下届	11% 壊	12% 壊	その他	総計
	土器合計	坏																1
	壊																	1
	坏			1	9	5	28	3	2						9			1
	壊																	3
平安時代	須恵器	坏																3
	壊																	57
	坏																	1
	壊																	1
	須恵器合計	坏																1
	須恵瓦陶器	壊																1
	須恵瓦陶器合計	壊・壊																14
平安時代合計				2	14	5	43	4	4						10	81		10
平安～中世	須恵器	壊		1	2	2	10	2							1	1		1
	壊														1	83		3
平安～中世合計	須恵器合計	壊		1	3										1	1		20
中世前半	中世土師器	坏		2	5	2	10	2							7	28		7
	壊														9	64		5
	坏														26	187		41
	壊														55	277		55
	中世土師器合計	坏		18	43	3	20	120	18						1	4		4
	青磁	壊		1	4													5
	青磁合計	壊		1	4													5
	白磁	壊		1	2													2
	白磁合計	壊		1	2													7
	白磁器	壊		1	2	6	1	2							9	21		9
	退器合計	壊		1	2	6	1	2							9	21		9
中世前半合計				1	22	3	22	124	19						66	372		66
中世後半	中世土師器	坏		1	1	2	1	1	2						5	14		5
	壊														1	6		1
	坏														52	144		52
	壊														58	137		58
	白磁合計	坏		1	1										3	4		3
	白磁器	壊		1	1										1	1		1
	退器	壊		1	1										1	1		1
	白磁器	壊		1	1										1	1		1
	退器	壊		1	1										1	1		1
	花瓶?	壊		2	1	1									7	1		7
中世後半合計	壊器合計	壊		9	17	3	8	39	8						64	148		64

時期	種別	器種	1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層	10層下層	11層	12層	その他	統計
近世	磁器	壺														15	34
		合子		11	5											20	38
		不明														2	2
		磁器合計		8	22	37	2	1								57	127
		瓦質陶器		8	35	56	3	5								94	201
	瓦質陶器	不明														1	1
		瓦質陶器合計														1	1
		土師器														1	1
	土師器	不明														1	1
		土師器合計														1	1
近世～近代	陶器	甕	13	80	112	6	6	6								231	448
		片口		1	1	4		1								3	10
		鉢			1		2									2	2
		鑊														1	1
		瓶														1	1
	土瓶	土瓶														2	2
		黒鉢?														1	1
		小壺?														1	1
	火入れ? 烹器?	火入れ?														1	1
		不明														1	1
近代	陶器	磁器合計		1	23	17	2									37	67
		瓦質														53	96
		瓦質合計														1	1
		磁器														5	5
		磁器合計														5	5
	鉢器	鉢器														1	1
		キセル														1	1
		鉢器合計														60	103
	近代～近代合計	壺														2	2
		土鍋														15	20
		瓦管														1	2
近代	磁器	窓道具														19	27
		磁器合計														1	1
		陶器														4	4
	磁器	不明														5	5
		磁器合計														1	1
	瓦質	一錢硬貨														1	1
		瓦質合計														1	1
	近代合計															25	33

時期	種別	器種	1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層	10層下層	11層	12層	その他	統計
	土器																
	土器合計																
貝合計		シジミ															
	坏																
中世土器		皿															
	不明																
中世土器合計		1															
	盃坏(身)																
須恵器		壺・甕															
	壺		3														
	不明		1														
須恵器合計		9	36	5	15	132	23	50	17	3							
陶器		壺		13	36	5	15	132	23	50	17	3					
	陶器合計																
玄瓦		壺															
	玄瓦合計																
瓦		壺															
	瓦合計																
拂土塊		壺															
	拂土塊合計																
拂土塊		不明															
	石器																
石器合計		7	1	2	6	4	6	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6
鉢		元豐通宝															
	銭貨		1														
	銭貨	天豐元宝															
	刀子		1														
銛製品		刀子															
	銛製品	不明															
銛製品合計		1															
土師器		壺															
	土師器	特房															
	土師器	不明															
土師器合計		16	348	1	101	54	635	462	8	1	10	11	9	1728			
土製品		土罐															
	土製品	不明															
土製品合計		16	348	1	101	55	635	464	8	2	11	9	1732				
粘板岩系		不明															
粘板岩系合計		1															
粘板岩系		粘石															
	粘石	特殊															
	粘石	不明?															
不明		不明															
不明合計		32	395	7	116	2	661	528	4	5	20	1	170	2159	1410	533	674
總計		17	444	633	72	261	2631	653	2586	1410	533	674	1	1955	12413		

写 真 図 版



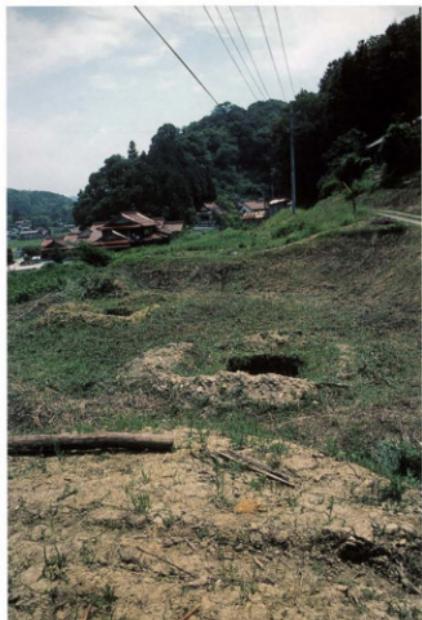
堂庭遺跡及び周辺 W-E

写真図版2





写真図版4



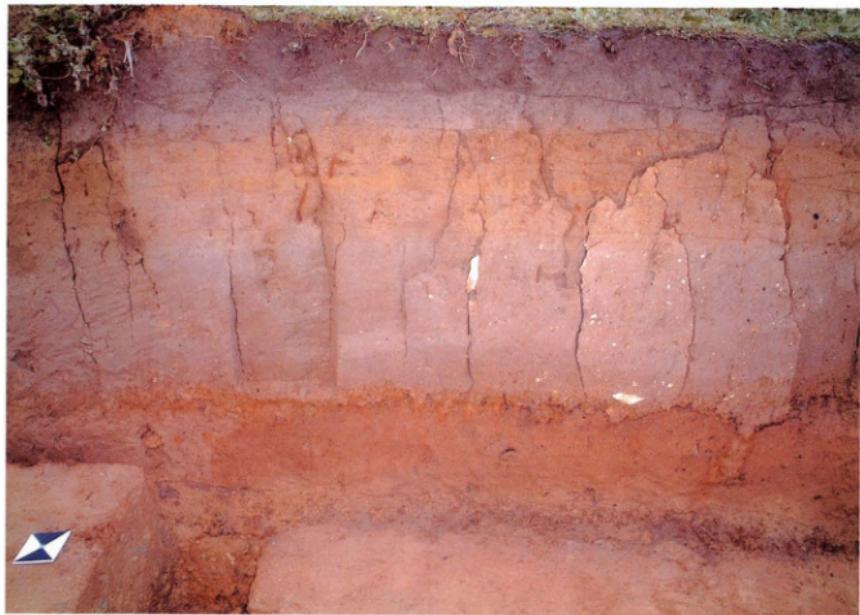
1区調査前 W→E



1区調査前 E→W



1区土層堆積状況 E→W



2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



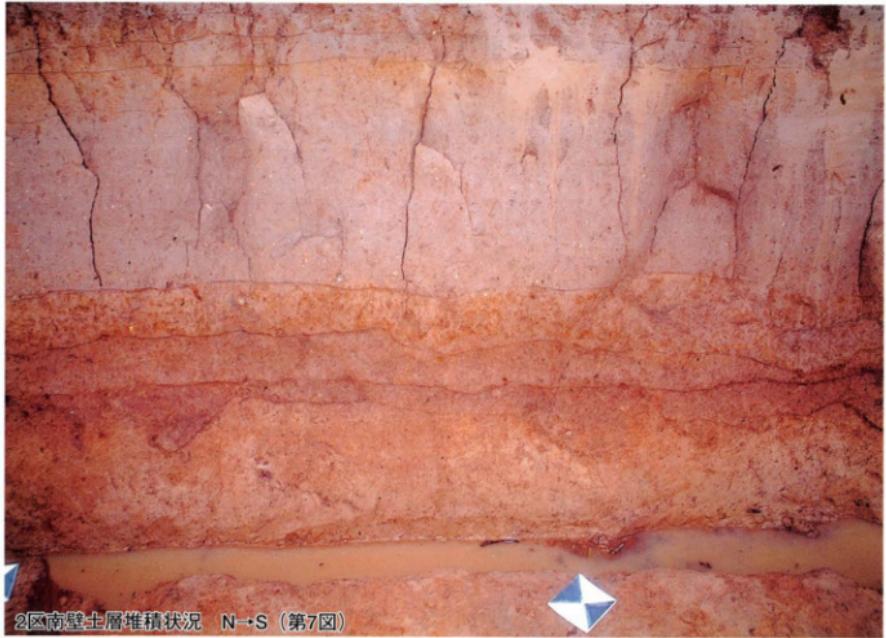
2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



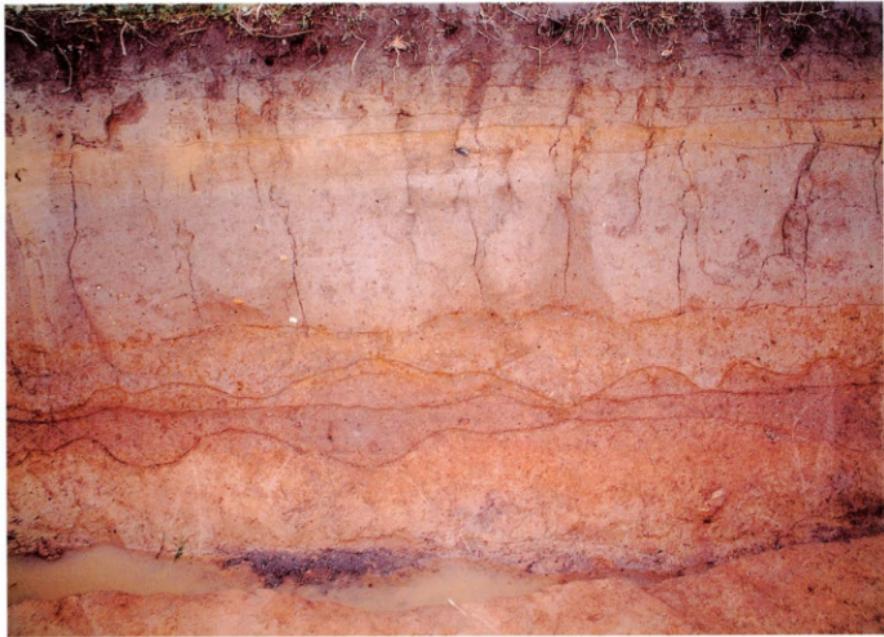
2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



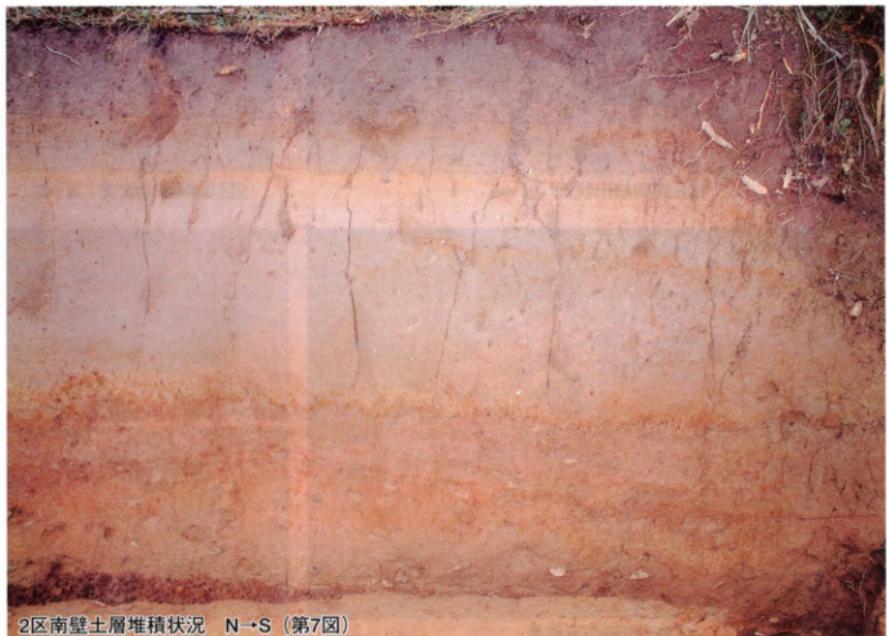
2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



2区南壁土層堆積状況 N→S (第7図)



2区南壁土層堆積状況 N→S（第7図）



2区南壁土層堆積状況 N→S（第7図）

写真図版10



2区南側完堀状況 N→S



2区遺構検出状況 E→S



2区建物検出状況 N→S



2区遺構完堀状況 N→S



2区南側作業風景



2区建物 P1



2区建物 P4



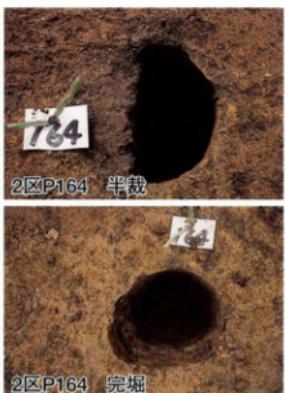
2区南側調査前 E→W



2区南側第1面 完堀 E→W



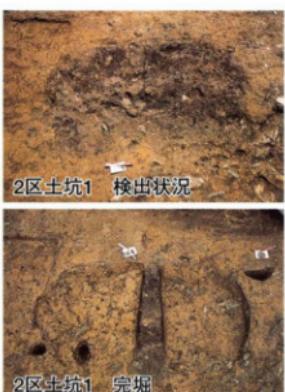
2区南側第1面 完堀 W→E



2区P164 完堀

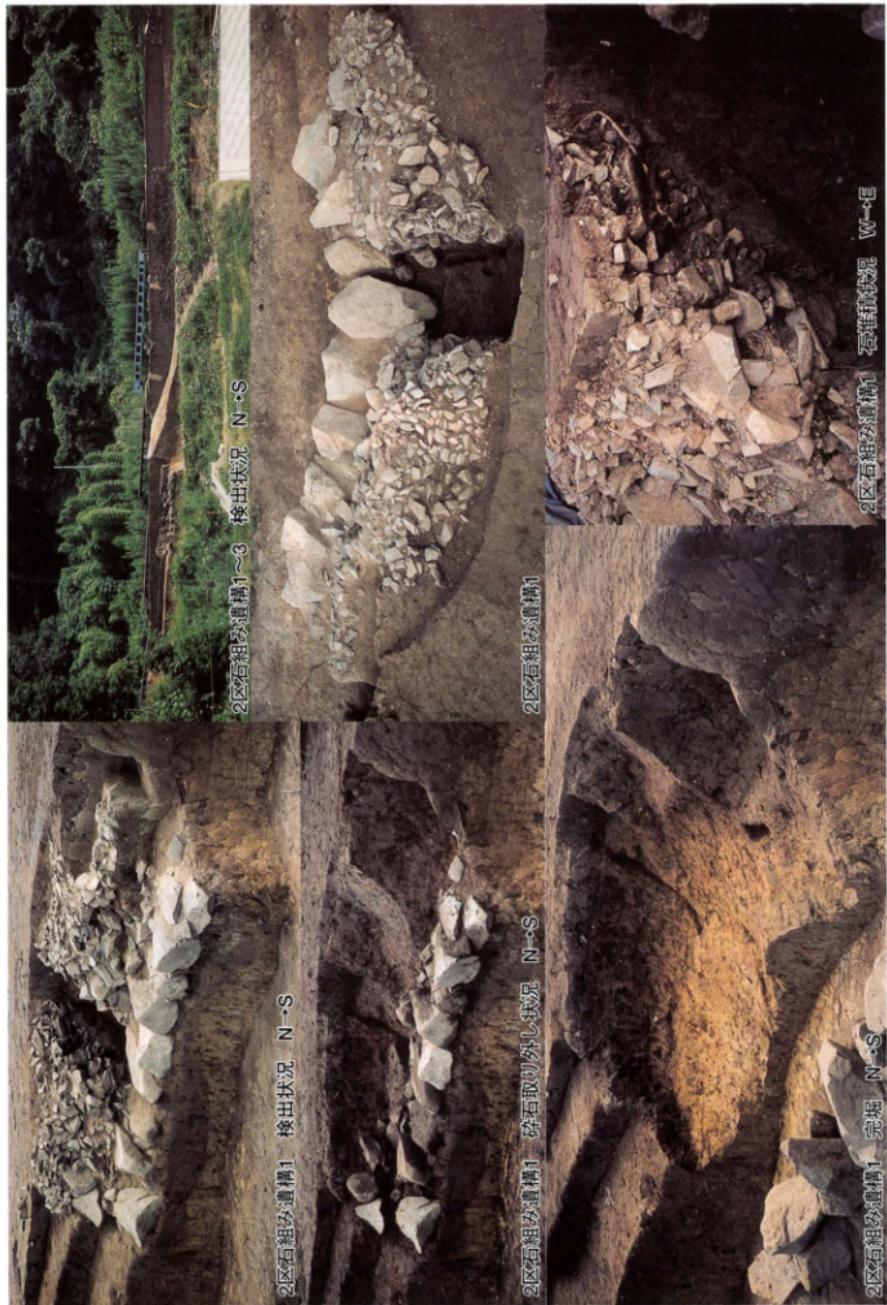


2区溝状遺構 1~5 N→S



2区土坑1 完堀

写真図版12





写真図版14



2区石組み遺構3 検出状況 N→S

2区石組み遺構3



2区北側土坑2 土層堆積状況 S→N (第12図)

2区石組み遺構3 石堆積状況 E→W



2区北側第3面 完堤状況 E→W



2区溝状遺構 検出状況 S→N

2区溝状遺構 検出状況 N→S



2区溝状遺構 検出状況 N→S

2区作業風景 E→W



2区溝状遺構7 検出状況 S→N

2区溝状遺構7 完堀状況 S→N

写真図版16



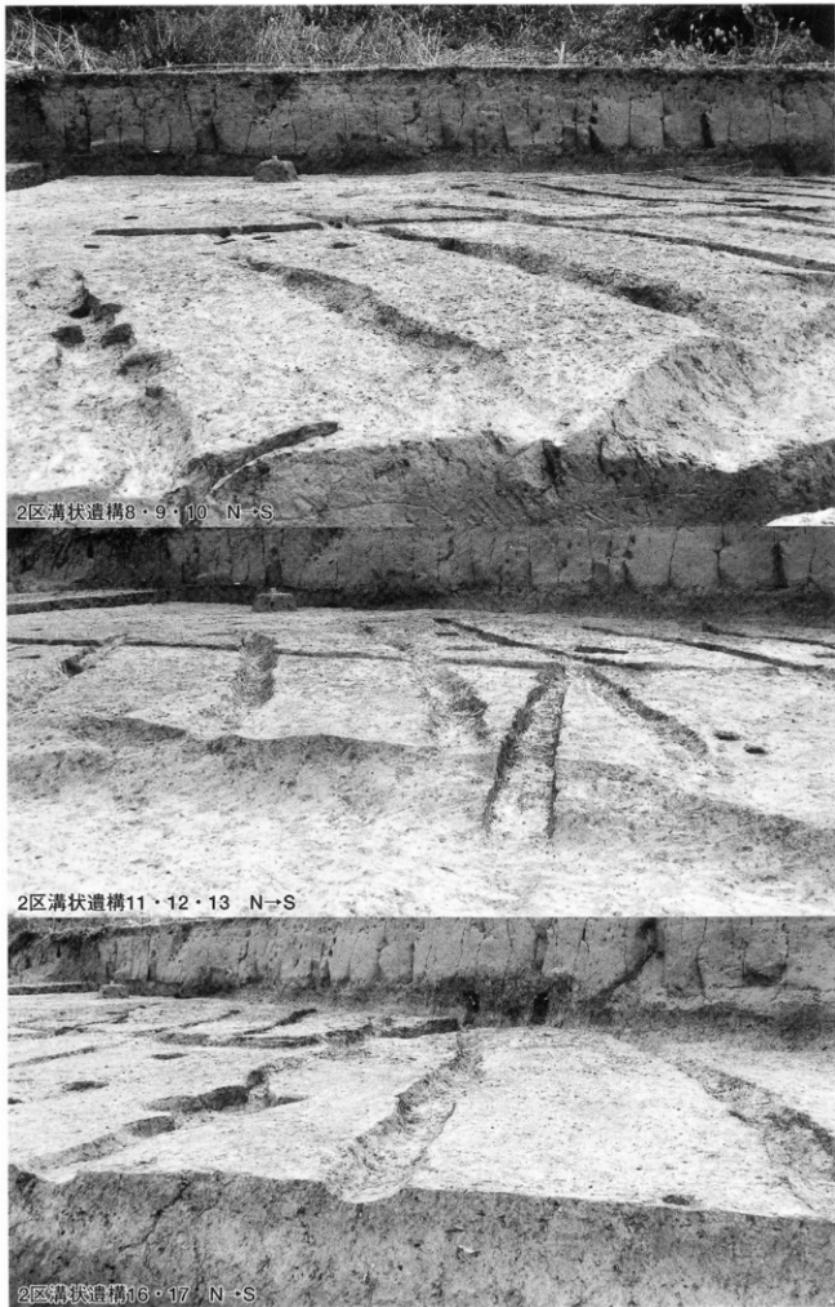


2区土器溜り1 N→S



2区土器溜り1 掘出状況

写真図版18





2区溝状遺構16・17 N→S

2区溝状遺構18 N→S



2区溝状遺構 完堀状況 E→W

写真図版20



2区土器溜り2 検出状況

2区土坑4 検出状況



2区第10面 土層堆積状況 E→W (第17図)

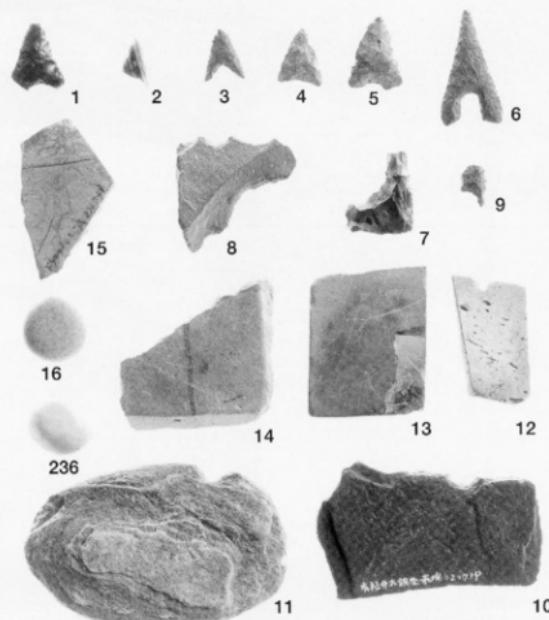


2区土坑4 完堀状況 S→N

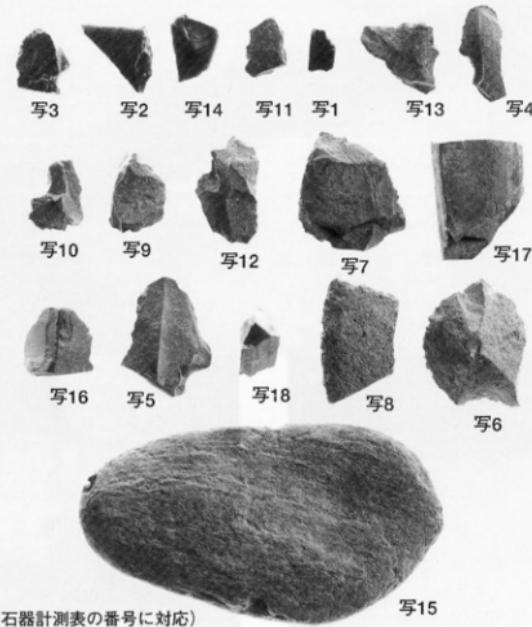


2区第6面 完堀状況 E→W

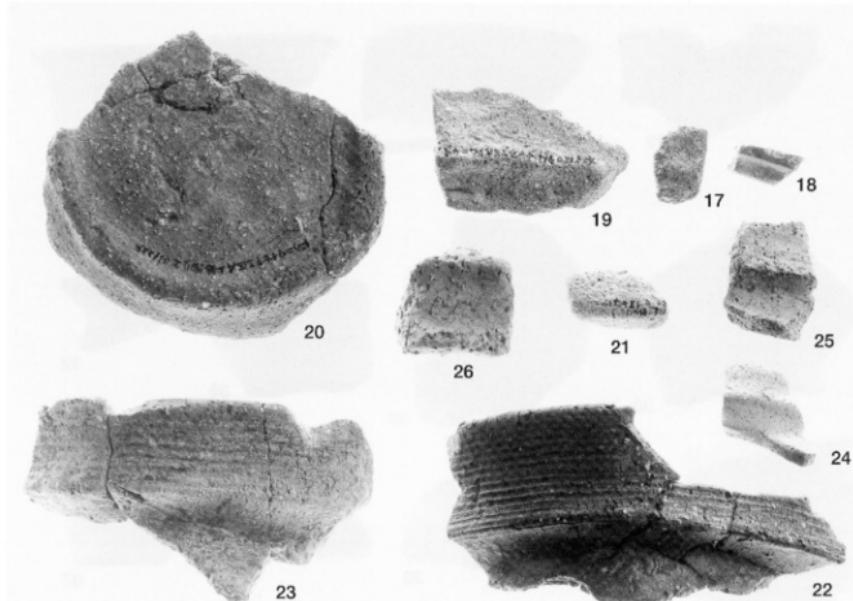




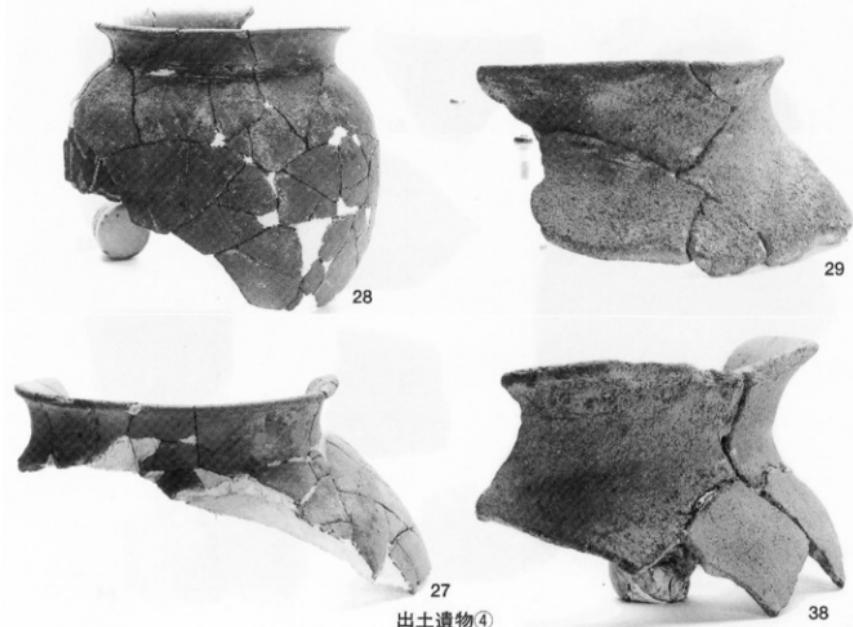
出土遺物①



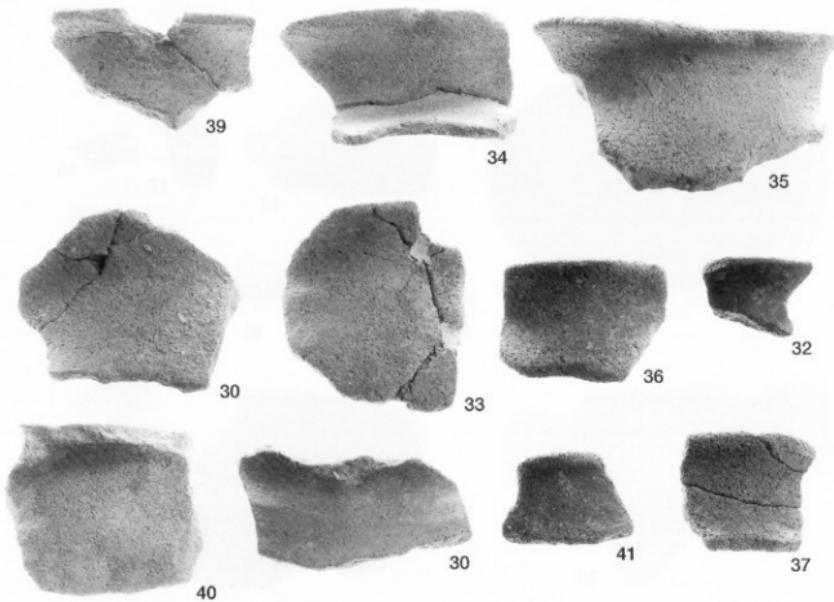
出土遺物② (数字は石器計測表の番号に対応)



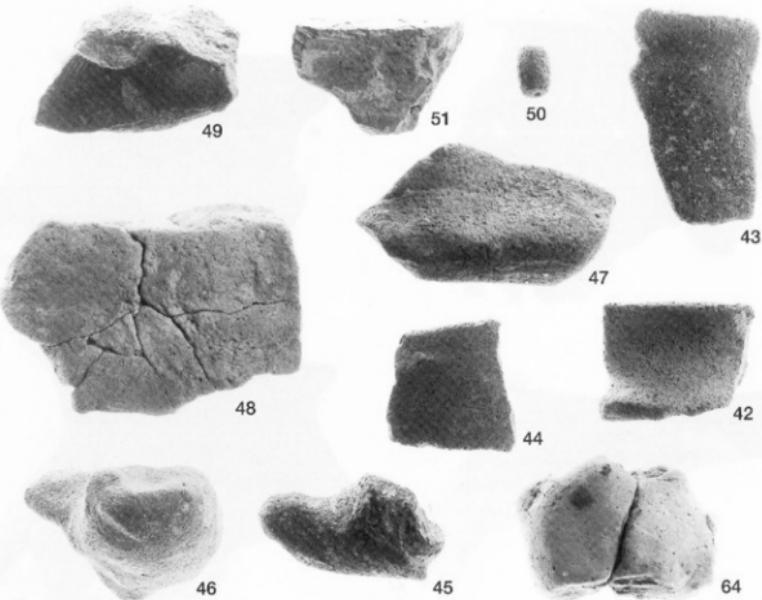
出土遺物③



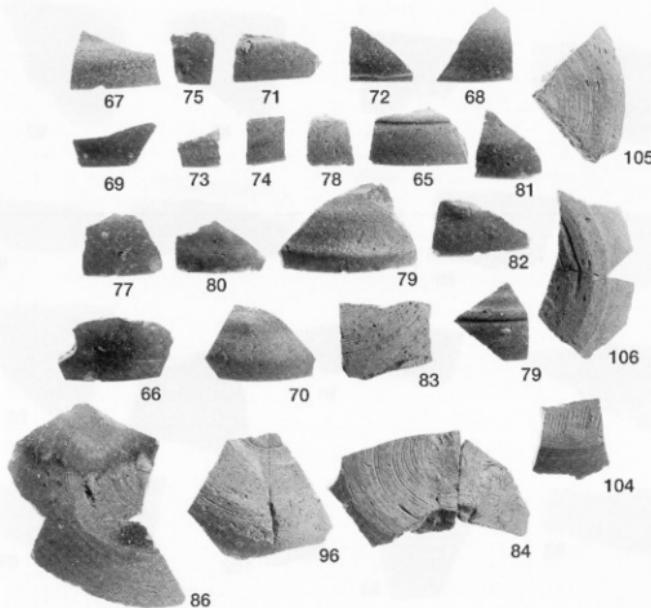
出土遺物④



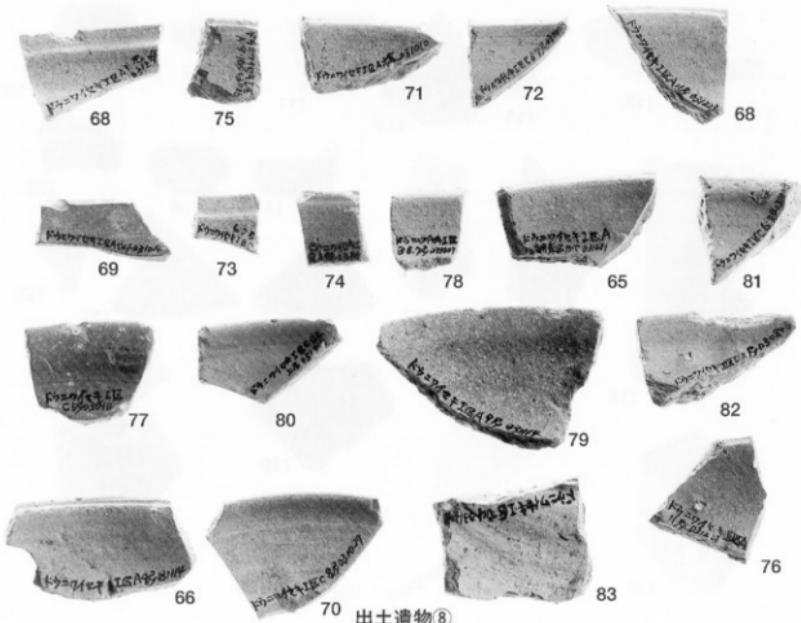
出土遺物⑤



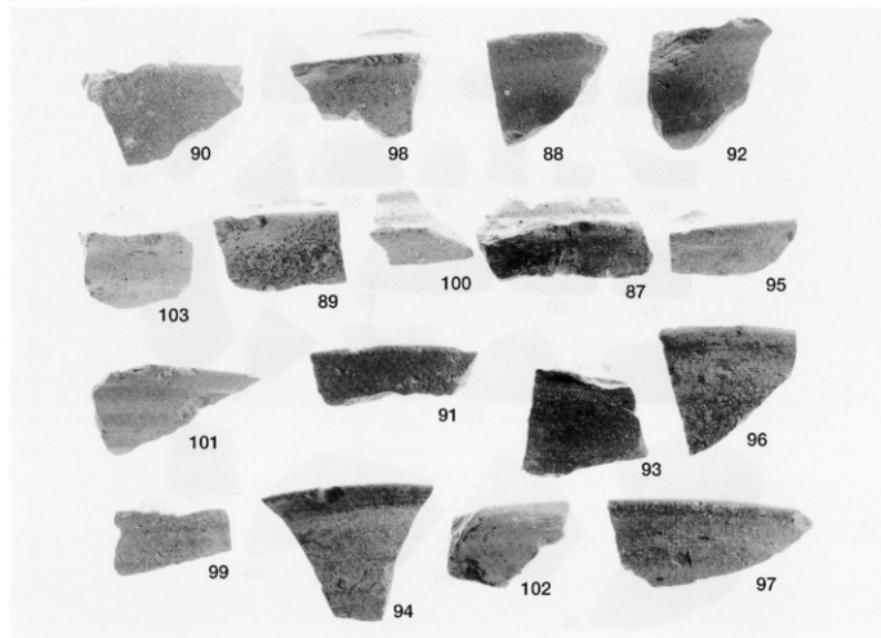
出土遺物⑥



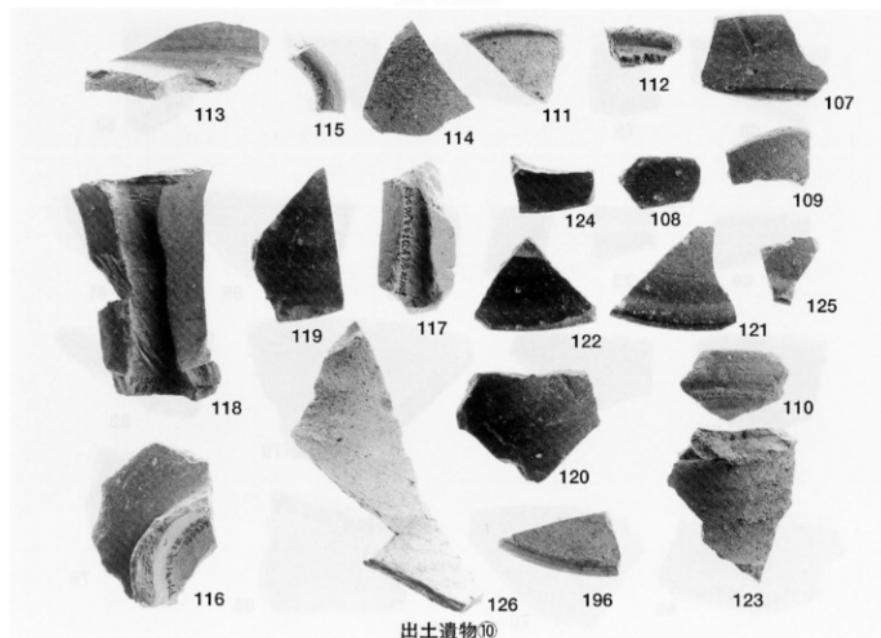
出土遺物⑦



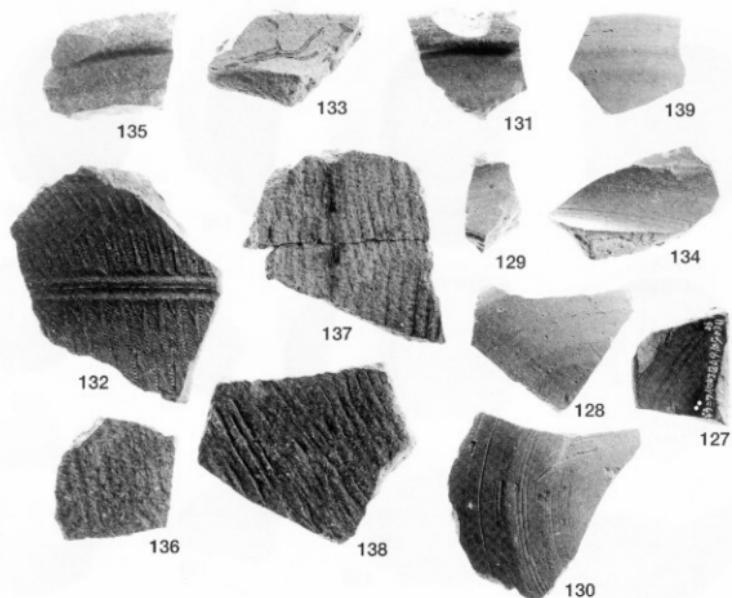
出土遺物⑧



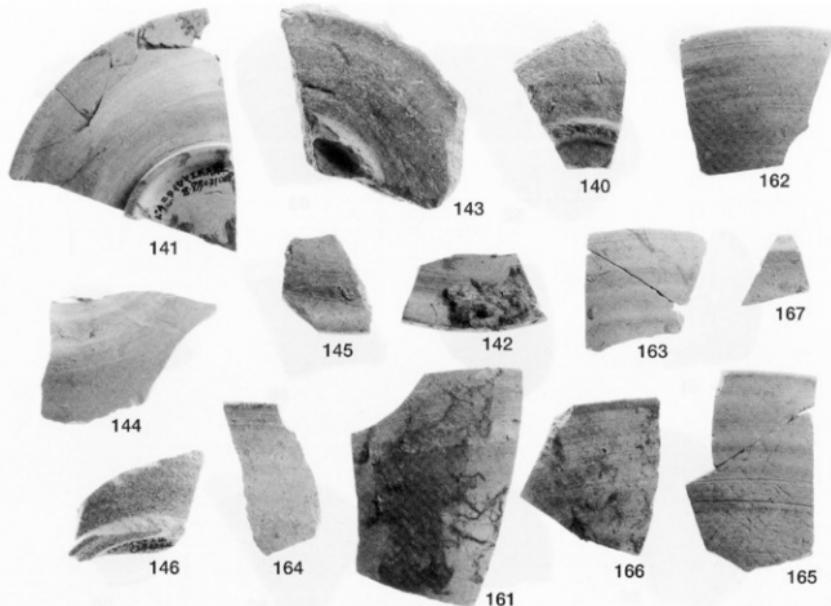
出土遺物⑨



出土遺物⑩



出土遺物⑪



出土遺物⑫